

一宅地何段歩 何何堤防決潰セシ爲メ流失又ハ土砂ヲ以テ埋没セリ

一田地何段歩 何何何

一海潮ノ高度(平潮ヨリ何何)著名ナル河川ノ水量(何川ハ平水ノ)其他參考トナルモノ

(發送期日)市町村長ハ事變ノ生シタル日ヨリ五日以内

●天變地異ニ關シ別ニ報告ヲ要スル事項ノ件

明治二十八年九月 示警甲第一八號警部長指示

警察署長宛

今般訓甲第三十四號(明治三十年一月訓甲第二號ニテ改定)ヲ以テ天變地異ニ關スル臨時被害報告例相定メラレ候處人ノ行衛不明ナルモノ又ハ溺死シテ其死體不明ナルモノ及船舶ノ流失若クハ是等ノモノノ漂著シタルトキハ左ノ様式ニ依リ捜査上必要ノ事項ヲ詳記シ速ニ報告セラレハシ

(第一號様式) (船舶並乗組人共行衛不明ナルモノ報告書式)

警察署名

左記ノ者共何月何日何船ニ乘組何地向ク航行後行衛不明ニ付

何月何日何海ニ於テ暴風ノ災ニ罹リタルモノト認メラレ

何船何丸何噸又ハ何石積或ハ長サ何間鐵札番號

持主住所 氏

名

(船體) 明治何年新造又ハ古船何色何何形等

(備考) 何側ニ何何ノ文字アリ又ハ何ノ箇所修繕アリ等

(附屬品) 何何

(搭載品) 何何

船頭住所

〔山口警〕

(人相) 何何

氏

年 齡 名

(著衣) 何何

氏

年 齡 名

乘組人住所 氏

年 齡 名

(第二號様式) (死體不明ノモノ報告書式)

番號

左記ノ者何月何日何船(何石積)何丸ニ乘組何月何日何海航行中船體轉覆

シ(又ハ何ノ事故ニヨリ海中へ轉落シ)行衛不明ニ付溺死シタルモノト認メラレ其死體ハ何縣何地方へ漂著ノ見込

何丸船頭又ハ船子或ハ乗組人住所 氏

年 齡 名

(人相) 何何

(著衣) 何何

〔山口警〕

(第三號様式) (船舶ノ流失シタルトキ報告書式)

番號

左記ノ船舶何港碇泊中(又ハ何海ニ於テ何ノ事故ニヨリ)流失

何船何丸何噸又ハ何石積或ハ長サ何間鐵札番號

持主住所 氏

名

(船體) 明治何年新造又ハ古船何色何何形等

(備考) 何側ニ何何ノ文字アリ又ハ何ノ箇所修繕アリ等

(附屬品) 何何

(搭載品) 何何

(第四號様式) (死體漂著シタルトキ報告書式)

番號

何月何日ノ暴風雨災害ニ罹リ溺死シタルモノト認ムヘキ左記ノ死體何月何日何地へ漂著

男(又ハ女) 屍一 軀 年齡

(人相) 何何

(著衣) 何何

右ノ死體ト共ニ左記ノ物品同所ニ漂著

一何何但何ノ徵證アリ

(第五號様式) (船舶又ハ物品ノ漂著シタルトキ報告書式)

番號

何月何日ノ暴風雨災害ニ罹リ流失シタルモノト認ムヘキ左記ノ何何何月何日何地へ漂著

警察署名

一何何但何徵證アリ

●天變地異ニ因セサル人ノ行衛其 他報告ノ件

明治二十九年十二月 示警甲第二八號警部長指示

警察署長宛

天變地異ニ關シ人ノ行衛不明ナルトキ又ハ溺死シテ其死體不明ナルトキ其他船舶ノ流失漂著等ノ際報告方ニ付テハ明治二十八年九月示警甲第十八號ヲ以テ及訓示置候處尙ホ天變地異ニ因ラサルモノト雖モ同様ノ場合ハ該訓示ニ依リ報告セラレハシ

●天變地異ニ關シ主務省へ報告方ノ件

明治二十八年九月 無號

訓甲第三十四號(明治三十年一月訓甲第二號ニテ改定)ヲ以テ天變地異ニ關スル臨時被害報告例相定候處其部ニ於テ該件ニ關シ主務省へ報告等左ノ通取扱フヘシ

一暴風雨災害等起ルトキハ左ノ例ニ依リ至急電報ヲ以テ内務大臣へ報告ノ手續ヲナスヘシ

文 例

今何時(暴風雨起ル天候不穩強震アリ)委細後ヨリ

一警察署長警察分署長等ヨリ即報ヲ受ケタルトキハ臨時取極メ合計ノ上左ノ例ニ依リ至急電報ヲ以テ内務大臣へ報告ノ手續ヲナスヘシ

文 例

昨夜何時ヨリ大雨何川増水何尺

昨(今)前(後)何時ヨリ暴雨起リ(強震アリ)

住家一棟ト計上シ若シ右一ト構ヘニ世帯チ別ニセル同居者アル場合ニ於テ全部流失シタルトキハ罹災戸數二戸住家一棟ト計上シ
車ニ倉庫一棟ノミ流失シタルトキ共有ナレハ罹災戸數二戸非住家一棟ト計上シ共有ナラサレハ罹災戸數一戸非住家一棟ト計上スルモノトス

●水害其ノ他災害報告ノ件

昭和四年六月二十日
保第八四〇四號警察部長指示

警察部長

水害其ノ他ノ災害ニシテ電話不通ノ場合ハ電報ニ依リ急速ニ報告シ其ノ電報ニ依ル場合ハ警察部長宛トシ左記符號ヲ使用之カ詳報ハ別紙水火震災取調表ニヨリ即報後七日以内ニ遅滞ナク書面報告セラルヘシ
追テ救護ヲ必要トスルモノニ有リテハ即報末尾ニ其ノ旨附記スルヲ要ス

電信符號

故 別 符 號 事 故 別 符 號

記號番號

「水」火「震」災取調表年月日ノ分

何警察署

市郡町	人			世			家			屋(棟數)
	死	傷	不明	全燒	半燒	流失	全燒	半燒	流失	
村名										
合計										

〔山口警〕

備考

〔山口警〕

- 一 埋没等アリタル場合ハ適宜其欄ヲ増加スルコト
- 一 市郡町村名ノ欄ニハ大災害ニシテ其ノ被害ノ廣大ナル場合ハ單ニ市郡名ノミテ記載シ市郡内一部ノ災害ニ係ル場合ハ市郡町村名ヲ記載ノコト
- 一 汽車電車及自動車ノ被害ハ其ノ種類及車輛數ヲ備考ニ掲記スルコト

記載例

- 第一項 世帯數
- 一 世帯數ハ普通世帯及準世帯ノ數ヲ計上スルコト
 - 二 普通世帯トハ住居及家計ヲ共ニスルモノヲイフ一人ニシテ住居ヲ有シ家計ニ立ツルモノ亦同シ
 - 住居ヲ共ニスルモノ別ニ家計ヲ立ツルモノ及家計ヲ共ニスルモノ住居ヲ異ニスルモノハ各一ノ普通世帯トス
 - 三 寄宿舍、病院、旅店、下宿屋、其他ノ家計ヲ共ニセサル者ノ集合スル場屋ニ在ル者ニシテ其ノ家計ヲ共ニセサルモノハ一場屋毎ニ一世帯ニ準ス
 - 四 一世帯ニ屬スル建物カ母屋離屋納屋又ハ物置等數棟ニ互ル場合ニ於テ其ノ内ノ一棟ノミ罹災シタル場合ト雖罹災世帯數中ニ掲記スルコト
 - 五 前號ノ場合ヲ除クノ外非現住ノ住家非住家ニ付テハ罹災世帯數トシテ掲記セス單ニ家屋被害欄ニノミ記入スルコト
- 第二項 住家
- 住家トシテ算スヘキモノハ大要左ノ如シ
- 一 (入)ノ居住ニ充ツル目的(現住非住ト問ハス)トスル建物
 - 二 人ノ收容ヲ目的トスル建物及之ニ準スヘキモノ

- (一) 官公署廳舍
 - (二) 學校圖書館
 - (三) 神社佛閣(堂宇其他ノ監守者アルモノ)
 - (四) 教會說教所ノ類
 - (五) 公會堂其他ノ公共ノミニ用供セラル、建物
 - (六) 銀行會社法人等ノ事務所又ハ營業所
 - (七) 工場
 - (八) 娛樂場建物
 - (九) 停車場建物
 - (一〇) 病院
 - (一一) 寄宿舍
- 第三項 非住家
- 非住家トシテ算スヘキモノハ大要左ノ如シ
- (一) 倉庫、土蔵、車庫
 - (二) 納屋物置
 - (三) 税關上屋
 - (四) 神社佛閣(堂宇其ノ他ノ管守者ナキモノ)
- 第四項 全半燒

全半燒ノ區別標準ハ大要左ノ如シ

(一) 可燃性物ヲ主要材料トスル建物

修補(小修繕ニテ足ルモノヲ除ク)ニ依リ再使用ニ堪フル程度ノ燒失
ヲ半燒再使用ニ堪ヘサル程度ヲ全燒トス

(二) 不燃性物ヲ主要材料トスル建物

不燃性ノ部分ヲ除キタル他ノ部分(雜作、家具、商品等)カ三分二以
上燒失シタルトキヲ全燒トシ達セサル燒失ヲ半燒トス但シ三分ノ二
以下ノ燒失ナルモ罹災ニ依リ建物力修補ニ依ルモ再使用ニ堪ヘサル
ニ至リタルトキハ全燒トス

(三) 一世帯ニ屬スル建物數棟ニ互ル時ハ世帯ノ全半燒ハ其ノ住居ニ
充ツル主タル建物ノ全半燒ノ別ニ依ル

第五項 全半燒

一 修補(小修繕ニテ足ルモノヲ除ク)ニ依リ使用ニ堪エ得ル程度ノ倒潰
ヲ半燒使用ニ堪エサル程度ノ倒潰ヲ全燒トス

二 一世帯ニ屬スル建物數棟ニ互ル時ハ世帯ノ全半燒ハ其ノ住居ニ充ツ
ル主タル建物ノ全半燒ノ別ニ依ル

第六項 棟數

棟數ハ獨立セル建物毎ニ計算ス但シ渡廊下等ニ依リ接續スルモノニシテ
其ノ主タル梁ノ接續ナキ建物ハ之ヲ各別棟ト看做ス

第七項 損害見積額調査範圍

本表ニ屬スル損害見積額ハ

巡查派出所 駐在所沿革表

〔山口警〕

(一) 建物

(二) 家財(官公署會社ノ什器什物工場ノ設備ヲ含ム)

(三) 商品、在庫品

(四) 農作物

(五) 現金有價證券(有價證券ニシテ再發行可能ノモノヲ除ク)

(六) 森林

トシ道路、橋梁、河川、堤防、上下水道、田畑等損害見積ハ各別ニ備
考欄ニ記入ノコト

第八項 損害見積額ニ算定

一 建物ニ付テハ全燒又ハ全潰ノ場合ハ建坪ニ依リ災害當時ノ時價ヲ標
準トシテ計算シ半燒又ハ半潰ノ場合ハ災害前セシ價格ヨリ災害後殘
存セル價額ヲ差引キタル差額ヲ掲グルコト

二 家財、商品、在庫品、農作物、有價證券ハ時價ニヨル

三 森林ニ付テハ災害前セシ價格ヨリ災害後ニ殘存スル價額ヲ差引キ
タル差額ヲ掲グルコト

●巡查派出所駐在所沿革表

明治三十二年三月二十日
訓警甲第三號

警察署 (警察分署)

其ノ署所轄巡查派出所駐在所ノ沿革及圖面ニ變更ヲ生シタルトキハ其ノ都
度左記書式ニ依リ報告スヘシ

何警察(分)署

〔山口警〕

所名	位置名	年創月日設	町受村名持	移轉廢止年月日及場所	屋賃	家屋數	家屋所有者	備考
何駐在所	何村字	何年何日	大字何村	何年何月何日何地へ移轉	何圓何十錢	何造	何村何某	何某ノ所有家屋一間何坪ヲ借り受ケ駐在所ニ充ツ
同	何々	何何日			何十錢	二階何坪 下間何坪	又ハ村共有	
同								
同								
同								
同								
同								

備考

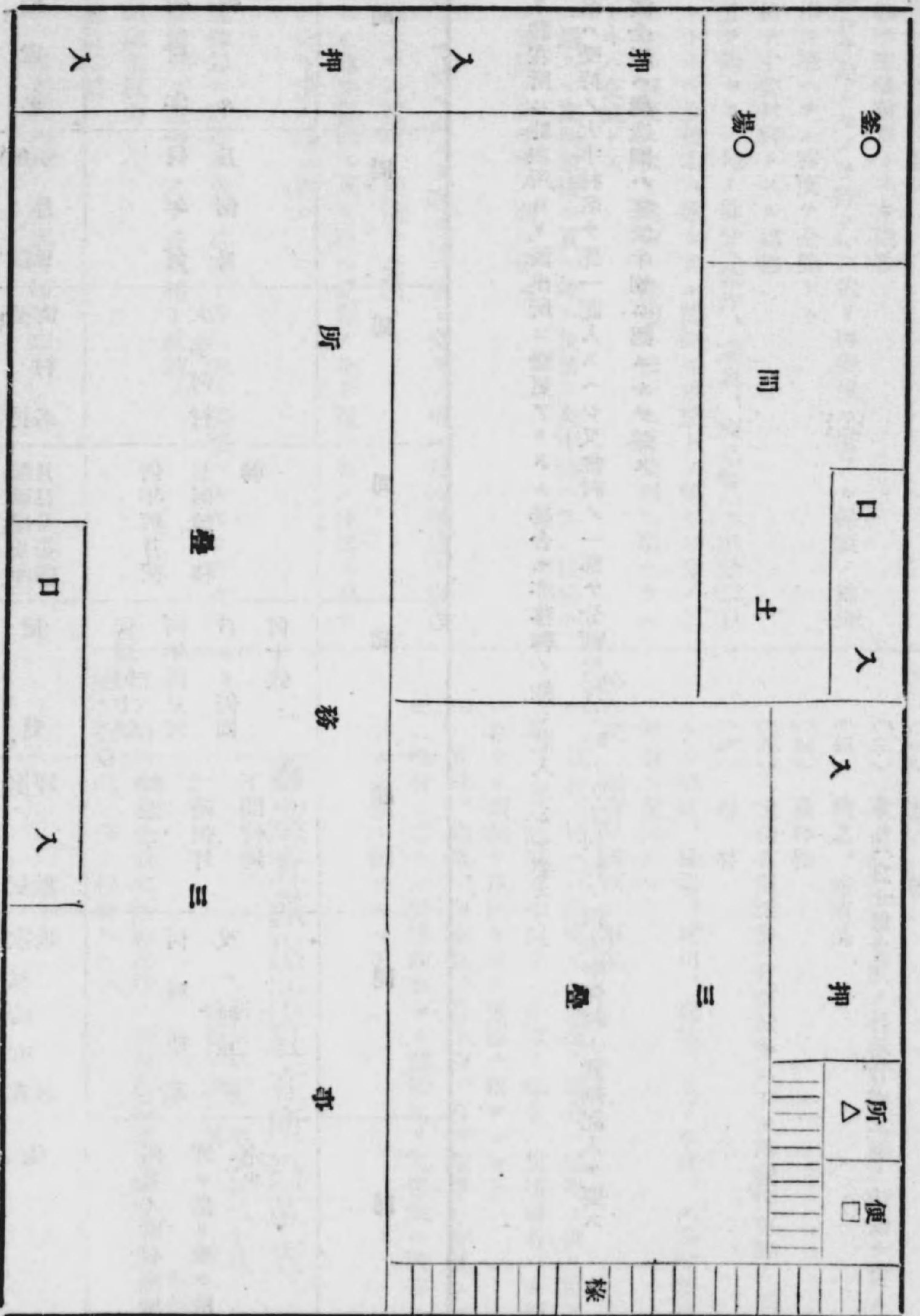
一、派出所ヨリ駐在所ニ駐在所ヨリ派出所ニ變更アリタル場合モ亦移轉ノ様ニ記入スルヲ要ス

一、受持町村名ハ受持ノ大字村名ヲ逐一記入スヘシ又他村ノ一部ヲ分割受持ツ時ハ矢張何村ノ内大字何村ト詳細記入ヲ要ス

一、地圖ハ美濃全紙ハ構造圖ハ美濃半切ニ認ムルヲ要ス

井戸

一 平房造洋館選ノ別區
 二 坪敷 何坪 二階 何坪
 一 總坪敷 何坪

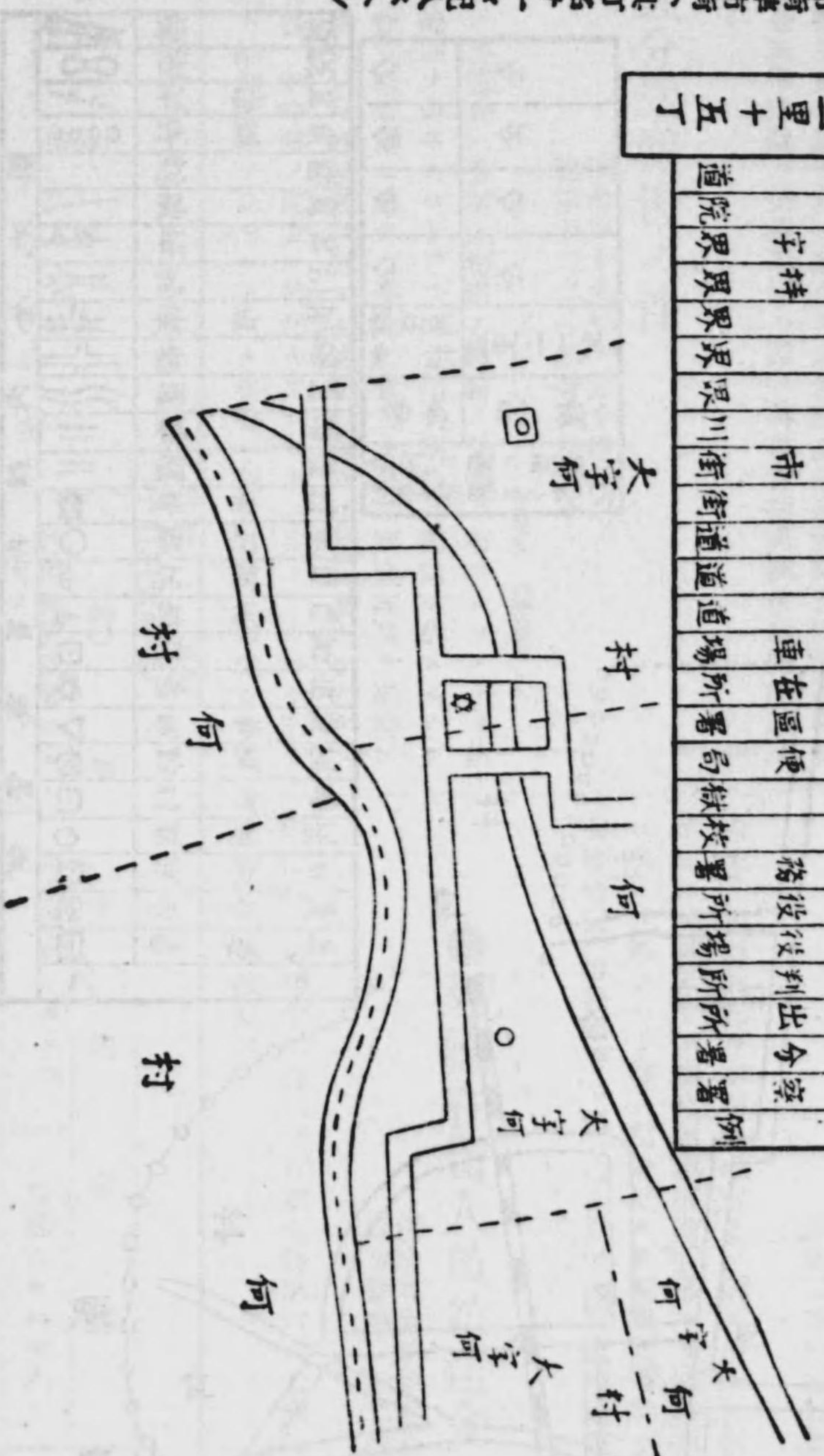


〔口口線〕

〔口口線〕

凡	警察署	例	凡	警察署
回	令署	回	令署	回
△	出所	△	出所	△
○	裁判所	○	裁判所	○
□	役場	□	役場	□
△	税務署	△	税務署	△
☆	學校	☆	學校	☆
□	郵便局	□	郵便局	□
○	駐在所	○	駐在所	○
○	車站	○	車站	○
○	國道	○	國道	○
	市道		市道	
	町道		町道	
	縣道		縣道	
	市街		市街	
	川		川	
○	池	○	池	○
○	地	○	地	○

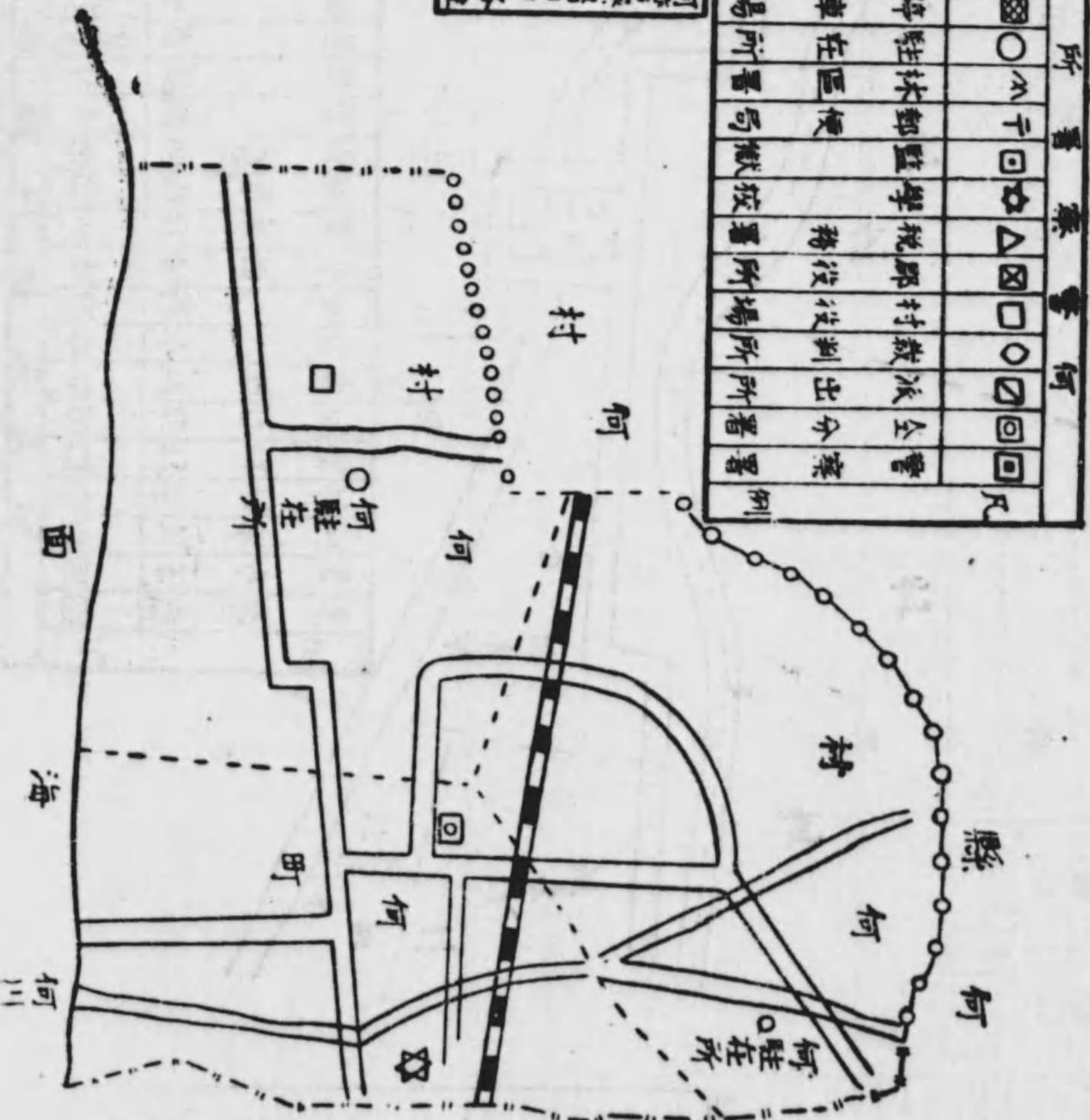
警察署へ三里十五丁



何警察署(何派出所)(何駐在所)受持全圖

- 一、駐在所々々在市街準市街へ其町名ヲ一々記入スベシ
- 二、市街準市街へ連續戶數人口其他へ接続ノ戶數人口接続モサル所へ故在ノ地ト記入スルヲ要ス

圖地全	内	籍	所	署	署	署	署	署	署	署	署	署	署	署	署	署	署	署	署	署
道院界	院界	院界	院界	院界	院界	院界	院界	院界	院界	院界	院界	院界	院界	院界	院界	院界	院界	院界	院界	院界
院界	院界	院界	院界	院界	院界	院界	院界	院界	院界	院界	院界	院界	院界	院界	院界	院界	院界	院界	院界	院界
院界	院界	院界	院界	院界	院界	院界	院界	院界	院界	院界	院界	院界	院界	院界	院界	院界	院界	院界	院界	院界
院界	院界	院界	院界	院界	院界	院界	院界	院界	院界	院界	院界	院界	院界	院界	院界	院界	院界	院界	院界	院界



【山口署】

● 巡查派出所駐在所ノ沿革及圖面變更ノ際報告方ノ件

本年三月二十日訓警甲第三號ヲ以テ訓令相成候巡查派出所駐在所沿革變更ノ際ハ地圖ハ美濃全紙構造圖ハ美濃半切ニ認メ御報告相成候様致度此段及通牒候也

明治三十二年七月二十四日
警甲發警第七〇號警務課長通牒

各署長宛

● 巡查分掌報告ノ件

明治三十九年六月十四日
警第三二二〇號警務長訓示

本署長宛

内勤、特務、刑事ノ各巡查ハ分掌上相當ノ職務ノ分擔ヲ有スルモノナリ然ルニ之ニ外勤務ノ補助ヲ命スルコトアラシキヤ本務ニ關如チ生スルノミナラス改正旅費月額支給規則ニ於テハ多大ノ費用ヲ要シ到底經費ヲ維持スルコト能ハサル次第ナルハ外勤務ニ對スル補助勤務ハ外勤巡查ヲシテ之ニ當ラシメ内勤、特務、刑事等ノ巡查ハ使用セザルコトニ定メラルヘシ若シ事情止ムテ得ス之方補助勤務ヲ命セントスル場合ハ豫メ日數ヲ限定シ申請

【山口署】

● 租借地官憲ト直接往復ノ件

明治四十三年三月二十八日
保第二四一七號警務長指示

各署長宛

セラルヘシ
特別手當ノ紛與チ受ケル巡查ヲシテ日數二十日以上出張セシムル場合ハ其ノ用件及出張者ノ分掌氏名ヲ直ニ報告セラルヘシ

● 外國在留人員送金ニ關スル件

明治四十三年十二月二十日訓令警第六六七號外國在留人員及送金額其他訓查表左ノ通改正ス

明治四十四年四月八日
訓令警第二三二號

本署長宛

國名		移民別	留外國人員在	計	年		送金		何警署(分)署	
移民非	移民在				額	人員	額	人員	額	人員
外國在留人員送金額調査表	(何)	外國郵便爲替ニ	正金銀行ニヨルモ	其他ニヨルモノ	計	額	人員	額	人員	
十二月末現在	(明治)	ルモノ	ノ	ノ	何警署(分)署					

由タルヘシ
四、各月別ノ口座ハ報告事項ノ増減變更ニ伴フ加除訂正ニ便ナラシム爲メ幾分ノ餘白ヲ存スヘシ
五、隨時指示セル事件ニ付テハ只掛札ニ件名及期限ヲ記載シテ主任者ニ注

意ヲ與ヘ報告後ハ文字ヲ抹消スヘシ
六、秘密ヲ要スル事項ニ付テハ掛札ニ記載スヘカラス
七、掛札ハ期限アル他ノ事務ノ處理ニ利用スルコトヲ得

自大正六年
至大正何年
期限事務整理簿

何警察〔分〕署

備考

- 一、イ號ハ月報半年報年報ニ分タス月別口座ヲ設ケテ整理セントスル簿冊ノ様式ヲ例示シタルモノ
- 一、ロ號ハ月報半年報年報ノ口座ヲ分チ而シテ更ニ月別ニ分チ整理セントスル簿冊ノ様式ヲ例示シタルモノ
- 一、ロ號ニ依ルトキハ月報半年報年報ノ口座ニハ各見出しヲ付スヘシ

(イ號)

件名	一月		提出先期限		進達		年月日	
	提出先	期限	進	達	年	月	日	
窃盗犯人家へ侵入ノ手	知事	十五日	大正六年	大正七年	大正八年	大正九年		
自殺者ノ住所及縁事上ノ關係	知事	十五日						
關係法令	明治三十七年九月 警第五八九九號 明治四十二年十二月 警第五八九九號							

〔山口署〕

〔山口署〕

件名	二月		提出先期限		進達		年月日	
	提出先	期限	進	達	年	月	日	
何々々	何々	何々	大正六年	大正七年	大正八年	大正九年		
何々々	何々	何々						
何々々	何々	何々						
關係法令	何々	何々						

備考 以下之ニ做テ

件名	關係法令		提出先期限		進達		年月日	
	提出先	期限	進	達	年	月	日	
何々々	何々	何々	一月	二月	三月	四月	五月	六月
何々々	何々	何々	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
何々々	何々	何々						
何々々	何々	何々						
關係法令	何々	何々						

備考

- 一、年二回以上報告スヘキモノハ月報中ニ整理スヘシ
- 二、半年報及年報記入年間ト同年間使用シ得ル如ク月報ノ部餘白ヲ存置スヘシ

一月			七月			進達		
何	何	件	何	何	件	何	何	件
々	々	名	々	々	名	々	々	名
何	何	關係	何	何	關係	何	何	關係
々	々	法令	々	々	法令	々	々	法令
何	何	提出	何	何	提出	何	何	提出
々	々	先期	々	々	先期	々	々	先期
何	何	限	何	何	限	何	何	限
々	々	進達	々	々	進達	々	々	進達
大正六年	大正七年	大正八年	大正六年	大正七年	大正八年	大正六年	大正七年	大正八年
月	月	月	月	月	月	月	月	月
日	日	日	日	日	日	日	日	日

備考 以下之レニ倣フ
年報

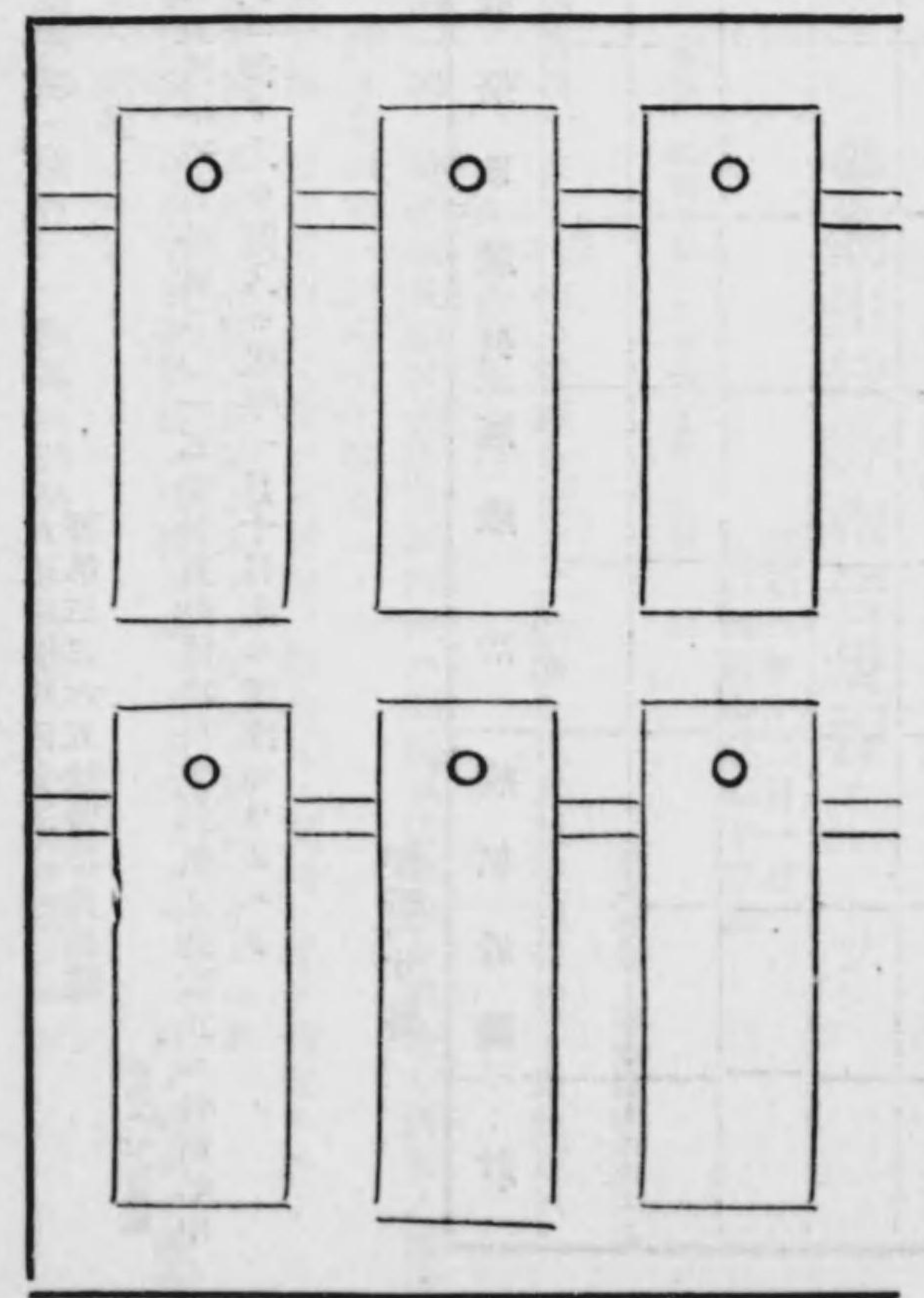
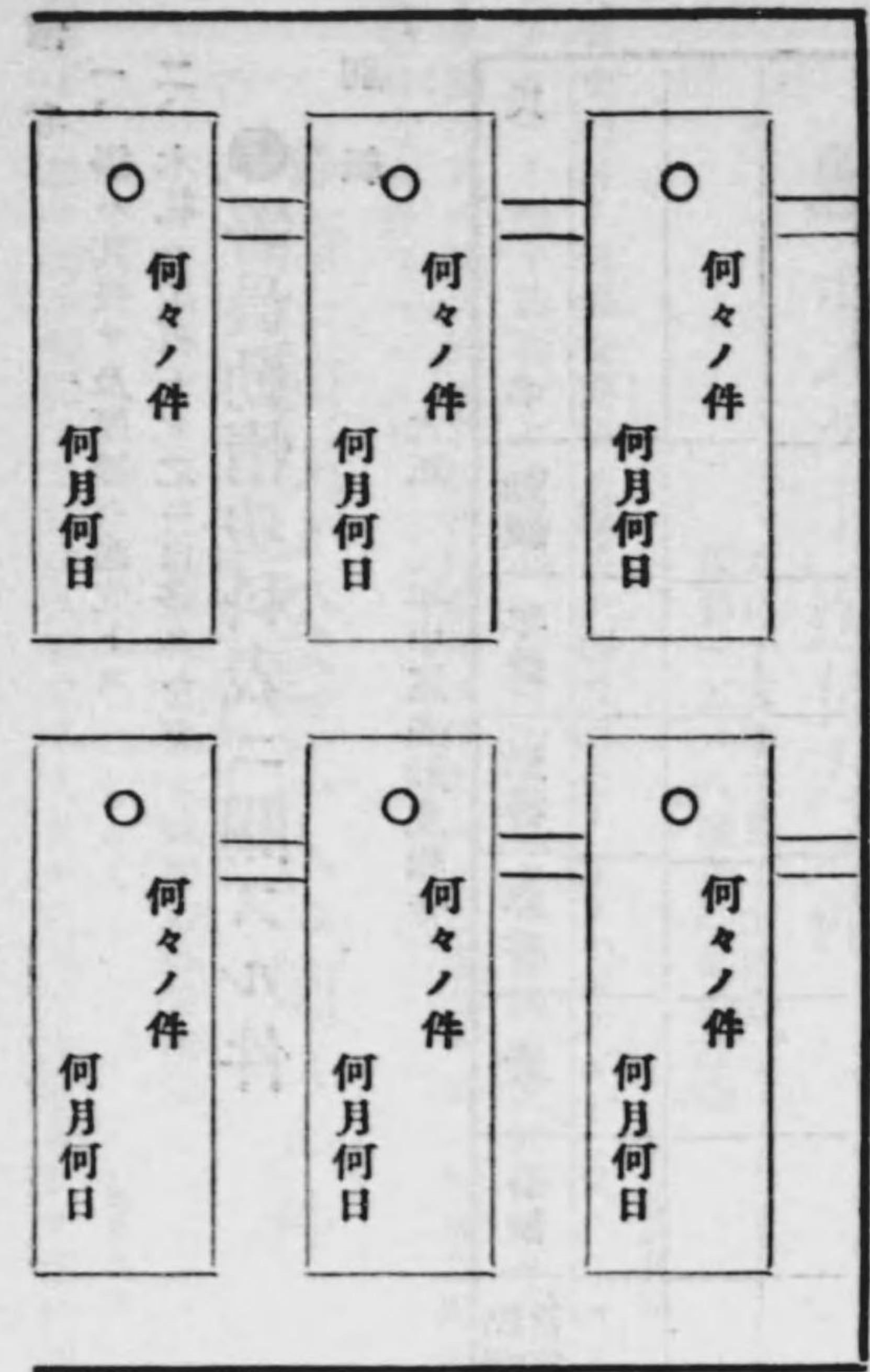
一月			七月			進達		
何	何	件	何	何	件	何	何	件
々	々	名	々	々	名	々	々	名
何	何	關係	何	何	關係	何	何	關係
々	々	法令	々	々	法令	々	々	法令
何	何	提出	何	何	提出	何	何	提出
々	々	先期	々	々	先期	々	々	先期
何	何	限	何	何	限	何	何	限
々	々	進達	々	々	進達	々	々	進達
大正六年	大正七年	大正八年	大正六年	大正七年	大正八年	大正六年	大正七年	大正八年
月	月	月	月	月	月	月	月	月
日	日	日	日	日	日	日	日	日

〔山口整〕

〔山口整〕

二月			進達					
何	何	件	何	何	件	何	何	件
々	々	名	々	々	名	々	々	名
何	何	關係	何	何	關係	何	何	關係
々	々	法令	々	々	法令	々	々	法令
何	何	提出	何	何	提出	何	何	提出
々	々	先期	々	々	先期	々	々	先期
何	何	限	何	何	限	何	何	限
々	々	進達	々	々	進達	々	々	進達
大正六年	大正七年	大正八年	大正六年	大正七年	大正八年	大正六年	大正七年	大正八年
月	月	月	月	月	月	月	月	月
日	日	日	日	日	日	日	日	日

掛札ノ雛形



第六節 報告事項中該當ノ事實ナキトキハ其ノ旨報告スベシ
第七節 校合檢算等ヲ嚴密ニ行ヒ表題ノ下ニ主任者認印スベシ

番號	報告事項	報告期限
第一	癩患者救護表	翌月五日
第二	燐含有殺鼠劑ニ依ル中毒患者並自殺者所爲別表	同
第三	花柳病患者表	翌月十日
第四	娼妓健康診斷施行成績表	同
第五	娼妓治療成績表	同
第六	密賣淫婦健康診斷表	同
第七	屠畜表	同
第八	牛乳試驗成績表	同
第九	乳製品表	同
第一〇	家畜斃死表	同
第一一	野犬驅殺表	同
第一二	結核患者表	七 翌年一月末日
第一三	中毒表	翌年一月二十日
第一四	清涼飲料水表	同
第一五	氷表	同
第一六	飲食物其ノ他物品檢査成績表	同

〔山口警〕

第一七	精神病者現在表	同
第一八	醫師現在表	同
第一九	開業醫ナ有セザル町村並開業醫ヲ得カ タキ爲補助金ヲ交付スル町村又ハ部落表	同
第二〇	齒科醫師現在表	同
第二一	藥劑師現在表	同
第二二	產婆現在表	同
第二三	看護婦及看護人現在表	同
第二四	鍼術、灸術、按摩術業者現在表	同
第二五	私立病院表	同
第二六	施療病院表	同
第二七	結核病院表	同
第二八	精神病院表	同
第二九	賣藥請賣並行商者表	同
第三〇	衛生ニ關スル違犯事件表	同
第三一	牛乳並乳製品表	同
第三二	山羊乳表	同
第三三	屠畜表	同
第三四	食肉輸入檢査成績表	同
第三五	恐水病及狂犬病表	同

第三六	娼妓健康診斷表	同
第三七	自衛的健康診斷表	同
第三八	自衛的局部(檢診)狀況表	同
第三九	花柳病預防藥實行調	同
第四〇	花柳病治療藥實行調	同
第四一	花柳病預防具實行調	同

〔山口警〕

第四二	古著、古本、消毒施行成績表	同
第四三	結核患者從業禁止者表	同
第四四	唾壺表	同
第四五	癩患者表	同
第四六	結核及「トラホーム」ノ各豫防法ニ依ル 行政處分表	同

報告期限翌月五日

第一	癩患者救護表 (何月分)		署名
	分	本年累計	
第一	道府縣立癩療養所ニ送致シタルモノ		
第二	扶養義務者ニ引渡シタルモノ		
第三	一時救護中ノモノ		
合	計		

第二	燐含有殺鼠劑ニ依ル中毒患者並自殺者所爲別表 (何月分)		署名
	男	女	
第一	其ノ一 燐含有殺鼠劑ニ依ル中毒患者		
計			

報告期限翌月五日

合計	誤用		他殺		自殺	
	未死	已死	未死	已死	未死	已死

其ノ二 自殺者所爲別

種別	入水シテ	刃物ニテ	銃又ハ火藥ニテ	噴火口ニ投シテ	燐含有殺鼠劑ヲ除ク毒物劇物ヲ服シテ	計	
						男	女

〔山口警〕

合計	其他	汽車ニ觸レテ	電車ニ觸レテ

〔山口警〕

報告期限 翌月十日

考備	第三 花柳病患者表 其ノ一 (何月分)		署名
	醫院又ハ病院所 在地市町村名	診療セシ醫院又ハ病院數	
	淋病		
	梅毒		
	軟性下疳		
	計		
	男		
	女		
	計		
	男		
	女		
	計		

一 本表ハ其ノ月中新ニ診察治療ヲ受ケタルモノニ付調査スヘシ
 二 主症ハ黒書シ併發症ハ該當病欄ノ左側ニ朱書スヘシ

其ノ二

考 備

- 一 營業者數ハ年末現在ニ依ル
- 二 輸入營業者ハ他ト之ヲ區別シ「米」印ヲ附シテ併記スベシ
- 三 製造營業者ニシテ輸入營業者ト兼メル者ハ他ト之ヲ區別シ「〇」印ヲ附シテ併記スベシ
- 四 同一營業者ニシテ二種以上ノ製造(輸入)ニ從事スル者ハ「同上製造(輸入)品種別營業者數」欄ニ於テハ之ヲ各品種ニ就テ計上スベシ

其ノ二 製造(輸入)總量

郡 市 別	製 造	卸 賣	製 造 者 數	製 造 數 量	同 上 ノ 内 不 合 格 品 數 量	卸 賣 者 數	卸 賣 數 量	不 合 格 品 處 分 量

一 本表輸入量ハ之ヲ區別シ「米」印ヲ附シテ併記スベシ

第一五 水表 (何年)

報告期限 翌年一月二十日

郡 市 別	製 造	卸 賣	製 造 者 數	製 造 數 量	同 上 ノ 内 不 合 格 品 數 量	卸 賣 者 數	卸 賣 數 量	不 合 格 品 處 分 量

〔山口管〕

〔山口管〕

考 備

- 一 本表ハ明治三十三年七月内務省令第三十七號水雪營業取締規則ニ依ルモノ、内飲食用ノ目的ヲ以テ製造シタルモノニ付其ノ製造及卸賣ヲ調査計上スルモノトス
- 二 製造並卸賣營業者數ハ年末現在トス

報告期限 翌年一月二十日

第一六 飲食物其ノ他物品検査成績表 (何年)

品 名	検査件数	同 上 中 有 害 件 数		有 害 件 数 ノ 取 締 規 則 別		營 業 營 業
		衛生上ノ危害ナキ方法ニヨリシメタルモノ	衛生上ノ危害有キ方法ニヨリシメタルモノ	取締規則	取締規則	

- 一 本表ハ衛生技術員ヲシテ行ヒタル検査ノ結果ハ警察部ヘ收去同付セシモノヲ含ムヲ掲クベシ
- 二 有害件数ノ處分ニ途以上ニ互ルモノハ其ノ主ナルモノニ依ルベシ
- 三 二以上ノ取締規則ニ抵触シ有害ト決定シタルモノニ付テハ「有害件数ノ取締規則別」欄ニ於テハ之ヲ各別ニ計上スベシ

考 備

一 本表ハ前表記載ノ業態以外ノモノニ就キ計上スルモノトス

報告期限 翌年一月二十日

第三一 牛乳並乳製品表 (何年)

署名

其ノ一 牛乳

郡 市 別	搾取販賣業者數	請賣業者數	搾取場數	乳牛頭數	搾乳量
					〔リットル〕
考 備					

一 營業者數、搾取場數、乳牛頭數ハ年末現在ヲ計上スヘシ

其ノ二 乳製品

郡 市 別	製造販賣業者數	煉乳	製乳	脱脂煉乳	造乳粉	乳	乳	乳	乳	乳
		量	量	量	量	量	量	量	量	量
		〔リットル〕	〔リットル〕	〔リットル〕	〔リットル〕	〔リットル〕	〔リットル〕	〔リットル〕	〔リットル〕	〔リットル〕
考 備										

〔山口管〕

〔山口管〕

考 備

一 前表牛乳搾取販賣業者ニシテ乳製品製造販賣ヲ兼メルモノハ本表ニ於テハ之ヲ區別シ「米」印ヲ附シ相當欄ニ併記スヘシ
 二 製造販賣業者數ハ年末現在トス

報告期限 翌年一月二十日

第三二 山羊乳表 (何年)

署名

郡 市 別	搾取販賣業者數	搾取場數	乳用山羊頭數	搾乳量
				〔リットル〕
考 備				

一 營業者、搾取場數、山羊頭數ハ年末現在トス

報告期限 翌年一月二十日

第三三 屠宰表 (何年)

署名

屠 場 名	動物別	頭數	體	重	肉	量
	牛					〔リットル〕
考 備						

其ノ一 屠場内屠殺

一本表中肉量ノ内ニハ内臓ヲ包含セズ

考 備	計	馬	豚	山 羊	綿 羊	犢	牛	動物 別		其ノ四 切迫屠殺ニシテ全部又ハ一部ノ廢棄ヲ命シタルモノ	
								頭 全	部	肉 廢	棄
								頭	部	肉	棄
								量	頭	部	肉
								頭	部	肉	棄
								量	頭	部	肉
								頭	部	肉	棄
								量	頭	部	肉
								頭	部	肉	棄
								量	頭	部	肉
								頭	部	肉	棄
								量	頭	部	肉
								頭	部	肉	棄
								量	頭	部	肉
								頭	部	肉	棄
								量	頭	部	肉
								頭	部	肉	棄
								量	頭	部	肉
								頭	部	肉	棄
								量	頭	部	肉
								頭	部	肉	棄
								量	頭	部	肉
								頭	部	肉	棄
								量	頭	部	肉
								頭	部	肉	棄
								量	頭	部	肉
								頭	部	肉	棄
								量	頭	部	肉
								頭	部	肉	棄
								量	頭	部	肉
								頭	部	肉	棄
								量	頭	部	肉
								頭	部	肉	棄
								量	頭	部	肉
								頭	部	肉	棄
								量	頭	部	肉
								頭	部	肉	棄
								量	頭	部	肉
								頭	部	肉	棄
								量	頭	部	肉
								頭	部	肉	棄
								量	頭	部	肉
								頭	部	肉	棄
								量	頭	部	肉
								頭	部	肉	棄
								量	頭	部	肉
								頭	部	肉	棄
								量	頭	部	肉
								頭	部	肉	棄
								量	頭	部	肉
								頭	部	肉	棄
								量	頭	部	肉
								頭	部	肉	棄
								量	頭	部	肉
								頭	部	肉	棄
								量	頭	部	肉
								頭	部	肉	棄
								量	頭	部	肉
								頭	部	肉	棄
								量	頭	部	肉
								頭	部	肉	棄
								量	頭	部	肉
								頭	部	肉	棄
								量	頭	部	肉
								頭	部	肉	棄
								量	頭	部	肉
								頭	部	肉	棄
								量	頭	部	肉
								頭	部	肉	棄
								量	頭	部	肉
								頭	部	肉	棄
								量	頭	部	肉
								頭	部	肉	棄
								量	頭	部	肉
								頭	部	肉	棄
								量	頭	部	肉
								頭	部	肉	棄
								量	頭	部	肉
								頭	部	肉	棄
								量	頭	部	肉
								頭	部	肉	棄
								量	頭	部	肉
								頭	部	肉	棄
								量	頭	部	肉
								頭	部	肉	棄
								量	頭	部	肉
								頭	部	肉	棄
								量	頭	部	肉
								頭	部	肉	棄
								量	頭	部	肉
								頭	部	肉	棄
								量	頭	部	肉
								頭	部	肉	棄
								量	頭	部	肉
								頭	部	肉	棄
								量	頭	部	肉
								頭	部	肉	棄
								量	頭	部	肉
								頭	部	肉	棄
								量	頭	部	肉
								頭	部	肉	棄
								量	頭	部	肉
								頭	部	肉	棄
								量	頭	部	肉
								頭	部	肉	棄
								量	頭	部	肉
								頭	部	肉	棄
								量	頭	部	肉
								頭	部	肉	棄
								量	頭	部	肉
								頭	部	肉	棄
								量	頭	部	肉
								頭	部	肉	棄
								量	頭	部	肉
								頭	部	肉	棄
								量	頭	部	肉
								頭	部	肉	棄
								量	頭	部	肉
								頭	部	肉	棄
								量	頭	部	肉
								頭	部	肉	棄
								量	頭	部	肉
								頭	部	肉	棄
								量	頭	部	肉
								頭	部	肉	棄
								量	頭	部	肉
								頭	部	肉	棄
								量	頭	部	肉
								頭	部	肉	棄
								量	頭	部	肉
								頭	部	肉	棄
								量	頭	部	肉
								頭	部	肉	棄
								量	頭	部	肉
								頭	部	肉	棄
								量	頭	部	肉
								頭	部	肉	棄
								量	頭	部	肉
								頭	部	肉	棄
								量	頭	部	肉
								頭	部	肉	棄
								量	頭	部	肉
								頭	部	肉	棄
								量	頭	部	肉
								頭	部	肉	棄
								量	頭	部	肉
								頭	部	肉	棄
								量	頭	部	肉
								頭	部	肉	棄
								量	頭	部	肉
								頭	部	肉	棄
								量	頭	部	肉
								頭	部	肉	棄
								量	頭	部	肉
								頭	部	肉	棄
								量	頭	部	肉
								頭	部	肉	棄
								量	頭	部	肉
								頭	部	肉	棄
								量	頭	部	肉
								頭	部	肉	棄
								量	頭	部	肉
								頭	部		

考 備

一 本表ハ其ノ三屠殺禁止頭數ト符合スルコト

其ノ六 全部廢棄病名別頭數		牛	犢	綿	羊	山	羊	豚	馬	計
病名	動物別									
法定家畜傳染病										
膿毒血症										
敗血症										
尿毒症										
強直症										
中毒諸症(人體ニ有害ノ虞アルモノ)										
黃疽										
水腫										
開放線菌腫										
瘡其ノ他										
開放性結核										
非開放性結核										

〔山口〕

其ノ七 一部廢棄病名別頭數		牛	犢	綿	羊	山	羊	豚	馬	計
旋毛蟲										
囊蟲										
サストマ										
炭疽又ハ其ノ産物ニ因ル汚染										
變性又ハ萎縮										
其他										
計										
考 備										

一 本表ハ其ノ三全部廢棄頭數ト符合スルコト

〔山口〕

其ノ七 一部廢棄病名別頭數		牛	犢	綿	羊	山	羊	豚	馬	計
病名	動物別									
法定家畜傳染病										
中毒諸症(人體ニ有害ノ虞アルモノ)										
黃疽										
水腫										
開放線菌腫										

三 豫防注射ヲ受ケタル人員「其ノ他」ノ欄ニハ狂犬病獸ニ非サルモノ又ハ狂犬病獸ニ疑ハシキモノニ咬傷セラレ豫防注射ヲ受ケタル者ヲ記載スヘシ但シ本號該當者ハ注射ヲ終了シタル者タルコトヲ要セス

其ノ二 狂犬病發生數

郡	市	別	犬	牛	馬	豚	羊	其他	計
考備									

報告期限 翌年一月二十日

娼妓健康診斷所名

第三六 娼妓健康診斷表 (何年)

其ノ一 健康診斷

遊廓名	貸座敷戸數	娼妓一日平均數	健康診斷延人員	同上中有病ト認メタル者
計				
考備				

- 一 遊廓ハ必スシモ一廓ヲ爲ササルモ娼妓稼業許可地ニシテ現ニ娼妓稼業ノ事實アルモノハ遊廓トシテ計上スヘシ
- 二 「貸座敷戸數」ハ年末現在ヲ計上スヘシ

〔山口警〕

〔山口警〕

- 三 「娼妓一日平均數」ハ一ケ年間毎月末現在數ノ和ヲ十二分シタルモノニ依ルヘシ
- 四 「健康診斷延人員」ハ一ケ年間診斷シタル總人員ノ延數ヲ計上スヘシ
- 五 「同上中有病ト認メタル者」ノ欄ニハ疾病ニ罹リ稼業ニ堪ヘサル者又ハ傳染性疾患アリト診斷シタル者ヲ掲ク可シ但シ一回ノ診斷チ一トシテ計算スルコト

其ノ二 有病ト認メタル者ノ病症別

遊廓名	徵毒淋病	軟下疳	剝脫	傳染性病	結核性病	癩病	ムトラホー	其他	計
計									
考備									

- 一 本表ノ計ハ其ノ一表「有病ト認メタル者」ノ數ト合致スルヲ要ス
- 二 有病者中一人ニシテ同時ニ二以上ノ疾病ヲ有スルモノハ本表病欄順ノ上位ニ該ル一ヲ主ナルモノトシテ計上シ其ノ他ハ併發病ト看做シ相當欄ニ「米」印ヲ附シテ併記スヘシ但シ「米」印ヲ附シタル數ハ合計中ニ算入スヘカラス

其ノ三 娼妓病院治療成績

院名	病名	病床數	患者數		同上延人員
			前年	本年	
考備					

前年末禁止者現在	本年			前年末禁止者現在
	禁	解	死	
現在患者	轉	出	亡	禁
	出	亡	禁	止

- 一 本年中禁止者ハ他署管内ヨリ入住セシモノヲ含ム
- 二 解禁トアルハ治癒シ從業禁止ヲ解除セシモノトス
- 三 本年中禁止者、解禁、死亡、轉出ハ何レモ其住所氏名並事由年月日等ヲ附記スヘシ

報告期限 翌年一月二十日

第四四 睡壺表 (一表) (何年)

場所別	在睡壺數	前年ニ比シ		睡壺ニ關スル命令件數
		増	減	
劇場				
病院				
學校				
計				
				以上件數内履行不履行件

〔山口警〕

〔山口警〕

一 本表ノ場所別ハ結核豫防法施行規則第二條及同施行細則第三條ノ順ニ依リ記載スヘシ

種別	有罪		無罪		計
	學	校	病	院	
睡壺ヲ配置セシ指定ノ期間ニ命令ヲ履行セス					
計					

報告期限 翌年一月二十日

第四五 癩患者表 (何年十二月末調)

區別	醫師ノ診計	警察官ノ認定	患者數		療養資力ノ有無
			男	女	
前年末現在患者					
本新患者					
年死					
年治癒					
年死亡					

署名

療養資力ノ有無

數

計

男

計

女

計

男

計

女

計

- 一 本表ニハ病床十個以上ヲ有スル病院(軍用ノモノヲ除ク)ヲ掲クヘシ
- 二 二種以上ノ診療科アルモノハ凡テ其ノ科名ヲ列記スヘシ
- 三 「レントゲン」設備ノアルモノハ其ノ數ヲ掲クヘシ

●衛生費其ノ他調査ニ關スル件

昭和六年二月十二日
衛第一二二六號警察部長指示

各署長宛

明治四十一年二月衛第一、一〇四號ヲ以テ指示シ置キタル標記ノ件別紙ノ
 通改正候條爾今前年度分(會計年度)ヲ其ノ署管内各市町村ニ就キ調査シ六
 月末日迄ニ報告セラルヘシ
 追テ本件ハ市町村ニ對スル傳染病豫防費補助額縣豫算編成上要用ナルニ
 付時々留意シ失期ナキ様取計ハレマシ

昭和 年度衛生費實支出額其ノ他調査表(其ノ一)		町 村 名	警察署名印
傳染病院數			
傳染病隔離病舎數			
傳染病院(隔離病舎、消毒所)建築(改築増築)費			
傳染病院(隔離病舎、消毒所)修繕費			
計			
豫防委員ニ關スル諸費			
市町村ニ於テ施行スル清潔方法、消毒方法及種痘ニ關スル諸費			
豫防救治ノ爲メ雇入レタル醫師其ノ他ノ人員並豫防上必要ナル器具藥品其ノ他ノ物件ニ關スル諸費			
傳染病院(隔離病舎、消毒所)ニ關スル諸費(建築、改築、増築、修繕費ヲ除ク)			
豫防救治ニ從事シタル者ニ給スヘキ手当療治料及其ノ遺族ニ給スヘキ救助料弔祭料			

〔山口書〕

〔山口書〕

豫 防 費		衛 生 費		果 計		總 計	
傳染病豫防法第八條ニ依レル交通遮斷隔離ニ關スル諸費及交通遮斷ノ爲又ハ一時營業ヲ失ヒ自活シ能ハサルモノ、生活費							
市町村ニ於テ發見セル貧民患者並死者ニ關スル諸費							
市町村ニ於テ施行スル鼠族ノ驅除及其ノ施設ニ關スル諸費							
傳染病豫防法第十七條ノ二ニ依レル家用水ノ供給ニ關スル諸費							
傳染病豫防法第十九條ノ二ニ依リ交付セル手當金							
衛生組合費補助金							
以上ノ外市町村ニ於テ施行スル豫防事務ニ關スル諸費							
計							
汚物掃除費							
共同便所費							
下水費							
其ノ他ノ諸費							
計							
總 計							

上(其ノ二)

現	住	人	口
---	---	---	---

備考

各表トモ全部會計年度ニ依リ調査スルモノトス
 隨ツテ入院患者等ニシテ年度ヲ越ユル場合ニ於テモ一應打切り計上スルモノトス
 其ノ二表中死亡數ハ「朱書」スルコト

● 巡査事務分掌受持異動報告表改

正ノ件

昭和四年五月一日
 警第一〇七一號 警務部長通牒

自今警部補、巡査部長、巡査ノ事務分掌、受持ノ異動ヲ命シタルトキハ左
 記様式ニ依リ即日報告セラレヘシ

各警署署長宛

警部補巡査事務分掌及受持異動報告表

命令月日	勤務別	分掌事務別	前分掌受持	異動ヲ命シタル理由	官氏名	備考
何月何日	巡査部長	高等	何警部派出所	缺員補充		
同	内勤	何巡査部長	司法	何	誰	
同	外勤	何村駐在所	特務(看守)	何	同	
同	外勤	何村駐在所	外勤署所在地	何	同	

記載例

- 一、勤務別欄ニハ巡査部長、内勤、刑事、特務、外勤ノ別ヲ記入スルモノトス
- 一、警部補、巡査部長ニ對シ行政、司法、刑事、高等等ノ分掌事務ヲ命シタルトキハ其ノ旨分掌事務別欄ニ記入スルモノトス
- 一、削除

〔山口警〕

〔山口警〕

第十三章 雜則

● 町村制施行後ノ町村公共事件ニ關スル件

明治二十二年十二月七日
 山口縣訓令第七十八號

〔部役所〕 町村役場

町村制施行ノ後ハ其町村全般ニ係ル公共事件ニ就テハ町村長ニ於テ其町村ヲ代表スヘキハ勿論ノ所從來ノ慣行ニ依リ右等事件ニ付猶其町村人民ヨリ總代ノ名義ヲ以テ書面差出候向モ有之不穩當ニ付以往其區分權限ヲ誤ラサル様篤ク注意ヲ加フヘシ

● 公用檢印字體ノ件

明治二十九年三月
 示警甲第一五號

公務上ニ使用スル檢印ハ字體明確ニ氏名ヲ彫刻スヘシ但シ一署中同姓ノ者アラハ氏名ヲ併刻スヘシ

● 掲示板設置ニ關スル件

明治三十二年二月
 發警第三五號 警務部長通牒

各警署署長 〔同分署長〕宛

凡テ警察上廣ク人民知悉ヲ要スヘキモノハ獨リ警察署ノ揭示場ニ掲クルノミナラス巡査派出所及巡査駐在所ヘモ自今便宜ノ場所ヘ揭示板ヲ設ケ事件ノ發生スル都度即時揭示スル様御承計相成度此段及照會候也
 追テ客月三十一日告示第十號人民ヨリ巡査派出所及巡査駐在所ヘ差出スコトヲ得ヘキ願同届ハ不斷掲載シ置カル、様致度申添候也

第一編 通則 第十三章 雜則

● 勤儉貯蓄ニ關スル件

明治三十五年十二月十五日
 訓警甲第二〇號 警務部長訓令

各署長 〔同分署長〕宛

勤儉貯蓄ノ義是迄及勸誘候處自今其署員左ノ方法ニ依リ各自貯金候様致スヘシ

- 一、各自毎月俸百分ノ二以上貯蓄スヘシ
- 一、賞與金ヲ受ケタルトキハ少クとも賞與金額ノ三分ノ一以上貯蓄スヘシ
- 一、貯蓄金通帳ハ警察署長分署長ニ保管ヲ託スヘシ
- 一、貯蓄金ヲ有價證券株券預金ニ代ヘントスルトキハ貯金ヲ引出シ其證券株券預金證ヲ警察署長分署長ニ保管ヲ託スヘシ

● 勤儉貯蓄ニ關スル件

明治三十五年十二月二十日
 警甲發第二一八號 警務部長通牒

各署長 〔同分署長〕宛

本月十五日附訓警甲第二十號ニテ勤儉貯蓄ノ件訓令相成候處從來各署ニ於テ貯蓄セル金額ハ當度御訓令ニ基ク所ノ貯金ニ繰入レ猶其通帳有價證券等ハ署長ニ於テ嚴重保管シ署員轉署ノ際ハ後任署長ニ直接送付シテ其授受ヲ明ニスル様御注意相成度右及通牒候也

● 電話機取扱方ノ件

明治三十九年四月
 警第二〇九六號 第四部長訓示

電話機取扱ニ付テハ屢々指示セシニモ拘ラス其ノ取扱方疎漏ニ基因シ機械ヲ破損セシムルモノアリ元來電話機ハ微妙ノ構造ナレハ若シ取扱ニシテ鄭

重テ缺トキハ直ニ破損ヲ來シ不通トナルニ依リ最モ慎重ヲ要スル次第ナ
ルニ各署ノ取扱上疎略ト認ムヘキモノ多シ今一二ノ例ヲ舉ケレハ左ノ如
シ

- 一 電話ヲナサントスルトキハ機械ノ把手ヲ回シ直ニ受話器ヲ耳ニ接シ返答
ヲ待ツヘキ規定ナルニ先方ヨリ信號アル迄ハ何回ニテモ劇烈ニ把手ヲ回
轉スルモノアリ
- 二 電話ヲナサントスルトキハ一應受話器ヲ耳ニ接シ若シ對話中ナルトキハ
直ニ受話器ヲ元ニ復シ對話ノ終ルヲ待ツヘキ規定ナルニ對話ノ有無ヲ確
メスシテ直ニ把手ヲ回轉スルモノアリ
- 三 他ヨリ呼出信號アルトキハ直ニ應答スヘキ規定ナルニ迅速之ニ應答セサ
ル爲先方ヲシテ數回呼出信號ヲナサシムルニ至ルモノアリ
- 四 機械ハ相當技術者ヲシテ之ヲ修理ナサシムヘキ管ナルニ妄リニ機械ノ
手入ヲナスモノアリ
- 五 受話器ハ對話ヲ終レハ直ニ元ニ復スヘキ規定ナルニ元ニ復サスシテ他ノ
器物ノ上ニ置クモノアリ
- 六 通信ハ公務上ニ限リ之ヲナスヘキ規定ナルニ公務ノ終ニ於テ雜談ニ時ヲ
移スモノアリ
- 七 彼上一ヨリ四迄ノ事例ハ機械ヲ破損セシムヘキ主ナル原因ニシテ延テ通
信ノ敏捷ヲ缺クモノニシテ五六ノ事例ハ通信ヲ阻害スルモノナリ就テハ
爾今警察電話取扱規程ヲ勵行セラルヘク若シ將來前顯ノ事例ノ如キ取扱
ヲナス者アルトキハ相當問責スヘキニ付克ク都下ヲ督勵シ遺策ナキ様措
置セラルヘシ

●勤儉貯蓄ニ關スル件

〔山口警〕

明治三十九年十月六日
警第五一七八號第四部長訓示
警察署長〔同分署長〕宛
勤儉貯蓄ニ關シテハ明治三十五年十二月訓警甲第二十號訓令ノ次第モ有之
候處自今増修賞與其他手當金等ノ臨時ノ給與ヲ受ケタル場合ハ必ス其額ノ
二分ノ一以上ヲ貯蓄セシムル様充分督勵セラルヘシ

●巡查貯金拂戻ニ關スル件

明治三十九年十月三十日
警第一〇六八號警務長訓示

警察署長〔同分署長〕宛
勤儉貯蓄ノ必要ニ付テハ屢次訓示セシ次第モ有之各巡查ニ於テモ此主旨ニ
基キ著々實績ヲ奏シ來候處右ハ素ヨリ一朝不時ノ必要ニ際シ其拂戻ヲ申請
スルハ萬不得已事情ノ之ニ伴フアルハ言テ俟タサル儀ニ候得共之ヲ補充ノ
途ヲ講セサレハ徒ラニ其主旨ニ反スルノミナラス將來勤儉獎勵上影響スル
處不尠候條右拂戻ヲ申請スルモノニ對シテハ署長ニ於テ篤ク注意ヲ拂ヒ猶
相當補填ノ途ヲ講セシメ其額未副申セラルヘシ

●勤儉貯蓄及品行保守ニ關スル件

明治三十九年十二月二十九日
警第五一七八號警務長訓示

勤儉貯蓄ニ關シテハ本年十月六日警第五一七八號訓令ヲ以テ一層督勵スヘキ旨
訓示セルニ依リ之ニ基キ勤儉ノ德ヲ養成シ居ラルコトト信スルモ本年ノ
如キ増修賞與其他ノ諸給與ニシテ多額ナルニ於テハ特ニ二分ノ一以上ヲ蓄
積シ濫費ヲ防止スルコトニ努メ且歲末年首ニ際シ清楚ナル小集ハ敢テ抑制
スルニアラサルモ都下ト共ニ忘年會又ハ新年會ト稱シ婦女女子ヲ侍セシメ會

〔山口警〕

飲スルカ如キハ最モ謹慎ヲ加ヘ部下相會スルモ斯ルコトナキ時期シ充分戒
飾シ終始一貫警察官タルノ品位ヲ保チ素行ヲ紊ルコトナキ様注意セラルヘ
シ

●勤儉貯蓄ニ關スル件

明治四十二年八月二十七日
警第四四五〇號警務長通牒

各警察署〔同分署長〕宛
明治三十五年十二月訓警甲第二〇號勤儉貯蓄ニ關スル訓令中第五號貯金引
出ニ付テハ自今貯蓄總額二分ノ一以下ヲ引出サントスルモノニ限リ所屬署
所長ニ於テ承認ヲ與ヘ二分ノ一以上又ハ一ケ年内ニ二回以上總額ノ二分ノ
一以下ヲ引出サントスルモノハ警務長ノ承認ヲ受ケシメ總テ補填ハ該訓令
第一號第二號ノ金額ノ外特ニ毎月金壹圓以上貯蓄セシムル様取計ハルヘ
シ

●巡回書庫閱覽ニ關スル件

明治四十三年三月二日
警第三三四號警務長通牒

各警察署〔同分署長〕宛
今回警察官吏ノ學術ヲ獎勵シ德義ヲ涵養スル目的ヲ以テ警察協會山口支部
附屬ノ事業トシテ修養會ナルモノヲ創設シ其ノ目的ヲ遂行スル爲メ新ニ山
口縣警察巡回文庫ヲ設ケ警察部及各警察署分署ヲ週次廻付シテ閱覽セシム
ルコト、セリ然ルニ經費ノ都合ニ依リ遺憾ナカラ始ヨリ多數ノ圖書ヲ一時
ニ備付スルノ運ヒニ至ラス漸次規模ヲ擴張スルノ計畫ヲナシ一面ニ於テハ
山口縣立圖書館ニ交渉シ同館ヨリ縣下各地方ヘ廻付ノ巡回文庫三屬スル
圖書ノ借覽方法其ノ他ニ付左記ノ通便宜ヲ得ルコト、相成タルヲ以テ同館

巡回書庫ノ廻付アル各郡市役所又ハ公私立ノ圖書館並ニ學校等ノ所在地
(別表参照)ナル警察分署ハ之ト相俟テ廣ク警察官吏ニ必要ナル圖書ヲ閱覽
スヘキ様部下ヲ督勵シ且借覽ノ圖書ニ付テハ汚損亡失セシメサル様嚴重監
督セラルヘシ

記

一、特ニ警察官吏ニ限リ制服着用ノ場合ハ勿論單ニ職務上使用スル名刺ヲ
提出シ之ヲ以テ警察官吏タルコトヲ證シ借用證書提出ノ煩ヲ省キ容易
ニ圖書ノ借覽ヲ爲シ得ルコト、シ圖書館長ヨリ各地方巡回先ヘ其ノ旨
通知ノ管

二、從來ノ巡回書庫中ニハ特ニ警察官吏ニ必要ナルモノヲ廻送シアラサル
モ將來ハ各署ニ於テ警察上必要ナル圖書ノ廻付ヲ希望スル場合ハ豫メ
圖書館長ニ通知スルトキハ可成操合ヲナシ巡回書庫中ニ加ヘ發送ノ
管

各署ニ於テ巡回書庫ヲ閱覽シ得ルモノ左ノ通り

- | | |
|----|---------------|
| 久賀 | 大島郡役所 |
| 岩國 | 玖珂郡役所 |
| 本郷 | 本郷校友會圖書館 |
| 柳井 | 私立物産圖書館 |
| 高森 | 私立高森圖書館 |
| 平森 | 熊毛郡役所 |
| 室積 | 工業學校 |
| 徳山 | 都濃郡役所(私立兒玉文庫) |
| 三田 | 佐波郡役所 |
| 堀尻 | 出雲村立圖書館 |



警察歌

一、我帽章の朝日影 仰げば愛の光あり
 國の治安を保つべく 罪を未發に防ぐべく
 不眠不休に民を護る 聖き勞苦を樂しまむ

二、我帽章の朝日影 仰げば己の光あり
 天災事變おこる時 兇徒惡疫在る處
 水火の中も顧みず 我身を犠牲と義に勇む

三、我帽章の朝日影 仰げば理智の光あり
 進む文化に應じつゝ 妄動浮華を警めて
 正義自由の大道を 偕に歩まむ國民と
 たふとしく我等の務

〔山口警〕

年賀狀ニ關スル件

大正十年十二月二十二日 警第四三一六號警務課長通牒

各警察官署長宛
 年始ノ賀狀ヲ發スルニ當リ從來ノ例ニ依レハ署員連名ニテ差出シ更ニ個人別ニ差出サルル向有之如斯ハ聊方虛禮ニ失スルノ感モ有之候條將來警察官相互間ニ於テハ重テ賀狀ヲ差出ササル様部下一般ニ對シ御示達相成度此段及通牒候也

〔山口警〕

警察研究資料ニ關スル件

大正十二年五月三十一日 内務省發警第六一號警保局長通牒

各廳府縣長官宛
 當局ニ於テ調査蒐錄シタルモノ及他ヨリ接受シタルモノニシテ警察研究ノ資料トナルヘキモノ有之候節ハ隨時警察研究資料トシテ號ヲ追ヒテ印刷シ(當分謄寫版ノ見込)一部宛配附可致候條之ヲ散佚セシムルコトナク必要ニ應シテ之ヲ複寫配附スル等ノ方法ヲ講シ警察ノ實務及訓練等ノ資料ニ供セラレ候様致度尙地方ニ於テモ警察ノ實務ニ關スル研究ヲ獎勵シ其ノ成績ヲ印刷配附スル等ノ方法ヲ講セラルルニ於テハ警察改善上利益不尠ト被存候此等ノ分有之候節ハ其ノ成績ヲ當局ヘモ御回付相煩度候

運賃後拂乗車船證發行ニ關スル件

大正十四年五月十八日 警第九三三號警察部長通牒

各警察官署長宛 各廳府縣長官宛 各廳府縣官署長宛 巡查教育所長

過般鐵道省ニ於テ勘合證廢止相成候處右ニ付警察官吏職務執行ノ爲特定ノ事項ニ關シテ官設鐵道及船舶ニ乗用ノ際急速ヲ要シ乘車船券ヲ購入スルノ違ナキ場合ハ新ニ運賃後拂ノ方法ニ依ル後拂乗車證ヲ發行シ乘車船者ニ於テ之ヲ使用シ得ルノ方法ヲ定メ之ヲ取扱手續及發行方並乘車心得制定本年五月一日ヨリ實施スベキ旨其筋ヨリ通牒有之候條右ニ關シテハ左記ニ依リ取扱ヒ其使用ヲ判明セシメ苟モ濫用ノ弊ナカラシムル様嚴重注意セラルヘシ

運賃後拂乗車船證發行並乘車心得

- 一、後拂乗車證ハ各發行擔任者ニ於テ直接「門司鐵道局經理課調査掛」宛請求シ配付ヲ受クルコト
- 二、後拂乗車證ハ犯罪人ノ追捕、要視察人、要注意人ノ尾行、視察及其他特命事項ニ關シ旅行スルニ當リ乘車船券ヲ購入スルノ違ナキ場合ニ限り之ヲ使用スルモノトス
- 三、警察部警務課長、警察署長、同分署長ヲ以テ後拂乗車證ノ發行擔任者トス
- 四、本證ヲ發行スルトキハ發行者ニ於テ乘車人所屬官署名、職氏名、年齢及發行年月日ヲ記入シ且發行者欄ニハ左ノ如ク記入シ職印ヲ押捺スルコト
- 五、本證ノ發者署名、車船等級、列車種類(普通、急行、特別急行列車ノ別)ハ乘車人ニ於テ之ヲ記入シ發者署名ニ付テハ當該關係員ノ車船等級及列車種類ニ付テハ車掌ノ證明ヲ受クルコト但シ短距離ノ乘車ニシテ車掌ノ證明ヲ受クル違ナキトキハ之ヲ省略スルモ妨ナシ

山口縣警察部警務課長 官 氏

名 圖

(警察署、同分署長ニ於テ發行スルトキハ其所在地名ヲ肩書スルコト)

- 六、一旅行中ニ於テ上級又ハ下級ノ車船室へ乗換チ爲シ(山手線又ハ下關門司間ノ如ク上級室ノ設備ナキ區間ニ於テ下級室ニ乗換ノ場合ハ此ノ限ニアラス)又ハ普通列車ヨリ急行列車ニ乗換チ爲スカ如キ場合ニ於テハ乗換チ爲ス毎ニ別箇ノ旅行トシテ各別ニ運賃料金ヲ計算ス故ニ乗換チ爲ス毎ニ新ニ本證ヲ提出シ驛係員又ハ車掌ノ證明ヲ受クルコト
- 七、本證ヲ以テ途中驛ニ下車シ再ヒ他ノ列車ニ乘繼クコトヲ得ス故ニ途中下車チ爲シタルトキハ其下車驛ヲ著驛トシテ本證ヲ提出シ乘繼チ爲サントスルトキハ新ニ別葉ヲ使用スルコト
- 八、本證ニ依リ乘車船スル者ハ鐵道係員ノ請求アリタルトキハ警察官吏タルノ證トシテ警部以上ハ所屬長(警察部長、警察官署長)發行ノ身分證明書(左記様式)ヲ警部補以下ハ警察手帳チ之ニ提示スヘキモノトス尙警察官署長ノ身分證明ハ自己ニ於テ之ヲナスコト

身分證明書様式 (用紙白適宜) 三寸

身分證明書

右相違ナキコトヲ證明ス

大正 年 月 日發行

官職氏 名 年月日生 名

職名 官氏 名印

分五寸二

九、左記ノ場合ニハ無札旅客トシテ一般規定ニ依リ運賃料金及割増金ヲ

(山口書)

- 即時ニ本人ヨリ收受セラルヘキニ依リ使用者ニ於テ充分注意スルコト
- 一、後拂乘車證ニ發驛ノ證明ヲ受ケスシテ乘車シタルトキ
- 二、後拂乘車證ニ記載シタル等級ヨリ上級ノ車船室ニ乘車船シタルトキ
- 三、身分證明書、警察手帳ノ呈示ヲ拒ミタルトキ
- 一〇、發行者ハ毎月五日迄ニ到著スヘク前月中ニ發行シタル本證乙片ヲ取極メ確實ナル方法ヲ以テ「門司鐵道局經理課調査掛」へ送付スルコト
- 書損其他ノ事由ニ依リ廢證トシタル同證甲片ニハ抹線ヲ畫シ其報告片(乙)ト共ニ送付スルコト
- 一、運賃料金ハ每一ヶ月分ヲ鐵道局經理課ニ於テ計算ノ上本證發行者へ請求スヘキニ付發行者ニ於テ取極メ納入ノ手續ヲ爲スコト
- 甲片乙片ニ記入シタル發行者名其他一致セザルトキハ甲片ニ記入シタルモノニ依リ運賃料金ヲ決定スルコト(本板ニ依ル場合ハ普通運賃ニ依ルコト)
- 二、本證ヲ保管中ニ於テ紛失シタルトキハ保管者其ノ責任スルコト前項紛失ノ場合ニ於テハ遲滞ナク鐵道局經理課へ通知スルコト
- 三、發行者ハ大正二年六月訓令警第四四一號鐵道乘車規定ニ依ル公務證券證明書交付簿ニ別座ヲ設ケ本證出納ノ都度整理スルモノトス
- 四、明治四十年十二月二十六日付警第七九〇八號鐵道無賃乘車ニ關スル件及明治四十一年一月十四日付警第三〇四號鐵道乘車勸合證使用並保管取締方ノ件ハ之ヲ廢止ス

後拂乘車證様式

(山口書)

(表)

三寸七分 甲(乘車用)				一寸五分乙(報告用)				一寸八分 丙			
列車種	車種	著者名	發年	列車種	車種	著者名	發年	列車種	車種	著者名	發年
大正	年	月	日	大正	年	月	日	大正	年	月	日
發行	者	印	印	發行	者	印	印	發行	者	印	印

著色(表) 淡綠色 裏(裏) 白色 香號一號ヨリ千號ニ至リ循環ス

第一編 通則 第十三章 雜則

(裏)

甲	乙	丙
一、本證ハ記名カ其職務ヲ行フニ付乘車船券、急行列車券ヲ購入スルノ邊ナク鐵道係員ノ承諾ヲ得テ乘車船スル場合ニ限リ乘車券、急行列車券ニ之ヲ代用スルモノトス	二、乘車人所屬官署名、職氏名、年齢及發行年月日ハ發行者ニ於テ出發年月日、發行者名、車船室等級(壹貳參ノ數字ヲ用フ)列車種(普通、急行、特急ノ別)ハ乘車船者ニ於テ之ヲ記入スヘキモノトス	三、乘車船者ハ所屬長發行ノ身分證明書又ハ警察手帳ヲ携帶シ鐵道係員ノ請求アルトキハ何時ニテモ之ヲ呈示スヘキモノトス
四、乘車船者ハ發驛ノ承諾ヲ得タル證トシテ本證ニ證明チ求メ下車(途中下車ノ場合ヲ含ム)ノ際當該驛ニ之ヲ交付スヘキモノトス	五、一旅行中ニ於テ乘車船室ノ等級又ハ列車ノ種類ヲ異ニスルトモノトス但シ上級車船室ノ設備ナキ區間ニ於テ下級ノ車船室ニ乘車船スル場合ハ此ノ限ニ在ラス	六、左ノ場合ニ於テハ本證ニ關係ナク一般ノ無札者ト同シク規定ノ運賃料金及割増金ヲ乘車船者ニ於テ支拂フヘキモノトス
七、身分證明書又ハ警察手帳ノ呈示ヲ拒ミタルトキ	八、本證記載等級ヨリ上級ノ車船室ニ乘車船シタルトキ	九、乘車船者ハ以上ノ外一般ノ規則ヲ遵守スヘキモノトス

官設鐵道乘車運賃割引證發行規程

昭和五年十月二十九日 訓令警第三三九六號

第一編 通則 第十三章 雜則

官設鐵道乘車運賃割引證發行規程ヲ左ノ通り改正シ昭和五年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

- 第一條 警察官吏ノ使用スル官設鐵道乘車運賃割引證(以下單ニ割引證ト稱ス)ハ本規程ニ據リ發行スヘシ
- 第二條 割引證ハ公務運賃割引證及囚徒運賃割引證ノ二種トス公務運賃割引證ハ警察官吏公務旅行ノ際一等乘車券又ハ二等乘車券ヲ購入スル場合ニ、囚徒運賃割引證ハ囚徒ノ三等乘車券ヲ購入スル場合ニ使用スルモノトス
- 第三條 割引證ハ警察部及巡查教習所ニ在リテハ警務課長警察署ニ在リテハ其ノ警察署長之ヲ發行スヘシ
- 第四條 割引證ハ別表第一號又ハ第二號ノ様式ニ依リ警察部ニ於テ其ノ用紙ヲ調製スヘシ
- 第五條 發行者ハ豫メ前項ノ用紙ノ請求ヲ爲スヘシ
- 第六條 割引證ニ付スル番號ハ警察部及警察署ニ於テ發行ノ順ニ依リ第一號ヨリ順次進行スヘシ
- 第七條 但シ公務運賃割引證及囚徒運賃割引證ハ各別ノ番號ト爲スヘシ
- 第八條 警察部及警察署ニハ別表第三號様式ノ官設鐵道乘車運賃割引證發行簿ヲ設ケ割引證發行ノ都度之ニ記載スヘシ

〔山口警〕

表

第 號	區 向	自 至	乘車船等級割引率	使用者身分氏名年齢	昭和 年 月 日發行	發行擔任官職 氏
				當 年 割		

公務運賃割引證

注意

- 一 本證ハ公務ヲ以テ旅行ノ場合ニ限リ使用シ得ルモノニシテ番號ニ依リ身分氏名年齢及發行日付ハ發行者之ヲ記入シテ本人ニ交付スルモノトス
- 二 本證ニ依リ往復乘車券ヲ購求セントスルトキハ本證二枚ヲ提出スルモノトス
- 三 本證ニ依リ團體乘車券ヲ購求セントスルトキハ一人一乘車船區間ニ付本證一枚ヲ提出シ當該團體ノ引率者又ハ代表者ノ割引證區間ニ付何某外何名ト記載シ其ノ他ノ割引證ニ對シテハ乘車船區間身分氏名等ノ記載ヲ省略スルコトヲ得
- 四 本證ハ他人ニ讓渡スルコトヲ得ス
- 五 本證記載事項ヲ訂正シタル場合ニ於テハ左ノ證明アルモノニ限リ之ヲ有効トス
- 六 (一) 發行者ノ記入スヘキ事項ニ付イテハ發行者ノ認印
(二) 使用者ノ記入スヘキ事項ニ付イテハ使用者ノ認印
本證ノ有効期間ハ發行ノ日共三十日トス

備考 一 表面左方下部ヨリ右方上部ニ幅〇、二種ヲ赤色斜線一條ヲ劃ス

第二號様式

囚徒運賃割引證様式

用紙及寸法 第一號割引證ニ同シ

表

第 號	乘車船區間	自 至	使用者氏名年齢	乘車等級割引率	昭和 年 月 日	發行者
			當 年 割			

囚徒運賃割引證

注意

- 一 本證ハ片道乘車券ニ限リ鐵道旅客運賃ノ割引ヲ爲スモノトス
- 二 本證ノ記載事項ハ總テ發行者ニ於テ記入スルモノトス

第一編 通則 第十三章 雜則

備考 一 表面左方下部ヨリ右方上部ニ幅〇、二種ノ赤色斜線一條ヲ劃ス

第三號様式

課(署)長 發行月日 番 號 使用者官氏名

課(署)長	發行月日	番	號	使用者官氏名

備考 本簿冊ハ一冊ト爲シ公務運賃割引證ト囚徒運賃割引證トニ座別々スヘシ

第一編通則(終)

第二編 保安

通則
御肖像 御紋章
議員選舉
銃砲火藥類其ノ他
電氣 壓縮瓦斯 原動機 石油
建築物
消防

特殊營業
射 倖
遺失物
精神病者
行旅病人
勞働者
雜則

第二編 保安

第一章 通則

●行政執行法施行ニ關スル心得方

明治三十三年六月
訓長甲第一五號

今回發布ノ行政執行法及其ノ施行令ノ施行上ニ關シテハ大體左ノ趣旨ニ依リ機宜ニ適スル様措置スヘシ
右訓令ス

一 法律第一條第一項ハ從來警察當然ノ權能ニ基キ實行シ來リタルモノニシテ本法ニ依リ新ニ職權ヲ生シタルモノニアラサルヲ以テ其ノ實行ニ際シ俄ニ過酷ノ取扱ヲ爲スヘキ限ニ在ラス而テ其ノ取扱方ハ常人若ハ第三者ヲ救護シ又ハ公安ヲ保持スル爲萬已チ得サル場合ニ於テハ身體ノ自由ニ對シ相當ノ檢束ヲ加ヘ必要ニ臨ンテハ一時警察署ニ留置キ又ハ適當ノ場所ニ於テ看守人ヲ附シ置クヘシ尤モ其檢束ハ翌日ノ日没後ニ至ルコトヲ得サルノ規定ナルヲ以テ可成速ニ措置ヲ了シテ之ヲ釋放シ又ハ親族故舊ニ引渡スヘシ若シ又法令ノ規定アルニ於テハ病院又ハ官公署ニ引渡スヘキモノトス而シテ被檢束者ハ第一號ノ一様式ノ被檢束者臺帳ニ登錄シ又物件ノ假領置ハ別紙第一號様式ノ假領置臺帳ニ登錄シ第二號様式ノ假領置證書ヲ交付シ且領置品ノ指離セサル爲メ臺帳ト同一番號及ヒ氏名ヲ記シタル木札ヲ付スル等豫メ還付ノ際ニ於ケル受取主ヲ判別スルノ便ヲ計ルヘシ

二 法律第二條警察權執行ノ爲メ邸宅ニ立入ルコトニ關シテ從來別段ノ制限ナカリシト雖本條ハ居住ノ自由ヲ重ニスルノ趣旨ニ依リ日出前日没後ニ

第二編 保安 第一章 通則

〔山口書〕

於ケル職權ノ行使ヲ制限シタルモノトス而テ日出後日没前ニ於テ居住ノ自由ヲ重ンセサルヘカラサルコトハ勿論ナルヲ以テ縱令本條之カ制限ヲ設ケサルモ實際ニ於テ充分思慮ヲ要スル所トス又本條ノ適用ニ付テハ濫用ノ弊ナキ様深ク注意スヘシ例ハ博奕密賣淫ノ現行アリト認ムル場合ニ於テモ警察ニ涉ルコトアルヘカラス尤俗ニ博徒ト稱スル輩力同類ヲ集メテ賭戲ニ耽リ殆ト之ヲ以テ常業ト爲スカ如キ又密賣淫ニ付テモ道路ニ於テ客ヲ引キ又ハ公衆ノ目ニ觸ル、場所ニ於テ公然猥褻ノ所業ヲ爲シテ憚ラサル者ノ如キハ特ニ嚴重取締ルノ必要アリ殊ニ賣淫婦中ニ微毒ヲ傳播セシムルコト甚シキモノアルヲ以テ此ノ如キ者ニ對シテハ第三條ノ規定ト相待チ將來嚴重ノ取締ヲ爲スヘシ

三 法律第三條ハ微毒傳播ヲ豫防スルカ爲密賣淫ノ罪ニ依リ確定判決ヲ經タル者ニ對シ病毒ノ有無ヲ診斷シ其ノ既ニ病毒ニ感染セル者ニシテ自ラ治療ヲ加フルコトヲ肯セサル等取締上必要アル場合ニ於テハ之ヲ驅逐院又ハ驅逐所ニ入ラシムヘシ其ノ設備ナキ地ニ於テハ一定ノ場所ニ於テ治療セシムヘシ要スルニ微毒豫防ハ現今ノ狀況ニ於テ最之ヲ嚴重ニスルノ必要ヲ認メ本條ヲ設ケラレタルモノナルヲ以テ前條ノ趣旨ニ依リ下等賣淫婦ニ對シテハ時宜ニ適スルノ處置ヲ取ルヘシ
從來ノ檢徵所ノ設ケアル地ニ於テハ檢徵醫ヲシテ之ヲ行ハシム其ノ設ケナキ地ニ於テハ相當ノ醫師ニ囑託シテ診斷ヲ行ハシムヘシ
本人又ハ媒合者ニ於テ費用ヲ負擔スルノ資力アリヤ否ヤハ知事ノ認定スル所ナルヲ以テ此場合ハ被處分者並其ノ關係義務者ノ資力ヲ調査シ具申スヘシ

第二編 保安 第一章 通則

四法律第四條水災等天災地變之際シ土地物件ヲ使用處分スルコトニ關シテハ從來必要ノ程度ヲ超ユルノ弊ナキニアラシク人民ノ財產權ヲ尊重シ職權ノ行使上必要ノ範圍ヲ脫セサル様注意スヘシ又施行令第二條第二項ノ適用ハ列記ノ土地物件ニシテ法令ノ規定ニ違背シタルノミナラス若シ之ヲ看過スルニ於テハ生命財產ニ危害ヲ及ホシ又ハ健康ヲ害スル虞アルトキニ限リ已ムテ得サルノ處置ヲ爲スニ在ルヲ以テ濫用ノ譏ヲ招サル様慎重ヲ加フヘシ

五法律第五條警察權ハ臣民ニ對シテ之ヲ執行スルニ止マリ市町村其ノ他ノ公共團體ニ對シテ權力ヲ及ホスノ限ニ在ラスト雖本條ノ適用ハ必スシモ警察權ノ執行ニ限ラサルヲ以テ公共團體ニ對シテ之ヲ執行スルコトヲ妨

ケス但シ已ムテ得サル場合ノ外ハ本條ニ依ラズシテ行政監督權ヲ以テ義務履行ヲ強制スルモノトス

六法律第六條費用又ハ過料ヲ徵收スル爲メ國稅徵收法ノ規定ニ依リ滯納處分ヲ爲スヘキ場合ニ於テ收稅官吏ノ執ルヘキ職務ハ行政處分ヲナシタル警察署長分署長ニ屬スルモノトス

署長	第 號	引 致 者	被檢者姓名	東住者姓名	年 齡	釋 放	日 月 日	時 時	要 事 實 概 概	一 食 ノ 價	賄 度 數	賄 度 金	代 金	備 考

〔山口書〕

〔山口書〕

第一號ノ二

假領置品臺帳

番 號	領 置 月 日	品 目	事 由	領 置 期 間	還 付 月 日	所 有 者 住 所 居 所 族 稱 氏 名

第二號

假領置證

一 品 名 個 數 住 所 居 所 族 稱 氏 名

右ハ何何(救護ヲ要スヘキモノト認ムルヲ以テ)(危險ノ虞レアリト認ムルヲ以テ)(公安ヲ害スル虞アリト認ムルヲ以テ)行政執行法第一條ニ依リ本日ヨリ何日迄何日間假ニ領置スルモノ也

何警察(分)署長 官 氏 名 印

備考

泥酔者又ハ瘋癲者其他ノ場合ニ於テ本人ニ假領置證ヲ渡スコト能ハサルトキハ其ノ家族ニ交付スルモノトス若シ家族ニアラサルカ又ハ本人ノ住所居所不明ナルトキハ臺帳ニ其旨ヲ記シ置キ之ヲ交付セザルコトヲ得

番號ハ臺帳ト同一ノ番號ヲ附ス

第三號

第二編 保安 第一章 通則

、、、戒告書

右所有ニ係ル肩書地ニ在ル土堤、、間公道ニ崩壞シ公衆ニ危害ヲ及ホスノ虞アリト認ムルヲ以テ本戒告書送達ノ日ヨリ起算シ七日以内ニ於テ崩壞セル土砂ヲ取除キ公道ノ原狀ニ復スヘシ但シ指定期間内ニ履行セザルニ於テハ當署自ラ執行シ又ハ第三者ヲシテ之ヲ執行セシメ其ノ費用ヲ徵收スヘシ

右行政執行法第五條及行政執行法施行令第五條ニ依リ戒告スルモノ也

何府何市何町何番地 何縣何郡何村何番地 何 誰

何警察(分)署長 官 氏 名 印

右原本ニ依リ正本ヲ作ルモノ也

年 月 日

於何警察(分)署 官 氏 名 印

第四號

第二編 保安 第一章 通則

、、、戒告書

右肩書地ハ居住制限地外ナルヲ以テ本戒告書送達後三十日以内ニ營業區域内ニ退居スヘシ但シ指定期間ニ退去セサルニ於テハ過料ニ處スヘシ
右行政執行法第五條及行政執行法施行令第五條ニ依リ戒告スルモノ也
年月日

何警察(分)署長
官氏 名
何府何市何町何番地
何縣何郡何村何番地
之 誰

第五號

、、、決定書

右所有ニ係ル肩書地ヨリ公道ニ崩壞セル土砂取除ノ件ニ關シ明治 年 月 日付第一號戒告書ヲ送達シ置キタルニ指定期間ニ履行セザリシヲ以テ當署自ラ之ヲ執行シ其金額ヲ頭書ノ通決定ス因テ明治 年 月 日限リ當署ニ納付スヘシ但シ指定期日內納付セザルトキハ國稅徵收法ニ依リ徵收スヘシ
右行政執行法施行令第六條ニ依リ決定スルモノ也
年月日

何警察(分)署長
官氏 名
何府何市何町何番地
何縣何郡何村何番地
之 誰

〔山口警〕

右原本ニ依リ正本ヲ作ルモノ也
年月日

官氏 名
於何警察(分)署
官氏 名印

第六號

、、、決定書

右肩書地退去ノ件ニ關シ明治 年 月 日第二號戒告書ヲ送達シ置キタルニ指定期間内ニ履行セザリシヲ以テ頭書金額ノ通過料ニ處スヘキ者ト決定ス因テ明治 年 月 日限リ其ノ金額ヲ當署ニ納付スヘシ但シ指定期日內納付セザルトキハ國稅徵收法ニ依リ徵收スヘシ
右行政執行法第五條及行政執行法施行令第六條ニ依リ決定スルモノ也
年月日

何警察(分)署長
官氏 名
何府何市何町何番地
何縣何郡何村何番地
之 誰

右原本ニ依リ正本ヲ作ルモノ也
年月日

第七號

於何警察(分)署
官氏 名印

〔山口警〕

送達ノ文書	、、第號戒告書(決定書又ハ何々)
送達ノ日	明治 年 月 日
送達ノ地	府(縣又ハ市) 郡町番地
受送達者	記 名印
送達者	記 名印
備考	
年月日	官署名印

〔山口警〕

送達ノ文書	、、第號戒告書(決定書又ハ何々)
送達ノ日	明治 年 月 日
送達ノ地	府(縣又ハ市) 郡町番地
受送達者	記 名印
送達者	記 名印
備考	
年月日	官署名印

●行政執行法施行心得取扱方

明治三十三年八月 訓警甲第二六號

行政執行法施行ニ關スル心得方本年六月三十日訓長甲第一五號ヲ以テ御訓令ノ次第モ有之候如該取扱方左ノ通り心得ラルヘシ
一 訓令第一號中ノ身體ノ自由ニ對シ檢束ヲ加フル場合ト雖モ止テ得サルノ外戒具ヲ用ヒサルヲ要ス又警察署ニ留置ク場合ト雖モ止ムテ得サルノ外留置場ニ入レスシテ尋問所若ハ休憩所等ニ於テ相當取締ヲ爲スヲ要ス
二 第三號中ノ密淫賣婦ノ健康診斷ヲ要スル場合ニ於テ一定ノ場所ニ至ラシムル途中ハ巡査ヲシテ護送セシムルヲ要ス
三 行政執行法ニ基キ處分ヲ爲シタル場合ハ其狀況詳細申報スヘシ

●行政執行法ニ基ク處分報告ノ件

明治三十七年六月 保發第四〇號

行政執行法ニ基キ處分ヲ爲シタル場合ニ於ケル報告方ニ付テハ明治三十三年八月八日訓令第二六號訓令ノ次第有之候處自今法第一條及第三條ニ依ル處ニ依リ左記様式ニ依リ各月取纏メ翌月五日迄ニ報告相成度依命通牒候也
追テ本文該當ノモノト雖事ノ重要ニ涉ルモノハ月報ノ外狀況詳細即報相成度此段申添候也

種別	明治何年		署名
	何月中	行政執行法第一條ニ依ル處分表	
泥酔者	件	數	人
瘋癲者	件	數	男
			女
自殺企ツル者	件	數	種別
			個數
暴行スル者	件	數	署名
闘争スル者	件	數	署名
其他	件	數	署名
備考	假領置物件數欄ニハ種別(刀、小銃、短銃、斧、庖刀、棍棒等ノ如シ)及其各種ノ個數ヲ記載スルモノトス		

明治何年 行政執行法第三條ニ依ル處分表 署名
何月中 行政執行法第三條ニ依ル處分表 署名
檢舉件數 處罰人員 健康診斷施行人員 有為ノ爲メ施設人員

〔山口警〕

第二章 御肖像 御紋章

●御肖像御宸筆等ノ出版物取締ニ關スル件

大正四年七月八日 保第五一二六號警察部長通牒

各署長宛

御肖像及御宸筆又ハ御墨圖璽ノ出版ニ付テハ豫テ通牒又ハ指示セシ次第有之候處近時右等ノ出版物日ヲ追フテ頻繁ナラムトス隨テ取締上疑義ヲ生スル向モ可有之ト被察候就テハ諭告其他ニ準據シ取締スヘキハ勿論尙ホ左記標準ニ依リ取締ヲ爲シ遺策ナキヲ期セラレヘシ

一、御肖像御宸筆ノ出版ハ決シテ不敬ニ涉ルコトナカラシムル様充分注意スヘキコト

二、御肖像ニ關スル件
(イ)御肖像ニ關シテハ不敬ニ涉ラサル限リ御眞影ヲ拜寫シタルモノニテモ想像畫ニテモ其出版ヲ認ムルコト

(ロ)御肖像タルヲ表示スルニ 御眞影ト記載スルモ 御眞影又ハ 御肖像ト記載スルモ不敬ニ涉ラサル限リニ於テハ不問ニ付スルコト

三、(削除)

四、御名御墨圖璽ノ出版ハ之ヲ許サ、ルコト

大正四年十一月八日 保第八一四五號警察部長指示

各署長宛

近來新聞紙雜誌ニ御宸筆ノ發賣頒布ヲ廣告スルニ際シ之ニ御宸筆ヲ表出スルモノ往々有之候處右種カナラサレ趣ヲ以テ其筋ヨリ通牒ノ次第モ有之候

第二編 保安 第二章 御肖像 御紋章

〔山口警〕

條將來此ノ如キコトナキ様新聞雜誌社並ニ廣告取次人ニ對シ懇篤諭示ノ上嚴重取締セラレヘシ

大正九年三月三十日 保第三三一三號內務、警察部長指示

各(都)市長 警察署長宛

近來新聞紙其他ノ出版物ニ依リ世上ニ頒布セラレ、ノ數漸次増加セルノ結果不知不識ノ間往々之方取扱ヲ粗略ニシ時ニ或ハ路上ニ散在スルヲ發見スルカ如キコトアリ是等ノ行爲ニ對シテハ法令ヲ以テ之ニ臨ムハ固ヨリ妥當ニアラス一ニ國民ノ公德ニ待ツヘキモノナルヲ以テ小學校同校友會地方青年團衛生講話會其他多業會同ノ機會ヲ利用シ市町村長小學校教員及警察官吏等ニ對シ懇切鄭重ニ一般ノ注意ヲ促サシメ 御肖像ヲ掲載シタル新聞紙出版物類ノ取扱ヲ鄭重ニスルノ良風ヲ馴致セシムル様取計ハルヘシ

大正十五年十二月二十四日 保第一二六一九號警察部長指示

各署長宛

大正四年七月八日保第五一二六號ヲ以テ指示セシ標記ノ件中取締標準第三項御宸筆ニ關スル件ハ今同廢止相成タルニ付爾後新聞紙其他ノ出版物ニ御名又ハ御眞影ヲ附シタル御宸筆ヲ掲載スルモ不敬ニ涉ラザル限リ之ヲ不問ニ付スルコト、管ニ付右趣旨ニ依リ相當取締セラレヘシ

●御用ノ文字濫用取締方

明治三十四年十二月二十三日 內務省訓令第二十號

關所(東京府ヲ除ク)

近來往々各種ノ商品、商品容器、封皮、引札、廣告、看板等ノ物件ニ於テ帝室御用、東宮御用、宮内省御用其ノ他皇室ニ關スル文字ヲ濫用スル者ナ

七

キニアラス右ハ明治元年(三月)太政官布告ノ精神ニ違背シ種ナラサル儀ニ付心得違ノ者ナキ様殿重取締ラレシ

菊御紋章濫用禁止ノ件

明治三十三年九月五日
山口縣告諭第三號

菊御紋章濫用ノ事タル畏クモ 皇室ノ尊嚴ニ關スルヲ以テ臣民タル者宜シク慎重セサルヘカラス故ニ明治元年太政官布告以來屢々布告布達ヲ以テ其ノ使用ヲ禁セラレタルハ皆人ノ知ル處ナリ然ルニ近來事業ノ勃興ト共ニ各種ノ廣告看板又ハ私著ノ文書圖書等ニ之ヲ私用シ或ハ殊更ニ輪廓形態ヲ變シ菊御紋章類似ノ模様ヲ描出表示スル等近時ニ至リ漸ク濫用ノ弊アルモノノ如シ惟フニ各自商業ノ信用ヲ博セント期シ或ハ殊更物件ノ品位ヲ保タムコトニ努メ不知不識御禁制ノ旨趣ヲ忘却シ如此ノ舉ニ出ルモノニ非サルナキ乎斯クテハ禁制ノ御旨趣ニ悖ルノミナラス其ノ之レヲ背セサルモノニ在リテハ法律ニ依リ強制ノ處分ヲ受クヘケレハ能ク此ノ意ヲ服膺シ苟クモ違反ノ事アルヘカラス

菊御紋章禁制ノ件

明治三十三年九月七日
山口縣告諭第四號

菊御紋章禁制ノ件ニ付テハ曩キニ告諭第三號ヲ以テ其ノ梗概ヲ示シタルモ尙ホ左記各項ノ通り心得ヘシ
一印刷描出其ノ他方法ノ如何ニ拘ラス商品、商品容器、封皮、引札、廣告、看板、建築物ノ門扉門頭又ハ其ノ他ノ物件ニ菊御紋章若ハ菊御紋章類似ノ圖形ヲ表出シ之ヲ發賣頒布シ又ハ之ヲ觀覽ノ用ニ供スルコトヲ得ス
二帝室若ハ政府ノ授與ニ係ル賞牌、賞狀、褒狀ノ類ヲ節略模寫シテ菊御紋

〔山口警〕

章ノ部分ヲ前項ノ物件ニ抽出私用スルコトヲ得ス
三私著ノ文書圖書ニ在リテハ御陵園、御系譜御歴代ノ尊號ヲ掲ケル場合ト雖菊御紋章若ハ菊御紋章類似ノ圖形ヲ之ニ表出スルコトヲ得ス
四帝室若ハ政府ノ所有若ハ授與ニ係ル物件ノ形狀ヲ複寫模寫模圖等ニ依リテ表出シタルモノハ前各項ノ限ニ在ラス

御用ノ文字濫用取締方

明治三十四年十二月
山口縣告諭第四號

帝室御用東宮御用宮内省御用其ノ他皇室ニ關スル文字ヲ濫リニ用フヘカラサルコトハ明治元年(三月)太政官布告ノ次第モ之レアリ候處近來各種ノ商器商品容器封皮引札廣告看板等ニ於テ間々是等ノ文字ヲ濫用スルモノ有之畢竟右布告ノ精神ニ心付カス知ラス識ラス此ニ至リタルモノナル可ク甚ダ不都合ノ至トス自今篤ト右布告ノ精神ヲ注意シ不敬ニ涉ルコト無之様相心得ヘシ

賞牌模寫ニ關スル件

明治二十九年三月十六日
示警甲第一四號警察部長指示

各署長宛

内國勸業博覽會ニ於テ授與ノ賞牌眞影ヲ寫シ製品又ハ看板廣告書等ニ添附候義不苦旨ハ明治十一年四月内務省布達甲第九號ノ趣モ有之候處近來右賞牌ノ内單ニ菊御紋章ノミヲ寫シ賞牌等ノ文字ヲ其上下又ハ左右ニ記シ商品製品若クハ看板廣告ノ類ニ添附スルモノ有之哉ノ趣キ相聞ヘ候然ルニ右布達ノ主旨ハ全ク賞牌ヲ其儘寫シタルモノニ限ル義ニシテ賞牌ヲ節略シ菊御紋章アル部分ノミ貼附若クハ掲出セシムル義ハ不都合ニ候條自然右等ノモ

ノ有之候ハ其旨ヲ懇諭シテ速ニ撤去又ハ訂正セシムル等取締方不都合無之様注意セラルヘシ

〔山口警〕

菊御紋章濫用禁止強制方

明治三十三年九月五日
山口縣訓令警甲第三十二號

〔警察分署〕

菊御紋章禁制ノ件ニ付テハ明治元年三月同四年六月大政官布告ヲ公布セラレ尙取締方ニ付テハ明治十三年四月宮内省無號達並同年内務省乙第二號達ノ趣モ有之候處近來事業ノ勃興ニ伴ヒ商品其他ニ使用シ殆ント濫用ノ弊アルヲ見ル事慮過スヘカラサル義ニ候條取締上ノ大要左記標準ニ仍リ取扱ヒテ爲シ禁止ノ命令ニ從ハサル者アルニ於テハ行政執行法第五條第一項ニ依リ處分ノ強制ヲ期セラルヘシ
一印刷描出其ノ他方法ノ如何ニ拘ラス商品、商品容器、封皮、引札、廣告、看板、建築物ノ門扉門頭又ハ其ノ他ノ物件ニ菊御紋章若ハ菊御紋章類似ノ圖形ヲ表出シ之ヲ發賣頒布シ又ハ之ヲ觀覽ノ用ニ供スルコトヲ得ス
二帝室若ハ政府ノ授與ニ係ル賞牌賞狀褒狀免狀ノ類ヲ節略模寫シ菊御紋章ノ部分ヲ前項ノ物件ニ抽出私用スルコトヲ得ズ
三私著ノ文書圖書ニ在テハ御陵園御系譜御歴代ノ尊號ヲ掲ケル場合ト雖菊御紋章若ハ菊御紋章類似ノ圖形ヲ之ニ表出スルコトヲ得ス
四帝室若ハ政府ノ所有若ハ授與ニ係ル物件ノ形狀ヲ複寫模寫模圖等ニ依リテ表出シタルモノハ前各項ノ限ニ在ラス

菊御紋章取締方

明治三十三年九月二十五日
安收第二一四四號保安課長通牒

菊御紋章取締之義ニ付テハ本月五日訓令ノ次第モ有之候處教育勸語外一件ニ關スル取扱方左記之通ニ有之候條御了知相成度此段及通牒候也
一明治二十三年十月三十日ノ教育ニ關スル勸語ヲ出版スルニ當リ菊御紋章ヲ表記スル者アルモ其儘ニ差擱ク事
一明治三十三年九月五日山口縣告諭第三號公布以前ノ出版ニ係ル御山陵園歴代尊號御肖像勸語勸諭御製ノ出版物ニシテ菊御紋章ヲ表記シアルモノハ此際其儘ニ差擱ク事
但シ再版ノ際ハ之ヲ取除カシムルノ方針ヲ取ル事

各署長宛

菊御紋章御用者處分方稟議手續

明治三十四年一月
訓警甲第六號警察部長指示

各署長宛

菊花御紋章濫用取締上撤去若ハ處分ヲ要スル場合ニ在リテハ現品又ハ圖面ヲ添ヘ稟議スヘシ

菊御紋章取締ニ關スル件

大正十三年九月六日
保第九七三六號警察部長指示

各署長宛

標記ノ件ニ付別紙之通内務省警保局長ヨリ通牒有之候條取締上注意セラルヘシ

内務省發警第六六號

大正十三年八月二十九日

山口縣知事殿

内務省警保局長

菊御紋章取締ニ關スル件通牒

各學校ノ御眞影奉安殿又ハ奉安室ニ菊御紋章描出ノ義ハ從來之ヲ差許ササルノ取扱ニ相成居候處今後學校ヨリ直接申出タルモノニ限り之ヲ描出テ差許スモ支障無之候條右御舎ノ上御處理相成度本件ハ宮内省トモ内議濟ニ有之候也

大正十三年十月二日
保第九七三六號警察部長指示

各署長宛

本件ニ關シ九月六日日本號ヲ以テ(例規)及指示置候別紙中「學校ヨリ直接申出タルモノニ限り」トアルモノ何レノ官廳ニ直接申出ツヘキヤニ付疑義ヲ生スルコトアルヘキヲ以テ右ハ當該取締警察官憲ヲ指示シタルモノナル旨其ノ筋ヨリ更ニ通牒有之候條可然了知セラレヘシ

大正十三年十月九日
保第九七三六號警察部長指示

各署長宛

標記ノ件ニ關シ本年九月六日及同月十二日日本號ヲ以テ指示セシカ右ハ奉安殿又ハ奉安室ニ掲用スヘキ輾轉ノ如キ轉用ノ容易ナルモノニ迄菊御紋章描出ヲ認ムルノ趣旨ニ非サル旨其ノ筋ヨリ通牒アリタルニ付了知セラレヘシ

菊御紋章ニ關スル件

新潟縣知事照會 大正十二年六月七日
保收第五三三五號

帝國在郷軍人會新潟市湊分會ニ於テ今回新潟市内日和山ノ皇太子殿下御野立所跡ヘ左記圖面ノ如キ紀念碑ヲ建設スヘキ計畫有之候處碑文上部ニ菊御紋章ヲ描出ノ設計ニシテ右ハ帝室ニ對シ敬意ヲ表スルノ至誠ニ出テタルモノト認メラル、モ菊御紋章禁止ニ關スル布告ノ趣旨ニモ相反シ穩當ナラサ

〔山口警〕

ル義ト思料セラレ聊カ疑義有之候條默許ニ附シ差支ナキヤ否ヤ何分ノ御回報相煩度此段及照會候也

皇太子殿下御野立紀念

內務省警保局長回答 大正十二年七月二十三日
警務受第三五七二號

六月七日付保收第五、三三五號ヲ以テ帝國在郷軍人會新潟市湊分會ニ於テ新潟市内日和山皇太子殿下御野立所跡ヘ建設スヘキ紀念碑ニ菊御紋章描出ノ義ニ關シ御照會有之候ニ付宮内省ニ對シ本件ハ帝室ニ對シ敬意ヲ表スルノ至誠ニ出テタル計畫ト被認候ニ付此種計畫ニ對シテハ特ニ不問ニ附シ度旨ヲ以テ意見問合セ候處異存無之旨回答有之候間右ニ依リ御處理相成候條致度右申進候也

菊御紋章ニ關スル件

大正十五年七月二十四日
保第六四六三號警察部長指示

各署長宛

今回 皇太子殿下 縣下行啓地ヲ撮影シ行啓記念帳ヲ作製其ノ表紙ニ 東宮殿下行啓記念帳ト記シ菊御紋章ヲ描出セムトスル向アリ穩當ナラサル義ニ付中止方諭示シ置キ候處爾今此種作製者ニ對シテハ相當諭示シ中止セシメラルヘシ

菊御紋章描出ニ關スル件

靜岡縣知事照會 昭和四年二月二十三日
高第一八五七號

〔山口警〕

眞影奉安殿又ハ奉安室ニ對スルモノ、取扱ト同一趣旨ニ依リ御措置相成リ然可ト存候條御了知相成リ度 以上

各學校ノ御眞影奉安殿又ハ奉安室ニ菊御紋章描出方ニ關シテハ大正十三年八月二十九日付內務省發警第六六號御通牒ノ趣旨ニ基キ爾來當該學校ヨリ直接願出アリタル分ニ對シテ之ヲ描出方差許シ來リタル處最近ニ至リ二三學校ヨリ奉安殿棟木扉等ノ箇所ニ數箇又ハ數十箇ヲ描出セムト願出來リタルモノ有之右ハ却テ亂用ノ感モアリ菊御紋章ノ尊嚴ヲ輕視スルノ憾アルモノト認メ箇數ヲ減シ描出セシムル様指示シ置キタル處ナルカ果シテ右ノ如キ場合何箇所迄差許シ可然哉將來ノ基準トモ致度ニ付何分ノ御指示相仰度此段及稟候也

內務省警保局長回答 昭和四年三月四日
警保局發乙第二七三號

二月二十三日付高第一八五七號ヲ以テ御稟伺有之候首題ノ件ハ奉安殿ノ構造等ノ關係ニ依リ一般的ニ何箇迄ト限定スルハ困難ト存セラレ候條實際差許サル、際ニ於テ奉安殿中主要ナル部分ニ可成少數描出スルニ止ムル様御措置相成度候

山口縣知事照會 昭和四年十月二十九日
保第一二二四三號

各學校ニ於ケル御眞影奉安殿又ハ奉安室ニ菊御紋章描出ス件ニ關シテハ大正十三年八月二十九日內務省發警第六六號ヲ以テ御通牒ノ次第モ有之候處最近官公衙ニ於テモ其奉安殿又ハ奉安室ニ描出願出ル向アリ此ハ學校ノ夫ト殆ト其性質ヲ同フシ別ニ不都合ヲ生スヘシトモ思惟セラレヌ差岡ナキ哉ニモ解セラレ候モ之ヲ取扱ニ關シテ何等據ルヘキモノナク一應何分ノ御回報相仰度此段及照會候也

內務省警保局長回答

首題ノ件ニ關シ本月七日付保第一二二四三號ヲ以テ御照會有之候處官公衙ニ於ケル御眞影奉安殿又ハ奉安室ニ描出スル菊御紋章ニ付テモ各學校ノ御

第三章 議員選舉

●府縣制準用選舉市區指定令

大正十五年六月二十四日
勅令第二百一十一號

- 第一條** 市制第三十九條ノ二ノ規定ニ依リ市ヲ指定スルコト左ノ如シ
- | | | | | |
|------|------|------|-----|------|
| 東京市 | 京都市 | 大阪市 | 堺市 | 横濱市 |
| 横須賀市 | 川崎市 | 神戸市 | 姫路市 | 長崎市 |
| 佐世保市 | 新潟市 | 長岡市 | 前橋市 | 宇都宮市 |
| 津市 | 名古屋市 | 豊橋市 | 静岡市 | 濱松市 |
| 甲府市 | 岐阜市 | 長野市 | 松本市 | 仙臺市 |
| 青森市 | 山形市 | 福井市 | 金澤市 | 富山市 |
| 岡山市 | 広島市 | 吳市 | 下關市 | 和歌山市 |
| 徳島市 | 高松市 | 松山市 | 高知市 | 福岡市 |
| 久留米市 | 門司市 | 大牟田市 | 八幡市 | 大分市 |
| 熊本市 | 鹿児島市 | 那覇市 | 札幌市 | 函館市 |
| 小樽市 | 旭川市 | 室蘭市 | | |
- 第二條** 市制第三十九條ノ二ノ規定ニ依リ區ヲ指定スルコト左ノ如シ
- 東京市ノ區
- 附則
- 本令ハ次ノ總選舉ヨリ之ヲ施行ス

●縣會議員選舉投票用紙及封筒竝 投票函ノ様式ニ關スル件

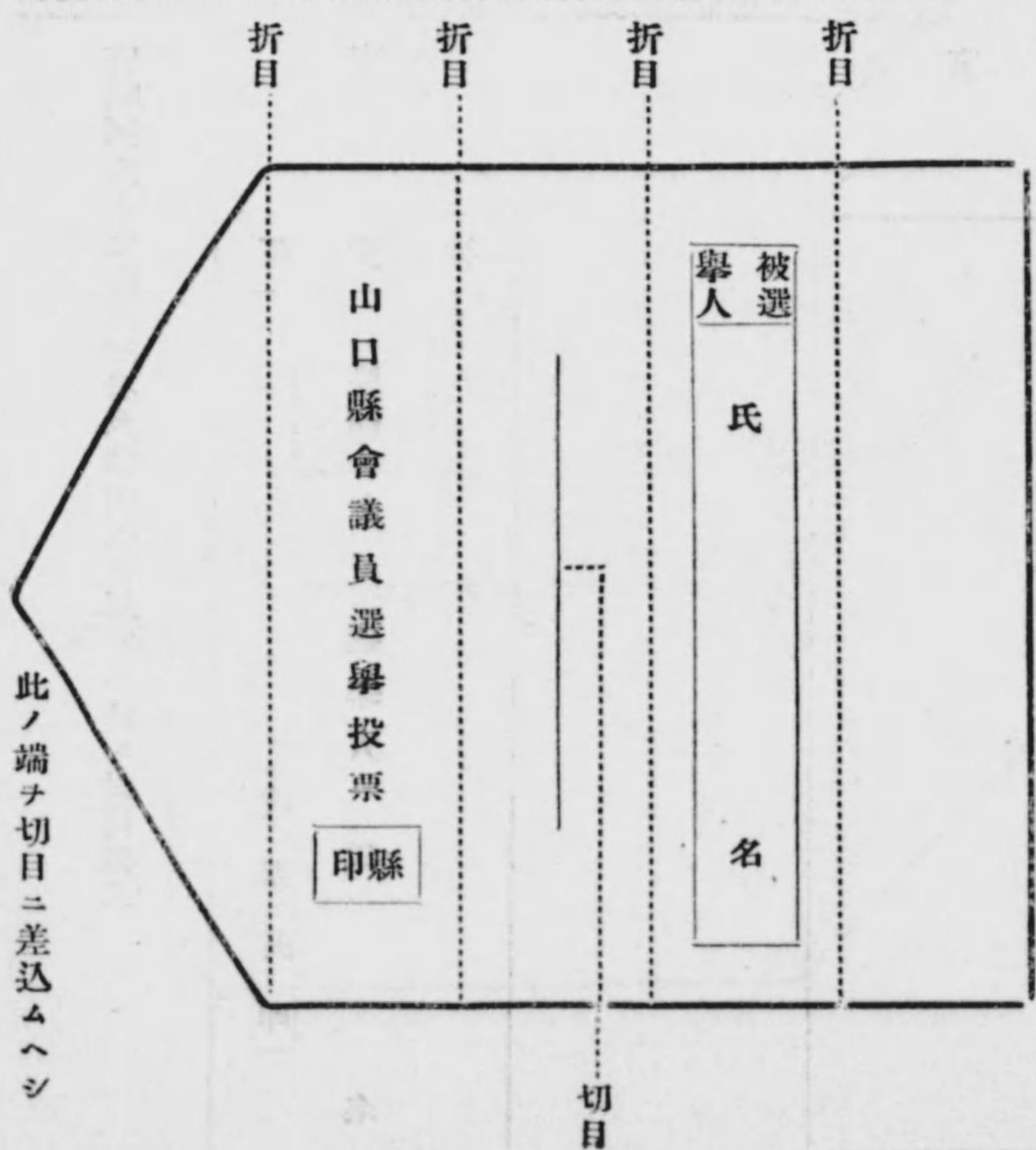
昭和二年四月二十六日
山口縣令第五十九號

第二編 保安 第三章 議員選舉

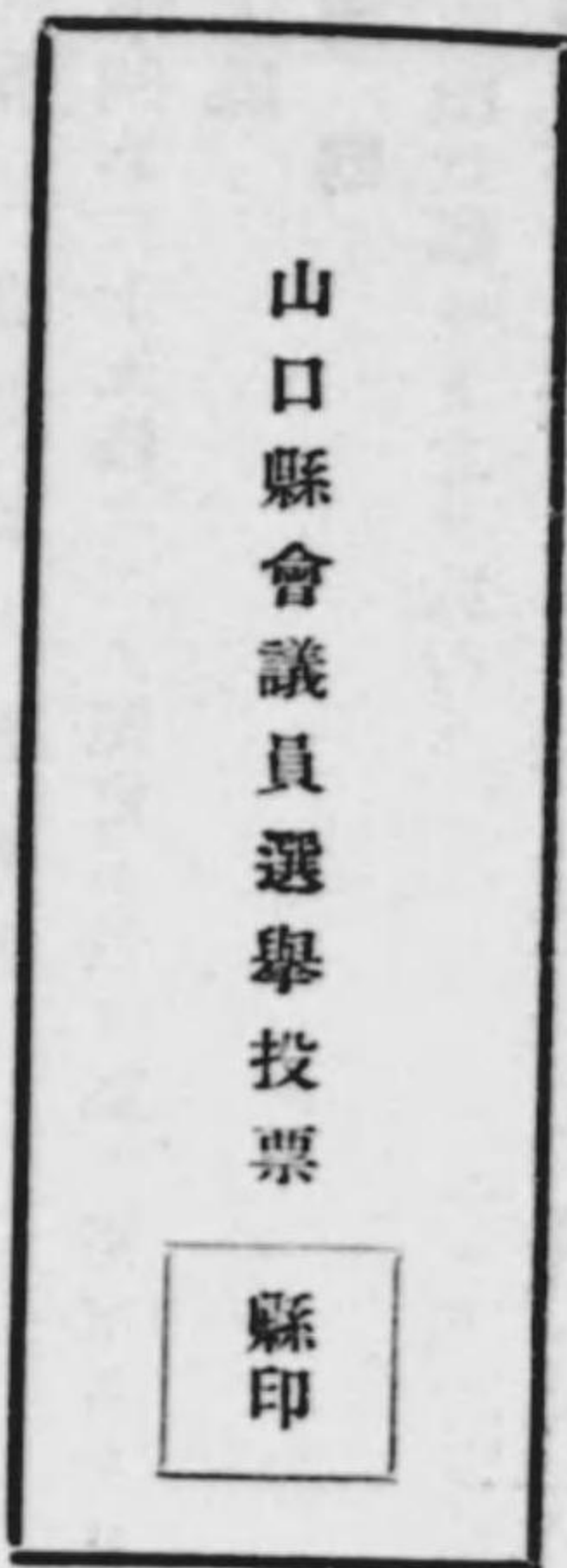
〔山口縣〕

縣會議員選舉投票用紙及府縣制第十九條第三項及第四項ノ規定ニ依ル封筒
竝投票函ノ様式別記ノ如シ

附則
本令ハ次ノ總選舉ヨリ之ヲ施行ス
明治三十六年九月山口縣令第七十六號縣會議員選舉施行規則ハ之ヲ廢止ス
(別記)
投票用紙様式 (用紙ハ折疊ミタル場合ニ於テ外部ヨリ被選舉
人ノ氏名ヲ透視シ得サル紙質ノモノヲ用フ)



表



裏

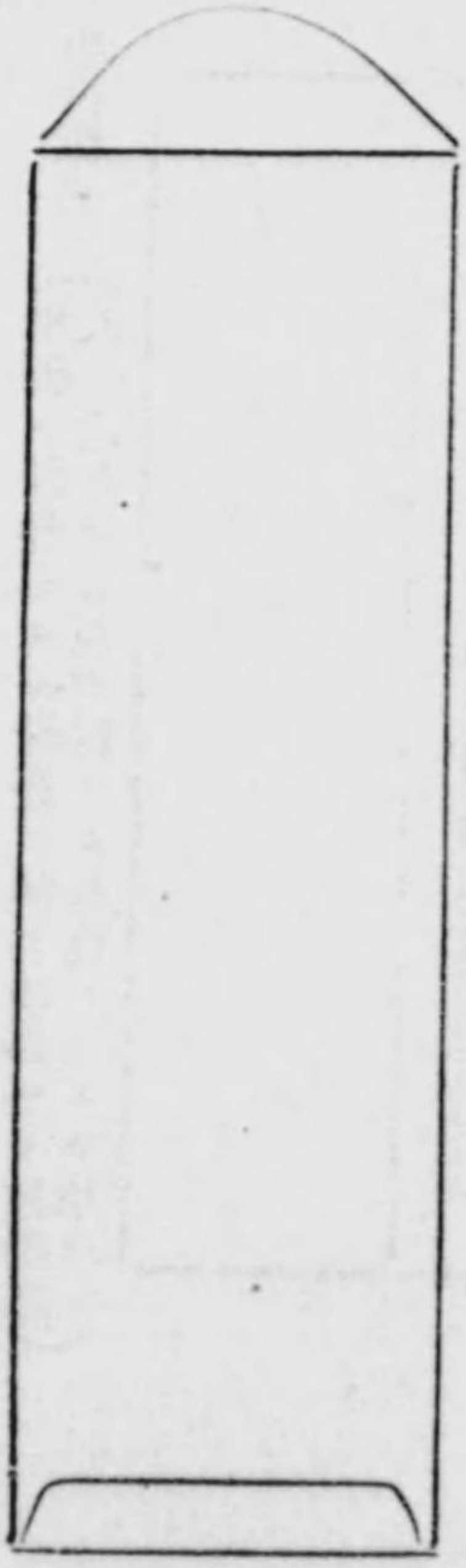


府縣制第十九條第三項及第四項ノ規定ニ依ル封筒様式

表



裏



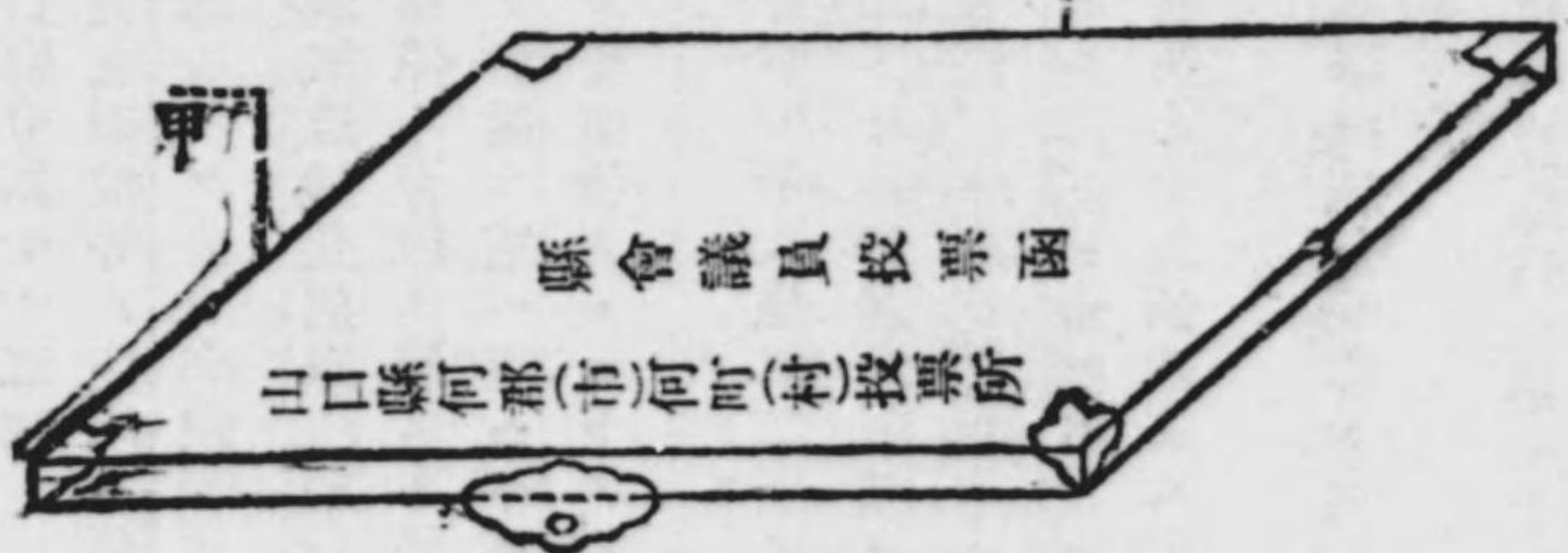
〔山口縣〕

〔山口縣〕

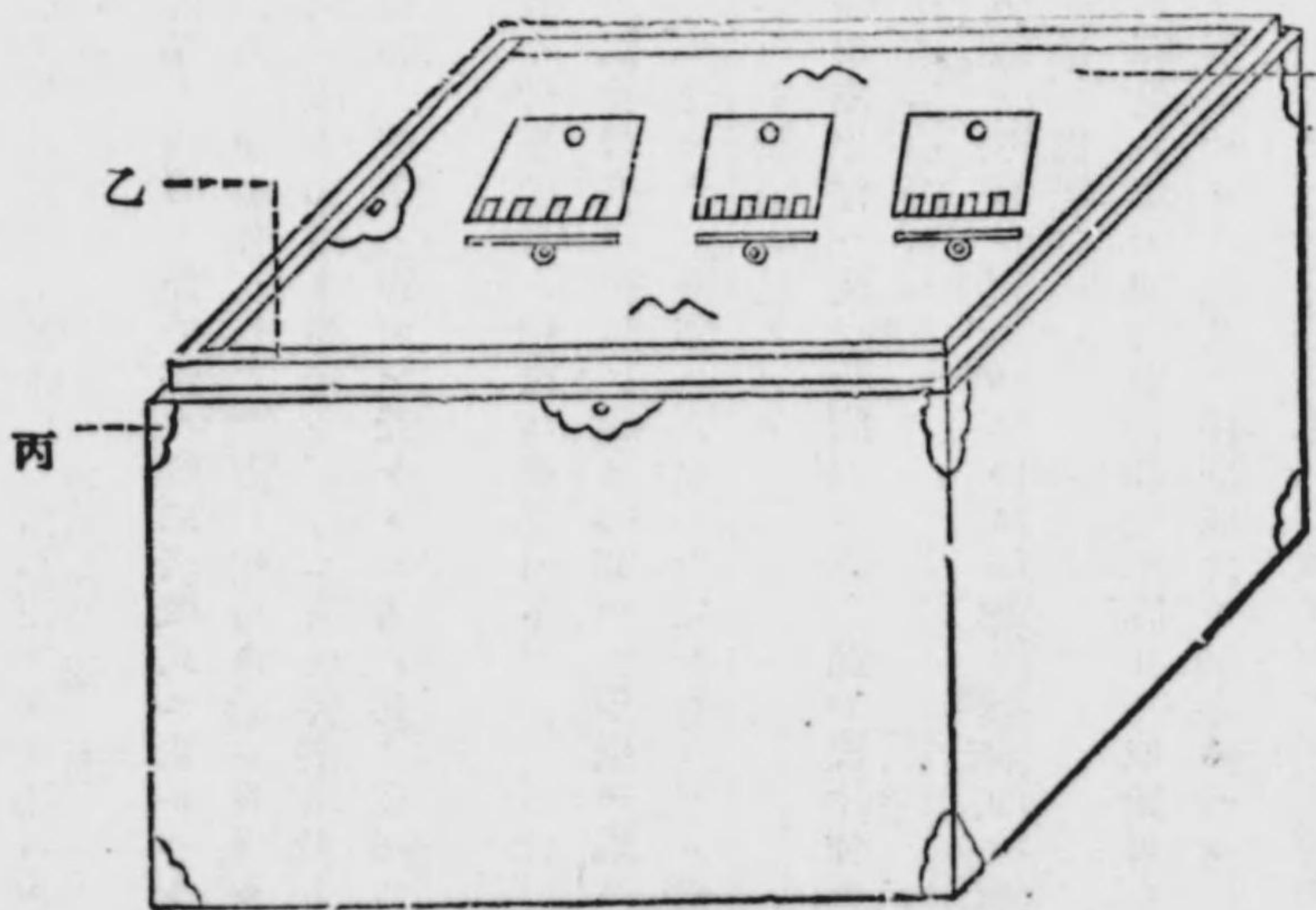
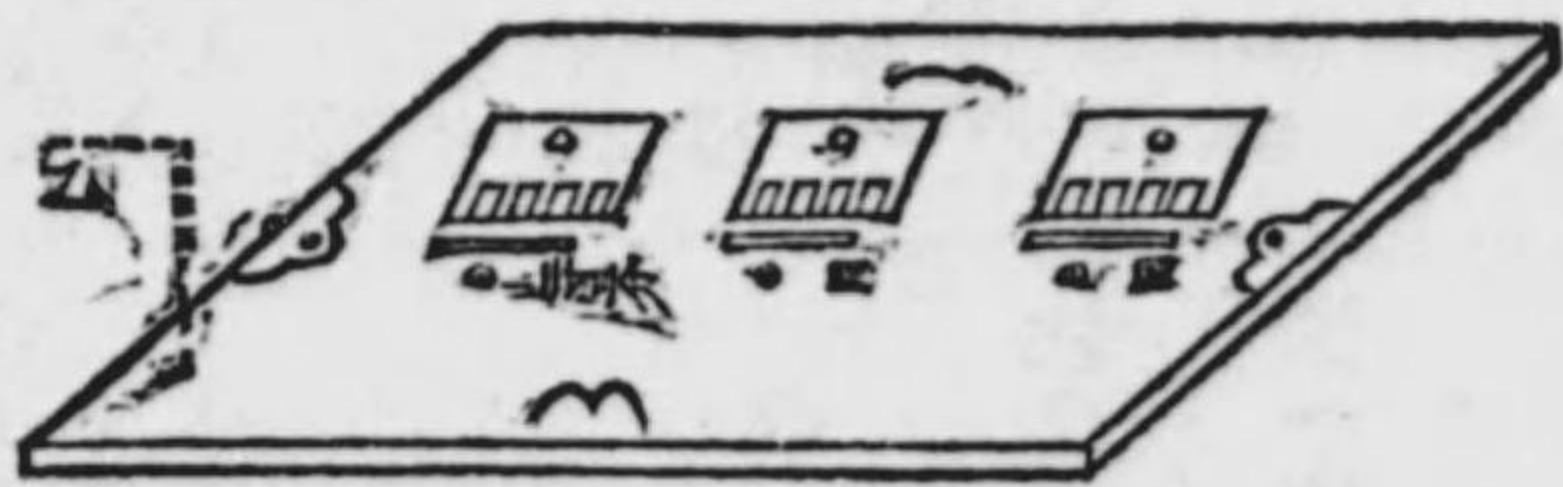
投票函様式

厚 上凡八分
高 凡二尺
幅 凡二尺五寸
横 凡一尺五寸
但シ大小ハ
選舉人ノ多
寡ニ應シ適
宜ニ之ヲ造
ルベシ

錠前
シニ同



此内錠ナ
錠蓋トシ
ハ用モ異
シ



投票口ハ便宜ニ從ヒ一箇又ハ二箇ト
ナスモ妨ナシ此ノ蓋ハ蝶番ニ造リ
票終レバ蓋ヲナシ錠ヲ卸ス但シ内蓋
ノ鑰ハ五箇所共一種ノモノヲ用フ

第三章 衆議院議員選舉法第三十三條ノ投票

第十五條 投票管理者衆議院議員選舉法施行令第二十九條ニ依リ投票用紙及投票用封筒ヲ交付シ又ハ郵便ヲ以テ發送シタルトキハ同時ニ選舉人名簿ニ其ノ旨付箋ヲ選舉ノ期日前投票用紙及投票用封筒ヲ返還シタル者アルトキハ直ニ付箋ヲ整理スヘシ

第十六條 投票管理者衆議院議員選舉法施行令第二十八條第一項但書ニ依リ召集令狀ヲ提示シタル選舉人ニ投票用紙及投票用封筒ヲ交付シタルトキハ召集令狀ノ餘白ニ其ノ旨ヲ記載シ署名スヘシ

第四章 開票

第十七條 市ノ區域ヲ分チテ數開票區ヲ設ケルノ必要アリト認ムルトキハ市長ハ其ノ理由各區域並其ノ選舉有權者概數及各豫定開票所等ヲ記シ開票ノ期日前十五日迄ニ知事ニ具申スヘシ

第十八條 開票管理者開票ノ場所及日時ヲ告示シタルトキハ直ニ之ヲ知事ニ報告スヘシ

第十九條 開票管理者ハ投票函到着シタルトキハ投票函及其ノ論ニ異狀ナキヤ百ヤチ検査シタル後之ヲ受領シ確實ニ之ヲ保管スヘシ

第二十條 開票管理者ハ總テノ投票函ノ到着シタルトキハ其ノ日時ヲ電信又ハ電話ヲ以テ選舉長及知事ニ報告スヘシ

第二十一條 開票管理者ハ開票所ニ於テ投票函ヲ開ケ前開票立會人立會ノ上投票函及其ノ論ニ異狀ナキヤ百ヤチ検査スヘシ

第二十二條 投票ノ點檢終リタルトキハ開票管理者ハ各議員候補者ノ得票數ヲ電信又ハ電話ヲ以テ知事ニ報告スヘシ

衆議院議員選舉法第四十九條第三項ノ報告ハ開票ノ翌日迄ニ選舉長ニ到達セシムヘシ

第五章 選舉會

第二十三條 選舉長選舉會ノ場所及日時ヲ告示シタルトキハ直ニ之ヲ知事ニ報告スヘシ

第二十四條 選舉會終リタルトキハ選舉長ハ各議員候補者ノ得票數ヲ電信又ハ電話ヲ以テ知事ニ報告スヘシ

第六章 議員候補者及當選人

第二十五條 選舉長ハ議員候補者ニ關シ左ノ事項ヲ選滯ナク知事ニ報告スヘシ

- 一 衆議院議員選舉法第六十七條第一項乃至第三項ノ届出ヲ受ケタルトキ議員候補者ノ氏名、爵位、勳等、職業、住居、生年月日、履歴ノ概要及推薦届出ニ係ルモノハ推薦届出者ノ氏名住居
- 二 衆議院議員選舉法第六十七條第四項ノ届出ヲ受ケタルトキハ氏名、届出ヲ受ケタル年月日及其ノ被選舉權ヲ有セサル爲選舉ノ期日前十日以内ニ議員候補者タルコトヲ辭シタルモノニ付テハ其ノ事由
- 三 議員候補者ノ死亡シタルコトヲ知リタルトキハ氏名及死亡ノ年月日

第二十六條 選舉長衆議院議員選舉法施行令第五十條第三項ノ通知ヲ爲ストキハ同時ニ投票管理者ニ其ノ旨通知スヘシ

第二十七條 議員候補者其ノ届出後住居ヲ他ノ市町村ニ移シタル場合ニ於テハ選舉長ハ直ニ議員候補者又ハ推薦届出者ヲシテ之ヲ届出テシメ新住居地ノ市町村長ニ衆議院議員選舉法施行令第五十條第一項ノ通知ヲ爲スヘシ

第二十八條 選舉長衆議院議員選舉法第七十二條第一項ノ報告ヲ爲ストキハ選舉會ノ寫ヲ添ヘ選舉會ノ翌日迄ニ到達セシムヘシ

第二十九條 選舉長衆議院議員選舉法第七十三條第三項ニ依リ當選承諾ノ

〔山口書〕

〔山口書〕

報告ヲ爲ス場合ニ於テ第二十五條第一號ノ事項ニ異動アルトキハ併セテ之ヲ報告スヘシ

第七章 補則

第三十條 投票所、開票所及選舉會場ニハ各入口ニ其ノ標札ヲ掲ケヘシ

第三十一條 投票所、開票所及選舉會場ニ於ケル選舉人ノ出入口等ニハ警察官吏ノ派遣ヲ要求シ又ハ特ニ吏員ヲ配置シ取締ヲ爲サシムヘシ

第三十二條 選舉會、衆議院議員選舉法施行令第三十三條ノ願末書、開票錄及選舉錄ハ各其ノ調製義務者ニ於テ其際本ヲ調製シ選舉人又ハ議員候補別記

投票所様式



補者ノ請求アリタルトキハ之ヲ閱覽セシムヘシ

第三十三條 投票函及點字器ハ選舉ヲ終リタル後市町村長ニ於テ之ヲ保管スヘシ

附則

本令ハ大正十四年法律第四十七號衆議院議員選舉法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正十四年法律第四十七號衆議院議員選舉法ニ依リ初テ議員ヲ選舉スル場合ニ於テ選舉人名簿用紙ノ請求ニ付第一條第一項ノ期日ニ依リ難キトキハ選舉ノ期日ノ公布アリタル後直ニ之ヲ請求スヘシ

衆議院議員選舉法第六條第三號 二關スル件

大正十五年四月十三日 庶務第一四三七號內務部長通牒

各(市)市長 各町村長宛

衆議院議員選舉法第六條第三號ニ謂フ貧困ニ因リ生活ノ爲公私ノ救助ヲ受ケ又ハ扶助ヲ受ケル者トハ貧困ノ状態ニ在ル者カ貧困ノ原因トシテ國道府縣市町村其ノ他公共團體又ハ私法人私人等ヨリ生活上全部又ハ一部ノ經濟的補助ヲ受ケル者ノ義ニシテ左記第一號乃至第六號ニ掲ケル如キモノヲ指稱シ第七號乃至第十九號ニ掲ケルモノノ如キハ該等セサルモノトス

- 一、乞食ヲ爲ス者
- 二、恤救規則ニ依リ救助ヲ受ケル者
- 三、養老院ニ收容セラレル者及養老院ヨリ院外救助ヲ受ケル者
- 四、貧困ニ陥リテ舊子弟ヨリ生活上ノ扶助ヲ受ケル者
- 五、養子トナリテ他家ニ入りタル者カ貧困ニ陥リタル爲實家ヨリ生活ノ補助ヲ受ケル者
- 六、生活ノ爲他ヨリ補助ヲ受ケル者ノ世帯ニ屬スル者
- 七、軍事救護法ニ依リ救助ヲ受ケル者
- 八、癡兵院法ニ依リ救助ヲ受ケル者
- 九、罹災救助ヲ受ケル者
- 一〇、恩給法等ニ依リ恩給又ハ遺族扶助料等ヲ受ケル者
- 一一、工場法、鑛業法、傭人扶助令ニ依リ扶助ヲ受ケル者
- 一二、各種共済組合ヨリ給與等ヲ受ケル者
- 一三、施藥施設ヲ受ケル者
- 一四、學費ノ補助ヲ受ケル者
- 一五、年末年始等ニ於テ何等カノ名義ノ下ニ施與ヲ受ケル者

〔山口警〕

〔山口警〕

- 上ノ家ト混同スルテ慮リ世帯ト云ヒタリ
- 七、軍事救護法ニ依リ救助ハ貧困ノ爲ニスル救助ニ非スシテ特別ノ勤務ニ對シ國家力軍人ヲ優遇スルノ精神ニ出ツルモノナリ殊ニ法第十七條ハ明文ヲ以テ本法ニ依リ救助ハ他ノ法令ノ適用ニ付テハ貧困ノ爲ニスル救助ト看做ササル旨ヲ規定セルヲ以テ本號ニ該當セサルコト明瞭ナリ
 - 八、癡兵院法ニ依リ救助ハ軍事救護法ニ依リ救助ト其ノ性質ヲ同シクス唯癡兵院法ニハ軍事救護法第十七條ノ如キ規定ナキモ法律制定ノ時期ヲ異ニスル關係上立法ノ精神ヲ明ニスル規定ヲ缺クニ止ル
 - 九、罹災救助ハ貧困ノ別ナク非常災害ニ罹リタル者ニ對スル救助ニシテ貧困ナルカ爲ノ救助ニ非ルヲ以テ本號ニ該當セス
 - 一〇、恩給法等ニ依リ恩給又ハ遺族扶助料等ハ之ヲ受ケル者ノ貧困ナルト否トニ關セス故ニ本號ニ該當セス
 - 一一、工場法、鑛業法、傭人扶助令ニ依リ扶助ハ之ヲ受ケル者ノ貧困ナルト否トニ關係セス故ニ本號ニ該當セス
 - 一二、各種共済組合ヨリ給與ハ相互共済ヲ性質トシ其ノ之ヲ受ケル者ノ貧困ナルト否トニ關係セス故ニ本號ニ該當セス
 - 一三、施藥施設ハ一般生活ノ爲ニ非スシテ特種ノ目的ニ出ツルモノナルカ故ニ本號ニ該當セス
 - 一四、學費ノ補助ハ一般生活ノ爲ニ非スシテ特種ノ目的ニ出ツルモノナルカ故ニ本號ニ該當セス
 - 一五、設例ノ如キ施設ハ一般生活ノ爲ニ非スシテ特種ノ目的ニ出ツルモノナルカ故ニ本號ニ該當セス
 - 一六、傳染病豫防法ニ依リ交通遮斷隔離ノ爲一時營業ヲ失ヒ自活シ能ハサル者ノ生活費ノ給與ハ一種ノ補償ニシテ貧困ナルカ爲ニ受ケル救助ニ非ス故ニ本號ニ該當セス

- 一六、傳染病豫防法ニ依リ生活費ヲ受ケル者
- 一七、親戚故舊ヨリ體面維持ノ爲補助ヲ受ケル者
- 一八、父兄ヨリ扶養ヲ受ケル子弟、或ハ子弟ヨリ扶養ヲ受ケル父兄其ノ他民法上ノ家族タルト否トヲ問ハス同一世帯内ニ在ル者ヨリ扶助ヲ受ケル者
- 一九、托鉢僧、雲水、巡禮等

理由

- 一、乞食ヲ爲ス者ハ他ヨリ施與ヲ受ケテ生活ヲ爲ス者ナルカ故ニ本號ニ該當ス
- 二、恤救規則ニ依リ救助ハ貧困ニ依リ生活ノ爲ノ救助ナルコト明白ナルヲ以テ本號ニ該當ス
- 三、各種養老院ニ收容セラレ又ハ養老院外ニ在リテ院外救助ヲ受ケル者ハ貧困ニシテ自己ノ資産又ハ勞務ヲ以テ生活ヲ爲シ能ハサルカ爲救助ヲ受ケルモノナレハ本號ニ該當ス
- 四、過去ニ於テ受ケタル師恩ニ報ユルノ動機ニ出ツルモノナリト雖其ノ扶助ハ舊師カ貧困ニ陥リ生活ニ窮スルカ爲ニ爲スモノナレハ本號ニ該當ス
- 五、養子トナリテ他家ニ入りタル者後貧困ニ陥リ生活ニ窮スルカ故實家ヨリ扶助ヲ受ケル場合ハ縱令民法上ノ扶養關係ニ在ル場合ト雖貧困ナルカ故ノ救濟ト見ルコト一般社會通念ナルヲ以テ本號ニ該當ス
- 六、家族制度ノ我國ニ於テハ家ヲ以テ一個ノ消費團體ト見ルヘク而シテ其ノ家内ニ在ル者ハ相互ニ扶養スヘキ道徳上ノ義務アリ若シ家ニ在ル者ノ力ヲ以テ扶養シ得サルカ爲他ヨリ扶助ヲ受ケル者アリトセハ其ノ家即チ消費團體カ扶助ヲ受ケルコトトナリ從テ其ノ團體ニ屬スル者ハ總テ貧困ナルカ爲生活上扶助ヲ受ケルモノニシテ本號ニ該當スルモノトス(此處ニ謂フ世帯トハ消費團體ト認メラルル家ヲ指スモノニシテ民法

- 一七、親戚故舊等ヨリ經濟的補助ヲ受ケル場合ニ於テモ其ノ補助ニシテ生活ノ爲ニアラスシテ單ニ體面ヲ維持センカ爲ト認メラルル場合ハ本號ニ該當セス蓋シ一般生活ノ爲ノ救助扶助ニ非ルカ故ナリ
- 一八、家族制度ヲ基本トスル我國ニ於テハ家ヲ以テ社會上消費團體ト見ルヘク而シテ其ノ消費團體タル家ノ中ニ在ル者ハ相互ニ扶養スル道徳上ノ義務アリ故ニ同一家ノ中ニ在ル者ヨリ扶養ヲ受ケル場合ヲ以テ貧困ノ爲ノ救助ト見サルコト社會通念ナリサレハ消費團體タル家ニ在ル親又ハ兄ヨリ扶養ヲ受ケル子又ハ弟或ハ子又ハ弟ヨリ扶養ヲ受ケル親又ハ兄ハ貧困ナルカ爲ニ扶養ヲ受ケルモノニ非ス故ニ本號ニ該當セス又縱令親子兄弟各々建物ヲ異ニシテ生活スル場合ト雖唯單ニ建物ヲ異ニスルニ止リ之ヲ包括シタルモノヲ社會上一個ノ消費團體ト見ルチ妥當トスル場合ニ於テハ其ノ者相互間ノ扶養モ亦本號ニ謂フ貧困ナルカ爲ノ生活上ノ救助扶助ニ非ス更ニ又民法上ノ扶養權利關係及親族關係ナキ者ト雖同一消費團體内ニアリト認メラルル者ニ關シテモ同様ナリ(此處ニ謂フ世帯トハ前述ノ消費團體タル家ヲ指スモノニシテ民法上ノ家ト混同セラレタルテ慮リ世帯ト云ヒタリ)
- 一九、托鉢僧、雲水、巡禮等ハ宗教上ノ修養ノ爲ノモノニシテ貧困ノ爲ノ救助ニ非レハ本號ニ該當セス

縣會議員選舉事務取扱手續

昭和二年四月二十六日 山口縣訓令第二十八號

市町村長 投票管理署 開票管理署 選舉長

縣會議員選舉事務取扱手續左ノ通定ス

縣會議員選舉事務取扱手續

第一章 選舉人名簿

第一條 大正十五年八月内務省令第三十九條ニ依リ選舉人名簿ヲ調製スヘキ市町村ニ於テハ市町村長ハ毎年七月十五日迄ニ名簿用紙ノ所要數ヲ知事ニ請求スヘシ

前項ノ選舉人名簿用紙ニ殘餘ヲ生シタルトキハ市町村長ニ於テ之ヲ保管シ翌年ノ請求ニ付テハ之ヲ控除スヘシ

第二條 市町村長ハ選舉人名簿中誤載及失權者又ハ死亡者アリタルトキハ其ノ旨名簿ニ附録スヘシ

第三條 選舉人名簿確定シタルトキハ市町村長ハ直ニ其ノ人員ヲ知事ニ報告スヘシ

第二章 投票

第四條 市町村ノ區域ヲ分チテ數投票區ヲ設ケルノ必要アリト認ムルトキハ市町村長ハ其ノ理由、各區域並其ノ選舉有權者概數及各豫定投票所間ノ距離等ヲ記シ選舉ノ期日ノ告示アリタル後直ニ知事ニ具申スヘシ

數町村ノ區域ヲ合セテ一投票區ヲ設ケルノ必要アリト認ムルトキハ關係町村長ハ其ノ理由及各町村ノ選舉有權者概數並豫定投票所等ヲ記シ選舉ノ期日ノ告示アリタル後直ニ知事ニ具申スヘシ

第五條 島嶼其ノ他交通不便ノ地ニシテ投票期日ヲ繰上タルノ必要アリト認ムルトキハ市町村長ハ其ノ理由及繰上タルヘキ見込日數等ヲ記シ總選舉ノ場合ニ在リテハ選舉ノ期日前三十日迄ニ補開選舉ノ場合ニ在リテハ開員ノ生シタルコトヲ知リタル後直ニ知事ニ具申スヘシ

第六條 投票管理者投票所ヲ告示シタルトキハ告示ノ月日ヲ具シ直ニ知事ニ報告スヘシ

第七條 市町村長府縣制施行令第三條第一號ノ規定ニ依リ投票管理者ヲ指定シタルトキハ直ニ之ヲ選舉長(開票區ヲ設ケタル場合ニ於テハ開票區ヲ設ケタル場合ニ於テハ開票管理者並選舉長)及知事ニ報告スヘシ

〔山口書〕

第八條 投票所ヲ市役所、町村役場ノ外ニ設ケル場合ニ於テハ成ルヘク門戸アル場所ヲ指定スヘシ

第九條 投票所ノ様式及設備ハ衆議院議員選舉投票所ノ例ニ準スヘシ

第十條 投票函ハ一投票所ニ付一個ヲ使用スヘシ

第十一條 投票ハ投票記載ノ爲設ケタル卓上ニ於テ之ヲ記載セシメ其ノ記載終リタルトキハ直ニ投票シムヘシ

投票記載ノ爲設ケタル卓上ニハ筆硯墨及點字器ヲ備ヘ置キ投票記載ニ支障ナカラシムヘシ

第十二條 投票函ノ内蓋及外蓋ノ鑰ハ投票函閉鎖後各別ニ之ヲ封筒ニ入レ封緘シ投票管理者及投票立會人ニ於テ封印ヲ施シ更ニ投票函ヲ送致スル者ニ於テ之ヲ各別ニ封筒ニ入レ封緘シ封印ヲ施シ其ノ表面ニ投票區名内蓋ノ鑰外蓋ノ鑰ノ別及送致者氏名ヲ記載スヘシ

第十三條 投票管理者府縣制第二十一條(開票區ヲ設ケタル場合ニ於テハ)規定ニ依リ送致ヲ爲ストキハ同時ニ投票錄ノ寫ヲ送付スヘシ

第十四條 天災事變等ノ爲所定ノ期日ニ投票函ヲ送致スルコト能ハサルトキハ投票管理者ハ選舉長(開票區ヲ設ケタル場合ニ於テハ)又知事ニ電信又ハ電話ヲ以テ其ノ旨報告スヘシ

第十五條 天災事變等ノ爲投票ヲ行フコトヲ得サルトキハ更ニ投票ヲ行フノ必要アルトキハ市町村長ハ其ノ投票區及投票ヲ行フヘキ見込期日等ヲ具シ直ニ知事ニ報告シ同時ニ選舉長(開票區ヲ設ケタル場合ニ於テハ)其ノ旨ヲ通知スヘシ

第十六條 投票管理者ハ投票用紙及封筒ノ種類別受拂計算書ヲ作リ殘餘及汚損ノ投票用紙並封筒ヲ添ヘ投票函送致ト同時ニ選舉長(開票區ヲ設ケタル場合ニ於テハ)ニ送付スヘシ

〔山口書〕

選舉長(開票區ヲ設ケタル場合ニ於テハ開票管理者)ハ前項ノ計算書及投票用紙並封筒ヲ取據メ知事ニ送付スヘシ

第三章 開票

第十七條 府縣制第二十三條ノ二ノ規定ニ依リ開票區ヲ設ケル場合ニ於テハ本章ノ規定ニ依ル

第十八條 市ノ區域ニ於テ開票區ヲ設ケルノ必要アリト認ムルトキハ市長ハ其ノ理由、各區域並其ノ選舉有權者概數及各豫定開票所等ヲ記シ選舉ノ期日ノ告示アリタル後直ニ知事ニ具申スヘシ

第十九條 開票管理者開票ノ場所及日時ヲ告示シタルトキハ直ニ之ヲ選舉長(府縣制施行規則第二十七條)及知事ニ報告スヘシ

第二十條 開票管理者ハ總テノ投票函ノ到著シタルトキハ其ノ日時ヲ電信又ハ電話ヲ以テ選舉長ニ報告スヘシ

第二十一條 開票管理者府縣制施行令第十條ノ規定ニ依リ送致ヲ爲ストキハ開票錄ノ寫及第十三條ノ規定ニ依リ送付ヲ受ケタル投票錄ノ寫ヲ添ヘ開票ノ翌日迄ニ選舉長ニ到達セシムヘシ

第二十二條 天災事變等ノ爲所定ノ期日ニ開票所ヲ開クコトヲ得サルトキハ開票管理者ハ直ニ選舉長及知事ニ報告スヘシ

第二十三條 第二十五條及第二十七條ノ規定ハ開票所ニ之ヲ準用ス

第四章 選舉會

第二十四條 選舉長選舉會ノ場所及日時ヲ告示シタルトキハ直ニ之ヲ知事ニ報告スヘシ

第二十五條 選舉長ハ投票函到著シタルトキハ投票函及其ノ鑰ニ異狀ナキヤ否ヲ検査シタル後之ヲ受領シ確實ニ之ヲ保管スヘシ

第二十六條 選舉長ハ總テノ投票函ノ到著シタルトキハ其ノ日時ヲ電信又ハ電話ヲ以テ知事ニ報告スヘシ

第二十七條 選舉長ハ選舉會ニ於テ投票函ヲ開ク前選舉立會人立會ノ上投票函及其ノ鑰ニ異狀ナキヤ否ヲ検査スヘシ

第二十八條 選舉會終リタルトキハ選舉長ハ各議員候補者ノ得票數ヲ電信又ハ電話ヲ以テ知事ニ報告スヘシ

第二十九條 天災事變等ノ爲所定ノ期日ニ選舉會ヲ開クコトヲ得サルトキハ選舉長ハ直ニ知事ニ報告スヘシ

第五章 議員候補者及當選人

第三十條 選舉長ハ議員候補者ニ關シ左ノ事項ヲ遲滞ナク知事ニ報告スヘシ

一 府縣制第十三條ノ二第一項乃至第三項ノ規定ニ依リ届出ヲ受ケタルトキハ議員候補者ノ氏名、爵位、勳等、職業、住所、生年月日、履歷ノ概要及推薦届出ニ係ルモノハ推薦届出者ノ氏名、住所

二 府縣制第十三條ノ二第四項ノ規定ニ依リ届出ヲ受ケタルトキハ氏名、届出ヲ受ケタル年月日及其ノ被選舉權ヲ有セサルニ至リタル爲選舉ノ期日前十日以内ニ議員候補者タルコトヲ辭シタルモノニ付テハ其ノ事由

三 議員候補者ノ死亡シタルコトヲ知リタルトキハ其ノ氏名及死亡ノ年月日

第三十一條 選舉長ハ議員候補者ノ議員候補者タルコトヲ辭シタルトキ又ハ其ノ死亡シタルコトヲ知リタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ投票管理者ニ通知スヘシ

第三十二條 選舉長ハ當選者ニ當選ノ告知ヲ爲ストキハ受領書又ハ配達證明ヲ徴シ其ノ月日ヲ直ニ知事ニ報告スヘシ

第三十三條 府縣制第三十一條第一項ノ報告ハ選舉會ノ翌日迄ニ到達セシムヘシ

前項ノ報告ヲ爲ス場合ニ於テ第三十條第一號ノ事項ニ異動アルトキハ併セテ之ヲ報告スヘシ

補則

第三十四條 投票所、開票所及選舉會場ニハ各入口ニ其ノ標札ヲ掲クヘシ
第三十五條 投票所、開票所及選舉會場ニ於ケル選舉人ノ出入口ニハ警察官吏ノ派遣ヲ要求シ又ハ特ニ吏員ヲ配置シ取締ヲ爲サシムヘシ
第三十六條 投票函及點字器ハ選舉ヲ終リタル後市町村長ニ於テ之ヲ保管スヘシ

附則

本令ハ次ノ總選舉ヨリ之ヲ施行ス
大正十二年七月山口縣訓令第三十一號縣會議員選舉施行手續ハ之ヲ廢止ス

● 縦覽ニ供シタル人名簿加除修正ノ件

明治三十二年九月二十八日
地甲第八八號內務省地方局長通牒

各府縣長官宛

衆議院議員府縣(郡)市町村會議員ノ選舉人名簿ハ一旦縦覽ニ供シタル以上ハ名簿中假令脱漏誤載等アルコトヲ發見スルモ決定裁決判決ノ結果ニ因ルノ外理事者限リ加除修正スルコトヲ得サル旨決定候條爲御心得此段及通牒候也

● 衆議院議員選舉人名簿ニ關スル件

昭和三年一月十九日
庶第四三號

佐賀縣知事照會

標記ノ件ニ關シ左記事項聊カ疑義相生シ候條何分ノ御回示相煩度

〔山口警〕

追テ本件ハ差當リ至急ヲ要スルヲ以テ右御手致ナカラ電報ヲ以テ御回示ヲ得度

記

昭和二年九月十五日ノ現在ニ依リ調製シタル衆議院議員選舉人名簿ニ登錄セラレタル選舉人ニシテ九月十六日以後死亡シ又ハ他ノ市町村ニ轉居シタル爲町村長ニ於テ誤テ之ヲ抹消シタルトキ
イ 縦覽開始後名簿確定前迄ニ於テ抹消シタルモノハ法第百二條第一項第一號ノ規定ニ依リ「選舉人名簿確定ノ日ニ於テ之ニ記載セラレタル者ノ總數」ニ算入セス從テ選舉權ノ行使ヲ爲スコトヲ得サルヤ
ロ 名簿確定後ニ於テ抹消シタルモノハ之ヲ抹消ト認メスシテ法第百二條第一項第一號ノ規定ニ依リ「總數」ニ算入シ選舉權ノ行使ヲ爲スコトヲ得ルヤ

內務省地方局長回答 (昭和三年一月二十三日)
電報

十九日照會衆議院議員選舉人名簿抹消ニ關スル件總テ總數ニ算入シ選舉權ヲ行使シ得ト認ム

● 町村會議員ノ選舉ニ關スル件

廣島縣知事照會 (昭和五年七月五日)
地第六四五號

標記ノ件左ノ通り疑義有之候條差掛リタル次第モ有之電信ニテ何分ノ義御回示相煩シ度候也

記

一 町村會議員選舉ノ結果制第二十七條第二項ノ規定ノ適用ヲ受ケタル得票者ニシテ當選者トナラザリシ者アルトキハ甲議員死亡ニ依リ開選ヲ生シタル場合ハ假令乙議員ノ當選ニ關スル訴訟繼續中ト雖モ第十七

〔山口警〕

條第一項ニ依リ直ニ選舉會ヲ開キ當選者ヲ定メ差支ヘナキヤ

二 前項ノ通トシテ開選者補充シタル後ニ於テ當選無効ト確定シタルモノアルトキハ第三十四條第二項ニ依リ選舉會ヲ開キ第二十七條第一項但書ノ得票者ニシテ當選者ト爲ラザリシ者ノ中ヨリ當選者ヲ定メ差支ヘナキヤ

內務省地方局長回答 (昭和五年七月十八日)
電報

七月五日地方六四五號照會町村會議員選舉ノ件總テ御見込ノ通

第四章 銃砲火藥類 其ノ他

第一節 銃砲火藥類

● 銃砲火藥類取締法施行手續

昭和二年一月十八日
山口縣令第六號

明治四十四年五月山口縣令第四十四號銃砲火藥類取締法施行手續左ノ通改正ス

銃砲火藥類取締法施行手續

第一條 銃砲火藥類取締法及本手續ニ基キ當廳ニ差出スヘキ願届書ハ所轄警察署ヲ經由スヘシ

本手續ニ於テ法ト稱スルハ銃砲火藥類取締法、規則ト稱スルハ銃砲火藥類取締法施行規則、細則ト稱スルハ銃砲火藥類取締法施行細則ヲ謂フ

第二條 細則第三十四條ノ規定ニ依ル火藥類假貯藏所ノ設備ハ左ノ各號ノ制限ニ從フヘシ但地下又ハ水上ニ設クル假貯藏所ニ關シテハ特別ノ設備ヲ許可スルコトアルヘシ

一、木造、煉瓦造又ハ土藏造ノ平屋建ト爲シ外壁面ニ燃質物ヲ露ハササルコト

二、屋根ノ外面ニハ瓦又ハ輕量ナル不燃質物ヲ用キ内部ヨリ壓力ヲ加フルトキハ容易ニ屋蓋ヲ昂起シ得ヘキ構造ト爲スコト

三、扉ニハ防火ノ設備ヲ爲シ且窓ヲ設クルトキハ透明ノ硝子ヲ用キサルト

四、内面ニハ土砂ノ剥落飛散ヲ防クノ裝置ヲ爲シ鐵類ヲ露ハササルコト

五、床ハ密ニ張り詰メ鐵類ヲ露ハササルコト

第二編 保安 第四章 銃砲火藥類 其ノ他

六、避雷針及之ニ代ルヘキ裝置ヲ爲スコト但其ノ使用期間短日月ニシテ雷鳴期ニアラサル場合ハ之ヲ省略スルコトヲ得

七、周圍ニハ外壁ヨリ堤脚マテ九十五厘米突(三尺一寸強)乃至十六厘米突九十厘米(五間五尺九寸強)ノ距離ニ於テ成可庫壁ニ接近シテ屋頂ノ高サト同一以上且頂部ノ厚サ九十三厘米突(三尺強)以上ノ土堤ヲ設ク

コト但天然又ハ人造ノ掩體ノ狀態其ノ他ノ狀況ニ依リ危險ノ虞ナシト認ムルトキハ土堤ノ全部又ハ一部ノ省略ヲ許可スルコトアルヘシ此ノ場合ニ於テハ適當ノ場所ニ圍牆ヲ建設シ警戒札ヲ建ツヘシ

第一項但書ニ依リ地下ニ設クル火藥類假貯藏所ハ丘陵ノ斜面又ハ隧道ノ側壁ニ洞穴ヲ穿チ之ヲ設クルコトヲ得

前項ノ火藥類假貯藏所ニ對シテハ其ノ狀況ニ依リ第一項各號ノ設備ヲ斟酌シテ許可スルコトアルヘシ

第三條 火藥類假貯藏所ニハ其ノ土地ノ狀況ニ依リ規則第三十三條第一項各號以上ノ距離ヲ指定スルコトアルヘシ

第四條 火藥類貯藏所ノ新設、増築、改築、修繕模様替等ノ許可申請書ニハ細則第三十一條規定ノ外左ノ各號ヲ具スルコトヲ要ス

一、敷地及建物ノ坪數

二、建物ノ縱橫各斷面圖(縮尺百分ノ一)

三、敷地ノ周圍四百三十七米突(二百四十間強)以内ノ地物ヲ表示セル圖面(六百分ノ一)

四、建設物ノ位置及建物相互ノ距離ヲ表示セル平面圖(百分ノ一)

五、構造仕様書及工事著手竣工期日

火藥類貯藏倉庫ニハ前項第一號第二號第四號第五號ヲ準用シ及周圍十米突以内ノ地物ヲ表示シタル圖面ヲ提出スヘシ

貯藏所ニ以上相接スル場合ニ於テハ各庫間ノ兼用土堤ハ之ヲ省略スルコト

トヲ得ス
火藥類貯藏所ノ工事落成シタルトキハ當廳ノ檢査ヲ受ケルニ非ラサレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス但避雷針地中飯ハ檢査前ニ於テ之ヲ埋設スヘカラス

第五條 避雷針ノ設備ハ左ノ制限ニ從フヘシ

- 一、避雷針ハ堅牢ナル鐵柱若ハ木柱ヲ用キ其ノ桿頭ニハ本針一、支針三ニシテ成ル尖針ヲ用キ各針頭ニハ完全ニ防錆ヲ施スヘシ
- 二、尖針ヨリ地中飯ニ達スル電導線ハBS十二番軟銅線九個以上ノ捻線トナスヘシ
- 三、地中飯ハ一平方米突以上ノ銅板ヲ用ユヘシ
- 四、尖針ト電導線並地中飯ハ完全ナル電氣的接合ヲナスヘシ
- 五、地中飯ハ常ニ水氣ヲ含有スル地下ニ埋設スヘシ

第六條 銃砲火藥類作業所及貯藏所ノ新設、増築、改築、修繕、模様替ノ許可ヲ受ケ正當ノ事由ナク六ヶ月以内ニ工事ニ著手セス又ハ竣工期日ヲ經過スルモ尙ホ竣工ノ見込ナキトキハ其ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ

買賣讓渡等ニ依リ火藥類貯藏所ノ所有者名義ヲ變更セムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シ双方連署ノ上當廳ニ届出ツヘシ但引續キ之ヲ使用セムトスルモノハ其ノ旨ヲ附記スヘシ
火藥類貯藏所ノ使用ヲ廢止シタルトキハ五日以内ニ其旨ヲ當廳ニ届出ツヘシ

第七條 火藥類貯藏所ニ火藥類ヲ貯藏スルニハ細則第二十九條規定ノ外掲示板ヲ設ケ其ノ最大貯藏種類數量及現在數量ヲ表記シ且製造年次ニ區別シ之ヲ推積スヘシ

〔山口警〕

第八條 銃砲火藥類製造業者ニシテ職工其ノ他ノ勞務者ヲ雇入レタルトキハ其ノ本籍、住所、氏名、年齢ヲ具シ七日以内ニ所轄警察署ニ届出ツヘシ之ヲ解雇シタルトキ亦同シ

第九條 銃砲火藥類製造業者及販賣業者ニシテ銃砲火藥類ノ輸出又ハ輸入ヲ爲サムトスルトキハ其ノ都度少ナクモ一週間前ニ細則第十一條及同第十三條ノ規定事項ヲ當廳ニ届出ツヘシ

第十條 銃砲火藥類製造業者及同販賣業者ニシテ規則第四十二條ノ規定ニ依リ銃砲火藥類ヲ移出讓渡シタルトキハ讓受人ノ住所、氏名、年齢、職業、讓渡年月日、種類、數量、用途、消費場所及移入許可證寫ヲ添ヘ當廳ニ届出ツヘシ

第十一條 規則第三十八條ノ規定ニ依リ地盤又ハ物件ノ破砕ヲ目的トスル火藥類使用許可申請書ニハ破砕ヲ要スル事由、目的、場所、日時及使用スル火藥類ノ種類數量、使用期間並危險豫防ノ方法ヲ具スルコトヲ要ス

前項ニ依リ火藥類ヲ使用スル場合ハ現場ヨリ百米突以上ノ距離ニ於テ該職シ得ヘキ方法ニ依リ赤旗ヲ樹テ且必要ニ應ジ適當ノ人員ヲ配置警戒スヘシ

第十二條 規則第三十九條ノ規定ニ依リ武器ノ授受運搬又ハ携帯ノ許可申請書ニハ住所氏名、生年月日、種類、數量、授受、運搬又ハ携帯ノ事由並授受ニ在リテハ讓渡、讓受又ハ貸借等ノ區別、運搬ニ在リテハ通路、到着地名ヲ具スルコトヲ要ス

第十三條 銃砲火藥類製造業者及同販賣業者ニシテ其ノ製造所及販賣所ノ位置ヲ變更セムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シ當廳ノ許可ヲ受ケヘシ

第十四條 火藥類製造業者及同販賣業者ニシテ火藥類作業主任者及火藥類取扱人ヲ定メタルトキハ其ノ本籍、住所、氏名、履歴及免狀ノ寫ヲ添ヘ

〔山口警〕

七日以内ニ當廳ニ届出ツヘシ之ヲ變更シ又ハ解雇シタルトキ亦同シ

第十五條 自動車ヲ火藥類運搬ノ用ニ供セムトスルモノハ左ノ各號ヲ具シ當廳ノ許可ヲ受ケヘシ

- 一、自動車ノ種類
- 二、貨車ノ構造(箱形トナシ内部ニ鐵具ヲ露ハササルコト)
- 三、貨車ノ内容積(縦何尺、横何尺、深サ何尺)
- 四、貨車ノ轍ノ種類(護謨製トナスコト)

貨車ハ原動機ノ取付ナキモノヲ索引自動車ヲ以テ牽引シ火藥類積載貨車ト原動機トヲ容易ニ離脱シ得ル裝置トナスコト

火藥類ヲ運搬スル自動車ハ特ニ當廳ニ於テ車體檢査ヲ受ケ合格シタルモノニアラサレハ使用スルコトヲ得ス

第十六條 索道ヲ火藥類運搬ノ用ニ供セムトスルモノハ細則第三十九條ノ二ノ規定ノ外左ノ各號ヲ遵守スヘシ

- 一、索道専用ノ電話ヲ架設シ若ハ標識其ノ他ノ方法ニ依リ火藥類運搬ニ關スル通信ヲ爲スコト
- 二、積載セル火藥類ハ搬器ヨリ見越得サル程度トナスコト
- 三、搬器ニハ赤旗ヲ付スルコト
- 四、日出前及日没後ハ運搬セサルコト
- 五、運轉速度ハ普通貨物ノ二分ノ一以内トナスコト

第十七條 細則第四條第一項第一號乃至第三號及同則第六條ノ二丙種ニ依リ甲種火藥類取扱免狀及丙種火藥類作業主任者免狀ノ交付ヲ受ケムトスルモノハ原籍、住所、氏名、職業、履歴書、學業證書寫及技能證明書寫並戸籍謄本又ハ抄本ヲ添ヘ當廳ニ申請スヘシ

現役軍人ニ在リテハ前項ノ外所屬部隊長ノ證明書ヲ添付スルコトヲ要ス

第十八條 火藥類取扱免狀及丙種火藥類作業主任者免狀ヲ有スル者免狀ヲ

毀損亡失シ又ハ原籍、住所、氏名ニ異動ヲ生ジタルトキハ遲滞ナク其ノ再下付又ハ書換ヲ當廳ニ申請スヘシ

前項ノ免狀ヲ有スル者死亡シタルトキハ戸籍法上ノ届出義務者ヨリ七日以内ニ免狀ヲ返納スヘシ

第十九條 火藥類取扱人及丙種火藥類作業主任者ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ハ其ノ改任ヲ命シ又ハ免狀ノ返納ヲ命スルコトアルヘシ

- 一、就業中ノモノニシテ不適任ト認メタルトキ
- 二、法令ニ違反シタルトキ
- 三、公安ヲ害スルノ虞アリト認メタルトキ

第二十條 銃藥法ニ依リ銃物ノ試掘若ハ探掘ヲ爲ス者ニシテ火藥類ヲ消費スル場合及規則第十八條各號以外ノ火藥類消費者ニハ左ノ各號ヲ適用ス

- 一、事業者ハ火藥類取扱人又ハ係員ヲ置キ火藥類ノ授受其ノ他ノ取締ニ關スル事項ヲ掌ラシムルコト
- 二、火藥類取扱人又ハ係員ヲ定メタルトキハ其ノ本籍、住所、氏名、生年月日及履歴ヲ具シ所轄警察署ニ届出ツヘシ之ヲ變更シタルトキ亦同シ
- 三、火藥類取扱人又ハ係員ハ一日間ノ使用見積高ヨリ多量ノ火藥類ヲ同時ニ搬出スヘカラス
- 四、火藥類ヲ使用シタル者ハ其ノ殘餘アルトキハ即日火藥類取扱人又ハ係員ニ還付スヘシ
- 五、火藥類取扱人又ハ係員ハ火藥類ノ使用ニ關シテ號樣式ニ依リ帳簿ヲ製シ火藥類消費ノ度其ノ收支ヲ明カニスヘシ

火藥類係員ニシテ不適任ト認ムルトキハ改任ヲ命スルコトアルヘシ

第二十一條 規則第二十二條第二項ニ依リ認可申請書ハ其ノ事由發生ノ日

第二編 保安 第四章 銃砲火藥類 其ノ他

第二十二條 銃砲火藥類製造又ハ販賣ノ業ヲ營ム者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ十日以内ニ其旨ヲ當廳ニ届出ツヘシ

一、轉居又ハ改氏名シタルトキ
二、廢業又ハ事業ヲ休止シタルトキ
三、休止中ノ事業ヲ開始シタルトキ
四、死亡シタルトキ

第二十三條 仕込刀劍其ノ他變裝シタル武器ノ製造又ハ販賣ノ業ヲ營ムトスルモノハ左ノ事項ヲ具シ當廳ニ届出許可ヲ受クヘシ

一、本籍、住所、職業、氏名生年月日
二、製作ノ目的、製作品ノ種類、説明及解説圖
三、製造所及販賣所ノ位置
四、作業所ノ設備及之ニ關スル圖面

許可後前項各號ノ事項ヲ變更セムトスルトキハ其ノ事由及圖面ヲ具シ更ニ當廳ノ許可ヲ受クヘシ

第二十四條 軍用銃砲又ハ拳銃、短銃、仕込銃ヲ所持スル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ七日以内ニ其ノ種類數量ヲ所轄警察署ニ届出ツヘシ

一、住所氏名ヲ變更シタルトキ
二、他ノ道廳府縣へ移轉セムトスルトキハ移轉前
三、他ノ道廳府縣ヨリ移轉シタルトキ
四、輸入又ハ移入ヲナシタルトキ

甲號様式 表面
何年度

銃砲(火藥類)製造明細簿

〔山口書〕

製造業者 何 某

細則第二十三條同第二十四條ノ規定ニ依ル届書ニハ銃砲火藥類ノ種類、數量、所有權取得ノ事由及廢業年月日ヲ記載スヘシ
相續又ハ遺贈ニ依リ所有權ヲ取得シタル者未成年者ナルトキハ後見人又ハ親權者ヨリ前項ニ準シ届出ヲ爲スヘシ
第二十五條 細則第七條ノ規定ニ依ル帳簿ハ年別トシ銃砲火藥類製造業者ノ帳簿ハ甲號様式同販賣業者ノ帳簿ハ乙號様式ニ依リ調製スヘシ
細則第四十八條ニ依ル安定度試験ノ結果ハ丙號様式ニ依ル帳簿ヲ調製シ其ノ成績ヲ記入スヘシ
前項ノ試験ヲ行ヒタルトキハ試験年月日試験場所其ノ他必要ナル事項ヲ記シ試験施行者ノ認印ヲ捺捺シタルモノヲ火藥箱ノ見易キ箇所ニ貼付スルコトヲ要ス
必要ト認メタルトキハ當廳ニ於テ第二項ノ試験ヲ行フコトアルヘシ此ノ場合ニ於ケル損害ハ所有者ノ負擔トス
第二十六條 第四條第四項第六條第二項第七條第八條第九條第十條第十一條第十二條第十三條第十四條第十五條第十六條第十七條第十八條第二十條第二十一條第二十二條第二十三條第二十四條第一項各號ニ違反シタル者及第二十三條ニ依リ許可ヲ得スシテ仕込刀劍其ノ他變裝シタル武器ヲ製造又ハ販賣シタルモノハ拘留又ハ科料ニ處ス

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔山口書〕

製造年月日		種類	數量	備考
(製造ノ部)				
内部ノ一				
(讓渡ノ部)				
内部ノ二				
取引年月日	種類	數量	住讓 所受 氏名	計 備考

備考 一種類毎ニ座別ヲナシ一冊トナスコト

内部ノ三
收支月計

月別	前年末現在高		種類
	製造高	讓渡高	
月一			
以下順テ 逐ニ至ル			
月末現在高			

注意 製造ノ部、讓渡ノ部、收支月計ハ座分ヲナシ一冊トナスコト
甲號様式ノ二 表面
何年度

第二編 保安 第四章 銃砲火藥類 其ノ他

甲號様式ノ二 (内部)

銃砲販賣ノ部

一定ノ期間製作ノ豫定數量	備考
作業所ノ位置	
許可ヲ受ケタル者	
許可年月日	
販賣所ノ位置	
貯藏所ノ位置	
備考	

甲號様式ノ三 (内部)

火藥類製造ノ部

一定ノ期間内ニ製作スヘキ豫定數量	備考
製作品ノ種類及成分	
營業又ハ非營業ノ別	
製造變形又ハ修理ノ別	
許可年月日	
許可ヲ受ケタル者	

〔山口書〕

〔山口書〕

甲號様式ノ四 (内部)

火藥類販賣ノ部

備考	作業所ノ位置
	貯藏所ノ位置
	作業主任者

乙種様式 (内部)

火藥庫及倉庫ノ部

許可ヲ受ケタル者	許可年月日	備考
甲種又ハ乙種ノ別	販賣所ノ位置	
	貯藏所ノ位置	
	火藥類取扱人	
許可年月日	位	
置	置	
最大貯藏	地建物及敷	
建物種別	所有者住所氏名	

備考 火藥庫ト倉庫トハ座分チナシ一冊トナスコト

乙號様式ノ二 (内部)

假貯藏所ノ部

許可年月日	位	置	建物種別	最大貯藏數量	使用期間	事業別	所有者住所氏名
備考							

丙號様式 (内部)

軍用銃砲、戎器ノ部

製造所名	種類	番号	號個	數	讓受許可年月日	住所	所持者名
備考	軍用銃砲、拳銃、短銃其ノ他ノ戎器ハ各座分チナシ一冊トナスコト						

丁號様式 (内部)

火藥類讓受許可ノ部

許可年月日	使用許可年月日	種類	數量	量用	途	消費場所	消費期間	讓受人住所氏名

丁號様式ノ二 (内部)

火藥類讓渡許可ノ部

(山口警)

許年月日	可	種類	數	量	讓渡事由	住所	讓受人名	住所	讓渡人名

戊號様式 (内部)

戎器攜帶許可ノ部

許可年月日	種類	數量	量	番號其他目印	攜帶事由	許可期間	許可ヲ受ケタル者ノ住所氏名

己號様式 (内部)

銃砲火藥類製造職工ノ部

雇入年月日	解雇年月日	本籍	地	現住	所	氏名	生年月日	略	歴

●煙火原料用火藥、爆藥及煙火製造丙種火藥類作業主任者資格試験並乙種火藥類取扱人資格試験問

規則

大正十三年十一月 山口縣令第八十六號

煙火原料用火藥、爆藥及煙火製造丙種火藥類作業主任者資格試験並乙種火藥類取扱人資格試験問規則左ノ通定ム

煙火原料用火藥、爆藥及煙火製造丙種火藥類作業主任者資格試験

第一條 乙種火藥類取扱人資格試験規則

本則ニ依リ提出スヘキ書類ハ所轄警察官署ヲ經由スヘシ
第二條 試験又ハ試問ヲ受ケムトスル者ハ指定期日迄ニ第一號様式ニ據ル
受驗願書又ハ試問申請書、戸籍謄本若ハ抄本及最近ニ於ケル寫眞ヲ添ヘ
知事ニ願出ツヘシ

第三條 内務省令第二十三號ニ基キ丙種火藥類作業主任者資格試験ヲ受ケ
ムトスル者ハ試験手数料トシテ金貳圓ノ收入印紙ヲ受驗願書ニ貼付シテ
納付スヘシ但シ消印スヘカラス

第四條 試験並試問ハ筆記又ハ口述トシ左ノ科目ニ就キ之ヲ行フ
丙種火藥類作業主任者
一 火藥類製造大意
二 火藥類取扱法
三 銃砲火藥類取締法令大意

乙種火藥類取扱人
一 火藥類取扱法及保存法
二 銃砲火藥類取締法令大意

第五條 試験及試問ヲ行フヘキ期日並場所ハ豫メ之ヲ公告ス
第六條 試験又ハ試問ニ際シ不正ノ行爲アリタル者ニ對シテハ退場ヲ命ス
ルコトアルヘシ

試験又ハ試問合格決定後ニ到リ不正行爲發覺シタルトキハ其ノ合格ヲ無
效トスルコトアルヘシ

附則
本令ハ大正十三年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス
本令施行前ニ既得ノ資格ヲ有スル者ハ本令ニ依ル資格者ト見做ス

〔山口書〕

第一號様式

收入
印紙

火藥類(作業主任者)資格(試験願書)
(取扱人)資格(試問申請書)

住所

氏名

生年月日

(試験)種別(何種)火藥類(作業主任者)
(試問)種別(何種)火藥類(取扱人)

右火藥類作業主任者資格試験及乙種火藥類取扱人試問規則ニ依リ前記ノ
試験(試問)相受度關係書類相添ヘ願上(申請)候也

現住所

氏名

年月日

氏名

山口縣知事宛

●甲種火藥類取扱免狀交付資格ノ件

大正三年八月二十六日
保第七三五七號

各署長宛

銃砲火藥類取締法施行細則第四條ニ於ケル海軍ノ證明書ニ付テハ海軍各官
廳(學校ヲ含ム)及艦、團、部隊長ニ於テ之ヲ交付スル際其都度別紙寫ノ通海
軍省軍務局長ニ於テ該證明書中ニ右同意ノ趣ヲ特記シ取計フコトニ協定相
成タル旨其筋ヨリ通牒有之候條了知セラレヘシ

〔山口書〕

證明書

〔山口書〕

海軍艦政本部長海軍中將 伊地知季珍
右ハ多年海軍ニ奉職シ火藥類ノ製造検査並取扱ニ關シ充分ナル技能ヲ有
スルモノニシテ明治四十四年内務省令第二號銃砲火藥類取締法施行細則
第四條ニ依リ甲種免狀ヲ受ケル資格アル者ト認ム

大正 年 月 日

海軍艦政本部長海軍中將 伊地知季珍
海軍省軍務局長海軍少將 野間口兼雄

右同意ス

●甲種火藥類取扱免狀交付ニ關スル件

大正五年五月三十一日
保第四二〇三號

各署長宛

標記ノ件ニ關シテハ大正三年八月二十六日附例規程第七三五七號ヲ以テ指
示置候處更ニ別紙ノ通其筋ヨリ通牒有之候條了知セラレヘシ

本件ニ付テハ大正三年八月二十二日附發警第一七號ヲ以テ及通牒候通り銃
砲火藥類取締法施行細則第四條ニ依ル海軍ノ證明書ニハ海軍省軍務局長同
意ノ趣及同細則第四條ニ依リ附與スル旨特記スルコトニ協定罷在候處今同
同意ヨリ細則第四條ニ依リ附與スル旨ハ特記スヘキモ同省軍務局長同意ノ
趣ハ省略致度旨申越有之候條右御了知ノ上相當御措置相成度候
追テ本文ノ通り細則第四條ニ依リ附與スル證明書ナル意義ノ文句アルモ
ノハ總テ軍務局長ノ同意ヲ經テ附與スルモノト御承知相成度候

●甲種火藥類取扱免狀交付ノ件

大正二年十二月二十七日
保第六四八四號

各署長宛

左記ノ者ニシテ五月以上直接火藥類ノ取扱ニ關シタル履歴ヲ有スル者ニ
對シテハ甲種火藥類取扱免狀ヲ交付シ差支ナキ旨其筋ヨリ通牒有之候條了
知セラレヘシ

- 一、帝國大學探鑛冶金學科卒業ノ工學士
- 一、東京帝國大學工學專門部土木工學探鑛冶金學科ニテ火藥類ニ關スル學
科ヲ修得シタル卒業生
- 一、東京、京都、九州帝國大學工學科大學選科生ニシテ探鑛冶金學科ニ於テ
火藥類ニ關スル學科ヲ修得シ左記修業證書ヲ有スル者
東京及九州大學

- 一、探鑛學科又ハ冶金學科ノ全部ヲ修得シタル證書ヲ有スル者
- 一、探鑛學科又ハ冶金學科中探鑛學ヲ修得シタル證書ヲ有スル者
- 一、探鑛冶金學科ノ全部ヲ修得シタル證書ヲ有スル者
- 一、探鑛冶金學科中火藥學(但シ大正二年八月以前ノ修業者ハ探
鑛學)ヲ修得シタル證書ヲ有スル者
- 一、早稻田大學理工科大學探鑛冶金科卒業生
- 一、秋田鐵山專門學校(大正三年三月以降ノ卒業生)
- 一、秋田鐵山專門學校選科生ニシテ同校所定ノ火藥學及火藥學實習ニ關ス
ル科目ヲ修得シタルモノ
- 一、大阪及熊本高等工業學校探鑛冶金科卒業生(大正三年七月以降卒業生)
- 一、熊本高等工業學校探鑛冶金科ノ卒業生ニシテ更ニ同校ニ選科生トシテ

入學シ同校規則採鐵冶金學科ニ所定ノ火藥學及實驗ノ科目ヲ專修シタルモノ

- 一、旅順工科學堂採鐵冶金科卒業生(大正四年十二月以降卒業生)
- 一、明治專門學校採鐵科卒業生(大正三年三月以降卒業生)
- 一、京城高等工業學校鐵山學科卒業生ニシテ在學中火藥類ニ關スル學科ヲ修得シタルモノ
- 一、南滿洲工業專門學校鐵山分科生並ニ同科聽講生トシテ同校所定ノ火藥學ヲ修得シタルモノ

●銃砲火藥類取締ニ關スル件

大正七年二月五日
保第一〇八一號

改正銃砲火藥類取締法及同施行ニ關スル命令ハ本月一日ヨリ施行相成候處作業主任者ニ關シテハ左記ノ通り取扱フヘキ旨其筋ヨリ通牒有之候條取扱上注意セラルヘシ

煙火原料用火藥爆藥ノ作業所ニハ細則第六條ノ二ノ規定ニ依リ甲種及乙種作業主任者免狀ヲ有スル者ヲ要スル義ニ有之候處該力ニ之カ實行困難ノ場合モ可有之當分ノ内其ノ製造數量一日貳貫未滿ノ作業所ニハ丙種作業主任者免狀ヲ有スル者ヲ以テ一時之レニ充用シ許スルコト

追テ改正法令ハ其數量ノ如何ニ係ハラス一般火藥類作業所(火工品製造ヲ含ム)ニハ夫レ相當(甲乙丙種ノ孰レカノ)ノ作業主任者免狀ヲ有スルモノヲ要スル義ト心得ラルヘシ

●銃砲火藥類取締法施行規則第十 八條中「所轄」ノ意義ニ關スル件

〔山口書〕

大正十三年六月二十五日
保第七一四五號

銃砲火藥類取締法施行規則第十八條ニ所謂「所轄」ノ意義ニ關シテハ讓受人居住地ノ所轄ナルヤ將タ讓受人火藥類消費地ノ所轄ナルヤニ付之レカ解釋ヲ異ニシ取締上統一ヲ缺ク場合有之ヲ以テ規則第十八條所定以內ヲ讓受クル場合ハ讓受人ノ居住地ヲ管轄スル警察官署ニ申請シ同條所定以外ナルニ於テハ同規則第十六條ノ區分ニ依ル可キ旨其ノ筋ヨリ通牒有之候條取締上注意セラルヘシ

●銃砲火藥類取締ニ關スル件

大正十三年十二月二十二日
保第一三六二二號

銃砲火藥類取締法施行規則第三十九條中所轄警察官署ノ意義ハ許可申請人ノ居住地ヲ管轄スル警察官署ノ謂ナルヲ以テ同第三十九條ニ依リ許可ヲ得タル者カ他府縣又ハ他管內ニ轉シタル場合ハ自ラ「所轄」ヲ異ニスルヲ以テ既ニ與ヘラレタル許可ハ其ノ效力ヲ持續セサルニ依リ更ニ其ノ所轄警察官署ノ許可ヲ要スル旨其ノ筋ヨリ通牒有之候條取締上注意セラルヘシ

●軌道ニ裝置スル信號用雷管ニ關 スル件

大正二年十二月二十二日
保第六一二三號

鐵道及軌道株式會社ニ於テ列車運轉ノ際必要ニ應ジ軌條ニ裝置シ發火セシメ其音響ニ依リ危險ヲ現示スル目的ニ使用スル信號用雷管(一名デトネイタ)ハ火藥及爆藥ヲ使用セル火工品トシ火藥類ノ取扱チナスベキモノニ

符之ヲ授受運搬貯藏等ニアリテハ取締規則第十六條第二項第二十七條第三十六條第三十七條ニ依リ取扱チナスハ勿論其ノ他法定ノ制限ニ服スヘキ次第ニ有之候條相當取締方法注意セラルヘシ

●火藥庫爆發ノ際飛散セシ實包ニ 關スル件

大正四年一月七日
保第一〇四八四號

〔山口書〕

左記ノ通り其筋ヨリ通牒有之候條相當注意セラルヘシ

火藥類取締ニ就テハ豫テ及通牒置候處近頃火藥庫爆發ノ際飛散セシ實包ハ總テ類爆シタル廢彈ナリトシ之ヲ拾集シテ古地金ト速斷シ銃砲火藥類取締ニ關スル法令ニ依リ手續ヲ經ルコトナク授受シタル實例有之候然ルニ爆發ノ模様ニ依リテハ純然タル小銃實包其儘ノモノ可有之其ノ然ラサルモ單ニ彈丸ノ離脱シ小銃空包トナリタルモノ又ハ彈丸及裝填シタル火藥ノ離脱シタルモ尙雷管付藥莖トシ殘存セルモノ可有之被察候右古地金トシ授受セラレタルモノモ殆ド此ノ三種ニ該當セルモノナルカ爲メ讓受先ニ於テ更ニ爆發ノ奇禍ヲ來シ候コト有之候ニ付テハ右同様ノ場合ニ付テハ充分御注意相成候様致度御参考迄及通牒候也

●安全爆藥素質ニ關スル件

大正六年五月三十日
保第四六六二號

首標ノ件ニ關シ別紙ノ通り其筋ヨリ通牒有之候條取締上了知セラルヘシ

大正十三年六月二十五日
保第七一四五號

銃砲火藥類取締法施行規則第十八條ニ所謂「所轄」ノ意義ニ關シテハ讓受人居住地ノ所轄ナルヤ將タ讓受人火藥類消費地ノ所轄ナルヤニ付之レカ解釋ヲ異ニシ取締上統一ヲ缺ク場合有之ヲ以テ規則第十八條所定以內ヲ讓受クル場合ハ讓受人ノ居住地ヲ管轄スル警察官署ニ申請シ同條所定以外ナルニ於テハ同規則第十六條ノ區分ニ依ル可キ旨其ノ筋ヨリ通牒有之候條取締上注意セラルヘシ

●銃砲火藥類取締ニ關スル件

大正十三年十二月二十二日
保第一三六二二號

銃砲火藥類取締法施行規則第三十九條中所轄警察官署ノ意義ハ許可申請人ノ居住地ヲ管轄スル警察官署ノ謂ナルヲ以テ同第三十九條ニ依リ許可ヲ得タル者カ他府縣又ハ他管內ニ轉シタル場合ハ自ラ「所轄」ヲ異ニスルヲ以テ既ニ與ヘラレタル許可ハ其ノ效力ヲ持續セサルニ依リ更ニ其ノ所轄警察官署ノ許可ヲ要スル旨其ノ筋ヨリ通牒有之候條取締上注意セラルヘシ

●軌道ニ裝置スル信號用雷管ニ關 スル件

大正二年十二月二十二日
保第六一二三號

鐵道及軌道株式會社ニ於テ列車運轉ノ際必要ニ應ジ軌條ニ裝置シ發火セシメ其音響ニ依リ危險ヲ現示スル目的ニ使用スル信號用雷管(一名デトネイタ)ハ火藥及爆藥ヲ使用セル火工品トシ火藥類ノ取扱チナスベキモノニ

大阪砲兵工廠ノ製造ニ係ル一號及二號安全爆藥ハ銃砲火藥類取締法施行規則、火藥類製造運送規程又ハ火藥類船舶運送及貯藏規則ノ適用上硝酸「ア」ニモニア」ヲ主トスル爆藥ニシテ「ナイトログリセリン」又ハ純硝化纖維素ヲ含有セサルモノニ屬シ其ノ成分ノ大要ハ左記ノ通りニ有之候條爲念申進候

●爆藥取締ニ關スル件

大正十年四月二十七日
保第四六八八號

〔山口書〕

一、壹號安全爆藥成分ノ大要
硝酸「アンモニア」ト「ナイトロアフラジン」トノ混合物
二、貳號安全爆藥成分ノ大要
硝酸「アンモニア」ト「ナイトロアフラジン」トノ混合物

右者等ノ製造販賣ニ係ル爆藥(カリーラト)ハ目下供給豫約ノ目的ヲ以テ社員ヲ派シ火藥類販賣業者同消費者等ニ付勸誘中ノ趣ナルヲ以テ或ハ其署管内ニ於テ使用スル場合モ可有之候條左記ニ依リ相當取締方法注意セラルヘシ

〔山口書〕

一、カリーラト、過鹽素酸アンモニア、ヲ主成分トシ捏和シ一定ノ寸度ニ形
成被包セルモノニシテ之レカ製品ハ外貌帶黒色ヲナス
二、本爆藥ノ用途ハ普通「ダイナマイト」ノ如ク土木用鐵山用ヲ主眼トシ其ノ爆力ハ内地製櫻印「ダイナマイト」ニ亞ク取扱上比較的安全ナルモ永

貯藏スルトキハ固結シテ起爆劑ヲ用フルモ爆發困難ナル場合アリ
三、本品ハ貯藏中自然若ハ自爆ヲ惹起スルノ虞ナシ而シテ固結セルモノヲ
手ニテ採ムトキハ原形ノ粉末ニ復ス
四、本品ハ爆發ノ際多量ノ有害瓦斯ヲ發生スルヲ以テ發破後相當時間ノ經
過スルニアラサレハ鼻口ヲ刺戟シテ爾後ノ作業困難ナル缺點アリ
五、耐熱試驗又ハ遊離酸試驗ノ施行ヲ要セサルモ擊突摩擦ニ對スル感度ハ
「ダイナマイト」ニ比シ鈍感ナルモ硝安爆藥ニ比シ鈍感ナリ
六、使用ノ際ハ「ダイナマイト」使用ノ際ニ於ケルカ如ク工業用雷管ヲ裝シ
爆發セシムルモノトス

●清水式雷氣導火線製造並ニ其取扱方ニ關スル件

大正十二年四月十四日
保第三八一三號

各縣警察局長
京都府宇治郡山科村大字四ノ宮小宇堂後一番地
合資會社 清水商會
代表者 清水貞介

右者從來銃砲火藥類取締法施行規則第六條ニ依リ雷氣工業用雷管並ニ工業
用雷管ノ製造ヲナシテ、アル處今般更ニ專賣特許第二〇五三七號清水式電
氣導火線ヲ同取締法ニ依ラスシテ製造販賣方ヲ又汽車及船舶輸送取扱ニ關
シテハ家庭用機寸同級品トシ取扱方許可申請中ノ處調査ノ結果本導火線ハ
鹽素酸鹽ヲ主トスル爆發藥ヲ配合セルヲ以テ之ヲ使用シテ導火ノ用ニ供ス
ル製品ハ同規則第二條ノ所謂火工品ニ外ナラサルモノト被認旨其筋ヨリ通
牒有之候條右ニ依リ相當取締セラルヘシ

〔山口署〕

●硝安火藥取扱ニ關スル件

大正十二年六月二十三日
保第六九〇七號

各縣警察局長
客年十一月頃ヨリ宇治火藥製造所ニ於テ製造販賣シツ、アル硝安火藥ハ硝
酸「アンモニア」ヲ主劑トシ之ニ若干量ノ「ナイトロナフサリシ」並ニ不燃性
無機鹽類ヲ混和セルモノニシテ其ノ性狀從來ノ硝安爆藥ト同様ノモノナル
ヲ以テ之ヲ授受運搬貯藏等ニ就テハ爆藥トシテ取扱フヘキ旨其筋ヨリ通牒
有之候條其署下販賣業者並ニ消費者又ハ貯藏所ヲ有スル者ニ對シ其旨ヲ懇
示シ警察上遺策ナキ採取締方注意セラルヘシ

●小學校内ニ於ケル火藥類爆發ノ件

大正十三年十月十八日
保第一一二七〇號

各縣警察局長
客月二十六日兵庫縣養父郡廣谷村立第二尋常高等小學校ニ於テ秋季運動會
ニ使用スル合圖用投玉製作ノ爲鹽酸加里三、錫冠硫酸二、砂一、割合ニ
配合中突然爆發シ校長以下六名ノ重傷者ヲ出シタル格事發生セシ趣ナ
ルカ元來鹽酸加里ハ他ノ可燃物就中硫酸ノ如キハ百分ノ一ニ少量ト雖之
ヲ混和研磨スルトキハ熱ヲ爆發シ又鹽酸加里ト赤燐トノ混和物ニ對シ輕微
ナル押壓又ハ摩擦ヲ加フルトキハ爆發ノ程度前者ニ比シ一層甚シキモノア
リ鹽酸加里ト錫冠硫酸トノ混和物ハ銃砲火藥類取締法令ノ所謂爆藥ニ該當
シ同法第三條及同法施行細則第二條ニ依リ許可ヲ受ケタル製造所ニ非ラサ
レハ製造スルコトヲ得サル義ニ付運動會等ノ合圖用トシテ斯ル爆發物ノ製
造ヲ爲スハ固ヨリ法規違反タルヲ免レシ尙理化學實驗ノ爲ニスル少量ノ火
藥類ノ製造、變形、修理ハ銃砲火藥類取締法施行規則第二條ノ三第一號ノ

〔山口署〕

●銃砲修繕ニ關スル件

大正二年五月三十日
保第五七四〇號

規定ニ依リ許可ヲ要セサルモ其ノ實驗ニ關シテハ相當專門ノ知識ヲ要シ
小學校ノ教授上ニハ之ヲ課スルノ必要ナキ旨大正四年四月三十日文部省普
通學務局長通牒ノ次第モ有之旁小學校等ニ於ケル火藥類ノ製造又ハ實驗等
ニ關シテハ相當注意警告ヲ加ヘ取締上不都合ナキ時期セラルヘシ

各縣警察局長

非軍用銃砲製造業者ニシテ陸軍拂下銃砲及其ノ他ノ銃砲ヲ修繕スル場合
ニ於テ其成品ノ銃身ニ腔線ヲ有シ銃口ノ大サ軍用實包ヲ適合シ且ツ照星及
表尺ノ裝置ヲ爲シ千米突以上ニ有效ニ著彈セシムル裝置ヲ爲スカキハ軍
用銃砲ノ製造ニ外ナラサル旨其筋ヨリ通牒ノ次第モ有之右行爲ハ法第一條
ニ違反スル義ニ有之候條其署ト各營業者ニ對シ其旨示達方取計ラハルヘシ

●軍用銃砲修繕ニ關スル件

大正十五年三月十九日
保第二三二二號

各縣警察局長
首標ノ件ニ關シ別紙寫ノ通其筋ヨリ通知有之候條取締上注意セラルヘシ
別紙

廢銃其ノ他非軍用銃砲ヲ材料トシテ軍用銃ヲ製造致候場合ハ勿論學校在郷
軍人會等ニ於テ演習用トシテ保管スルモノト雖モ軍用銃トシテ取締ヲ要ス
ヘキモノニアリテハ其ノ破損箇所ノ部分品ノ交換取付ノ操作ヲ致候場合モ
銃砲火藥類取締法第三條同法第五條ニ依リ主務大臣ノ許可ヲ要スヘキ義ニ
存候

追テ單ニ銃身ニ著色スルカ如キ行爲ニ對シテハ不問ニ附セラレ可然ト存
候

●軍用銃ニ關スル請訓ノ件

明治三十三年一月
安收第二六四號

各縣警察局長
軍用銃ノ件ニ關シ甲號通何ニ對シ乙號ノ通り指令相成候旨其筋ヨリ通牒有
之候條爲御參考及通牒候也

〔甲號〕
客月五日御省及海軍省告示ヲ以テ軍用銃砲ノ種類ヲ定メラレ候處末尾ニ於
テ廢品ノ處分云々ト有之右廢品ノ御處分相成候ト否トハ何ニ依テ議別致ス
ヘクヤ從來民間ニ於テ「ケメル」銃「カラヘン」銃「ミニヘル」銃「スナイ
ドル」銃等舊式ノ軍用銃ヲ所持スルモノ數多有之右等ハ現今軍用ニ供セラ
レサルモノナルヘク隨テ廢品ノ御處分相成候モノト相認メ可然哉取締上疑
義相生シ候ニ付御垂示相成度此段何候也

●舊式軍用銃砲取扱ノ件

大正十五年十月十三日
保第一〇〇〇一號

各縣警察局長
標記ノ件ニ關シ軍用銃及非軍用銃ノ區別判然シ難キモノニ對シテハ大正四

年七月二十三日保認第九號ヲ以テ指示置候處今同明治二十年(西曆一八八七年)以前ニ本邦若ハ歐米諸國ニ於テ創製シタル陸海軍用小銃ハ現時ニ於テハ軍用ニ供シ得ルモノト難認ニ付右銃器ニ對シテハ軍衙ノ檢定ヲ俟ツ迄

モナク非軍用銃トシテ取扱ヒ其異備付ノ軍用銃砲臺帳ヲ整理セラルヘシ 追テ明治二十年以前ノ創製ニ係ル軍用銃砲ハ左記ノ通りニ有之候

銃名	項目	製造	國	發明	年	本邦	創製	年	最大	照尺	射程		
メゾール歩兵銃	本	邦	天	保	三	年	照門ノミニテ照尺ナシ						
ミニエー歩兵銃	同	同	不	明	三	年	施綫銃ニテ七五〇碼						
十三年式村田歩兵銃	同	同	明	治	十	三	年	同上	一、五〇〇	米			
同 騎銃	同	同	同	同	同	同	同上	一、三〇〇	米				
十八年式村田歩兵銃	同	同	同	同	同	同	同上	一、五〇〇	米				
同 騎銃	同	同	同	同	同	同	同上	一、三〇〇	米				
改造村田銃	改原	本	邦	明	一	八	六	五	年	同	同上	一、五五〇	米

●軍用銃砲取締ノ件

大正三年十月二十二日 保認第八〇號

各署長宛

陸軍々用銃砲火藥類拂下規則ニ依リ廢兵器トシテ拂下クルモノハ修理ヲ加フルモノ軍用銃砲ノ形體ニ復スヘキ虞ナキモノニ限ル義ニ候處同拂下規則ニ依リ拂下クル銃砲ノ内「廢」字ノ刻印アルモノ有之右ハ廢品處分ヲ示スヘキ符號ニハ無之モ將來誤解ヲ防クメ今同其筋ニ於テ同字ノ刻印ヲ爲サ、ルコトニ改定相成候趣ニテ爾今同拂下規則ニ依リ拂下銃砲ニシテ同刻印ア

ルモノ可無之ハ勿論ニ候得共現ニ民間ニ存在スル拂下銃砲ニシテ同刻印アルモノ可有之モ上記ノ通り廢品處分ノ符號ニ無之ニ付テハ同刻印アル軍用銃砲トシテ嚴重取締セラルヘシ

大正四年七月二十三日 保認第九號

各署長宛

本件ニ關シテハ昨年十月二十二日付保認第八〇號ヲ以テ指示置候處更ニ別紙ノ通り通牒有之候條相當取締セラルヘシ 別紙民間ニ轉轉セル銃器中ニハ明治三十二年陸海軍告示ニ依リ廢品處分ヲ

〔山口書〕

〔山口書〕

爲シタル爲「廢」字ノ刻印アルモノト陸軍省軍用銃砲拂下規則ニ依ルモノニシテ「廢」字ノ刻印アルモノト二種有之ヲ以テ右兩者ヲ判別シ得ル方法無之ニ於テハ軍用銃砲取締上支障不尠ヲ認メ陸軍省ニ及協議候處左記ノ標準ニ依リ判別スルコト、相成候條相當御措置相成度候尤モ同標準ニ依ルモノ判定困難ノ場合ハ當該警察官署ヨリ最寄ノ陸軍兵器支廠同出張所又ハ要塞司令部砲兵部ニ現品ヲ差出シ檢定ヲ請求スルニ於テハ夫々判定ノ上檢定書ヲ交付スルコトニ相成候條前記ノ方法ニ依リ軍用銃砲取締方嚴重御處理相成度候

記

陸軍拂下銃器ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ軍用銃トシテ取扱ヲ爲ス

一、陸軍ニ於テ現用銃トシテ制定使用シ居ルモノ(即チ三十年式步(騎)兵銃三十八年式步(騎)兵銃四四式騎銃(但シ拳銃ヲ含マズ)又ハ構造之ニ

類似セルモノ)

二、口徑五密米以上ニシテ腔綫ヲ施シ且千米突以上ノ距離ニ彈著セシムヘキ照準具ノ裝置アルモノ

三、破損銃タルモ修理ヲ加フレハ前二號ノ一ニ該當スル銃器ノ形體ニ復シ得ヘキ虞アルモノ

追テ本文檢定ニ費用ヲ要スル場合ハ檢定請求者ニ於テ之ヲ負擔スヘキ筈ニ有之候尙右檢定ニ要スル費用トハ主トシテ荷造運搬費ナルモ檢定請求銃多數ナルトキハ特ニ手入費ヲ要スルコトモ有之候趣ニ付御了知相成度候

●拂下軍用銃標識打刻ニ關スル件

大正十二年二月五日 保第一〇三六號

各署長宛

第二編 保安 第四章 銃砲火藥類 其ノ他

今回左記ノ通其筋ヨリ通牒有之候條取締上注意セラルヘシ

記

陸軍ヨリ學校及在郷軍人會ニ拂下クヘキ小銃ニハ尾筒御紋章ノ下部約十耗ノ位置(露式連發銃ニ在リテハ相當位置)ニ左記標識ヲ打刻シ且學校ニ拂下ノ分ニ對シテハ銃ノ一連番號ノ頭ニ番號ト同一字形ノ〇ヲ二箇、在郷軍人會ニ拂下ノ分ニ對シテハ同上〇ヲ三箇併列打刻スルコトニ定メタル趣陸軍省ヨリ通牒有之候ニ付御了知相成度候

文(徑約八耗)

學校ニ拂下ノ分ノ標識

在郷軍人會ニ拂下ノ分ノ標識 M(徑約八耗)

●軍用銃砲拂下ニ關スル件

大正十三年十一月十三日 保第一二三七四號

各署長宛

陸軍各部隊ニ於テ練習用具或ハ普通物品トシテ保管セル銃器中不用ニ歸シ之ヲ處理スルニ當リ銃砲火藥類取締法施行規則第一條軍用銃砲ニ該當セルモノノ拂下ニ關シテハ陸軍軍用銃砲及火藥類拂下規則第八條ニ準シ取扱ヒ且銃砲火藥類取締法施行規則第一條ニ所謂「有效」ノ解釋ハ人馬殺傷ノ力ノ有無ニシテ命中精度ノ問題ニアラサル旨其ノ筋ヨリ通知有之候條取上知セラルヘシ

●中等以上ノ學校ニ軍用銃砲配布

ノ件

大正十四年十月一日 保第一〇五八七號

各署長宛

軍用銃砲ノ讓受又ハ讓渡ニ關シテハ銃砲火藥類取締法施行規則第十八條ニ

依リ所轄警察官署ノ許可ヲ要スルコトヲ原則トスルモ今回其筋ヨリ軍事教練振作ノ爲現役將校配置ノ中等以上ノ學校へ軍用銃砲ヲ配置セラル、コトニ相成候處右ハ全然讓渡ヲナスモノニアラス別紙通牒ノ意味ニ基クテ以テ規則第十八條ノ許可ヲ要セサル趣ニ付了承セラルヘシ

學校教練振作ノ爲文部省ニ於テ陸軍省ト協議ノ上現役陸軍將校ヲ配置セル中等以上ノ學校ニシテ其備付銃器僅少ナルモノニ對シ軍用銃ヲ配布シ戰時其ノ他必要アル場合ニ於テハ陸軍省ニ於テ之ヲ回收スルノミナラス毀損其ノ他ノ事由ニヨリ不用ニ歸シタル場合ト雖モ其ノ自由處分ヲ許サザルコトヲ條件トシテ學生生徒ノ教練ニ使用セシムルコトニ相成候趣ニ有之從ツテ從來砲兵工廠ニ於テ陸軍々用銃砲及火藥類拂下規則第一條ニ依ル軍用銃砲ノ拂下トハ彼是相違致居候義ニ付私立學校ニ於テ本件配布ヲ受クルモ銃砲火藥類取締法施行規則第十八條ノ許可ヲ要セサル義ト存候間爲念右申進候

●青年訓練所軍用銃砲讓受ノ件

大正十五年十月八日
保第九八五三號

標記ノ件ニ關シ左記ノ通り其筋ヨリ通牒有之候條取締了知セラルヘシ

記

八月二十一日付ヲ以テ御照會相成候本件ハ左記ノ通りニ有之右申進候
追テ本件ニ付テハ陸軍省トモ打合濟ニ付申添候
一、青年訓練所ノ經營主體カ青年訓練所令第三條ニ依ル市町村市町村學校組合及町村學校組合ナル場合ハ軍用銃砲ノ讓受ニ關シ銃砲火藥類取締

〔山口警〕

法施行規則第十八條ノ許可ヲ要セサルモ青年訓練所令第四條ニ依リ私人カ經營スル訓練所ニ在リテハ軍用銃砲ノ讓受ニ付銃砲火藥類取締法施行規則第十八條ノ許可ヲ必要トス

二、市町村、市町村學校組合及町村學校組合ノ經營スル青年訓練所ノ用ニ供スルモノニ對シ拂下チ爲ス場合ニアリテハ當該市町村長又ハ組合管理理者ニ拂下グルモノナルヲ以テ陸軍軍用銃砲及火藥類拂下規則第一條第一號ニ所謂公署ニ該當スルヲ以テ拂下數量ニ制限ナク又私人ノ經營スル訓練所カ警察署ノ讓受許可ヲ受ケテ拂下チ受ケル場合ニ在リテモ同條第二項但書ニ規定スル學校ト看做シ拂下數量ヲ制限セス

●屠殺銃ニ關スル件

大正四年九月二十一日
保第六九二一號

各警察署長宛

廣島市天満町渡邊銃砲店發賣ノ渡邊式屠殺銃ハ非軍用銃砲トシテ取締ヲ要スルモノナルトモ短銃及拳銃トシテ取扱フヘキモノニ無之旨其筋ヨリ通牒有之候條了知セラルヘシ

●空氣銃取締ニ關スル件

大正十年四月五日
保第三五六八號

各警察署長宛

空氣銃ニシテ非軍用銃砲トシテ取締ヲ要スヘキモノ、標準ニ關シ左記ノ通り其ノ筋ヨリ通牒有之候條取締上注意セラルヘシ

爾今空氣銃ヲ五間ノ距離ニ於テ杉四分板(仕上厚二分五厘)ニ向ケ彈丸五發

〔山口警〕

ヲ發射シ内壹發以上貫通スル威力アルモノニ付テハ總テ非軍用銃砲トシテ銃砲火藥類取締法ヲ適用スル儀ト御了知相成度候

●テンブル式銃擊機取締ニ關スル件

大正十二年八月十四日
保第九〇〇三號

各警察署長宛

東京市麴町區永樂町一丁目一番地
東京サルヴエーシ株式會社

右會社ニ於テ遭難救助用トシテ在英國テンブル商會ヨリ輸入シタル銃擊機ト稱スルモノハ其構造別圖ノ通り口径一寸二分全長一尺二寸ノ黃銅製ノモノニシテ其尖端ヲ壁體又ハ鐵板等ニ突當テ時ハ大ナル音響及反動ナクシテ徑四分長サ二寸六分ノ銅鐵製銃ヲ發射シ厚サ四分ノ鐵板ヲ容易ニ貫徹スル威力ヲ有スルモノニ有之而テ其ノ銃ヲ發射セシムル藥莖ハ雷管硝化棉及黑色火藥等ヲ裝填シタル火工品ナルモ其尖端ヲ壁體若ハ鐵板等ニ突當ツルニ非サレハ發射シ得サル構造ナルヲ以テ非軍用銃砲トシテ取締ルヘキ旨其筋ヨリ通牒有之候條相當取締法注意セラルヘシ(別圖省略)

●消火ピストル取締ニ關スル件

大正十二年五月十五日
保第四八七七號

各警察署長宛

東京市麴町區有樂町一丁目一番地

帝國消火銃合資會社

右者獨逸國伯林ウオルフ、コラツクス株式會社ヨリ輸入販賣セムトスル消火銃ハ其消火彈、發射器ノ構造及作用ハ略拳銃ト類似シ且ツ消火彈ハ火藥

第二編 保安 第四章 銃砲火藥類 其ノ他

及爆藥ヲ裝填シタルモノニシテ煙火若ハ煙火類似ノ火工品ト其ノ效用ヲ異ニスルモノナルヲ以テ銃砲火藥類取締法施行規則第二條第一項第三號ノ火藥若ハ爆藥ヲ使用シタル火工品トシテ取締ルヘキモノニシテ其ノ發射器ハ消火彈ヲ發射シテ防禦用ニ供セラルモノナルノミナラス右消火彈ニ加工シ彈丸ノ類ヲ裝填スルトキハ之ヲ發射シテ人畜ヲ傷害スルノ用ニ供シ得ヘキモノナルヲ以テ同則第一條ノ所謂非軍用銃トシテ取締ヲ要スヘキ旨其筋ヨリ特ニ通牒ノ次第モ有之候條取締上注意セラルヘシ

記

一、消火「ピストル」ノ構造

イ、發射器ノ構造

發射器ノ全長一尺三寸一分、銃身部九寸、口外徑一寸九分五厘ニシテ全部鋼鐵ヲ以テ製造シ摩鐵、彈力線、包裝部ヨリ成リ銃身ハ下部螺蓋、上部ハ支鐵ニヨリ接合シ外面ハ赤色塗料ヲ塗布シアリ

ロ、消火彈ノ構造

消火彈ハ鋼鐵製ノモノニシテ全長八寸九分五厘、口外徑一寸七分五厘ニシテ外面ハ赤色塗料ヲ塗布シ管尾ニ銃用雷管ヲ附シ管底ニ厚サ五分ノ藥紙ヲ填メ小粒黑色火藥約二瓦ヲ填藥シ更ニ厚紙ヲ以テ填塞シ炭酸鹽類ヲ主劑トセル消火劑約六百瓦ヲ填藥シ之ヲ厚紙ヲ以テ填塞シ更ニ封臘ニテ密閉シタルモノニシテ全重量約千瓦アリ

二、消火「ピストル」ノ效力

實驗ノ狀況

新聞紙數枚ニ石油エーテル約四十瓦ヲ注キ之ニ點火シ約二米突ノ距離ニ於テ發射器ニ依リ消火劑ヲ發射スルニ二回ニシテ全ク消火セリ又空間ニ向テ發射スルニ粉藥約八米突ノ距離ニ飛散シ「アンモニア」臭ヲ發セリ

●爆音信號銃取締ニ關スル件

大正十三年五月十五日
保第五二一八號

各署長

別紙ノ通爆音信號銃ハ非軍用銃砲トシテ取締ヲ要スル旨其筋ヨリ通牒アリタルニ付相當取締方法注意セラルヘシ

別紙 (警保局長回答)

大正十三年三月三日付保第九六八號ヲ以テ御照會ノ爆音信號銃ハ銃砲ノ外觀ヲ有シ且爆音亦強クシテ保安上相當取締ヲ要スルモノト認メラレ候ニ付テハ非軍用銃砲トシテ御取扱相成度候

別紙 (群馬縣知事何)

左記爆音信號銃ハ「アセチレン」瓦斯ヲ應用シ通常單ニ爆音ヲ發シ(爆音ハ三八式空包ヨリ稍弱)信號用ノ目的ヲ以テ製作セラレタルモノナルモ銃身ヲ交換シテ使用スルトキハ霰彈ヲ發シ得ベク而シテ其威力ハ非軍用銃砲トシテ取締ヲ受ケル標準以下ナリト雖爆音及起爆ノ方式等ヨリシテ或ハ非軍用銃砲トシテ取締ヲ要スベキモノトモ思料セラレ候條何分ノ御指示相成度此段及照會候也

一、製造人 群馬縣高崎市通町九一 遠藤余太郎

二、全長三尺二寸八分(霰彈用ノ場合三尺四寸)

三、重量五百五十匁(同上) 五百六十匁)

四、構造說明

圖面ノ略稱

第一圖ハ縱斷側面圖、第二圖ハ橫斷面圖、第三圖ハ著火裝置ノ分解圖

實用新案ノ性質、作用及效果ノ要領

本考案ハ中空ニ造レル銃床ノ尾端ヨリ導管ニ依リテ銃身内ニ適宜ノ瓦斯ヲ

(山口書)

導入シ銃身ノ根部ニ附設セル發火裝置ヲ以テ之ヲ爆發セシムル信號用ノ銃ニシテ圖ニ於テ(1)ハ中空ニ造レル金屬製銃床(2)ハ銃床(1)ト一體ヲナシ若ハ別體ニ造リテ之ニ取著ケ銃床トノ間ニ隔壁(3)ヲ具フル銃身(4)ハ銃床ト銃身トノ内部ニ於テ連通セシムル爲隔壁(3)ニ穿設シタル多數ノ透孔(5)ハ銃床(1)ノ尾端下面ニ設ケタル瓦斯導入孔ニシテ短管(6)ヲ具ヘ該管ニ保護管(7)ヲ附設シテ適宜ノ瓦斯發生器ニ連結セシムルモノトス(8)ハ銃身(2)ノ根部ニ近接セル位置ニ於テ銃床(1)ヲ上下ニ貫スル如ク附設シタル導管(9)ハ管(8)ノ下部ニ於テ銃床ノ下面ニ取著ケタル引金(10)ハ一端ヲ引金(9)ニ連結シ他端ハ導管内ヲ貫通シテ銃身ノ根部ニ露出セシメタル引金連杆(11)ハ銃身(2)ノ根部内面ニ密著セシメタル導管ニシテ表面ニ發火用爪(12)ヲ具フ(13)ハ誘導筒(11)内ニ挿嵌シタル發火用摺動軸ニシテ爪(12)ノ一端ヲ接觸スル表面ニ鑄目ヲ刻成シ且筒(11)内ニ於テハ彈機ヲ設ケ常ニ前方ニ向テ突出セル傾向ヲ與フルモノトス(14)ハ摺動軸(13)ニ附設シタル制御杆ニシテ其ノ一端ヲ連杆(10)露出端部ニ繋留スヘカラシメ以テ摺動軸ヲ所要ノ位置ニ保持スルモノトス但シ上記誘導筒(11)ト摺動軸(13)及之等ニ附隨セル各部ハ相俟ツテ發火裝置ヲ形成セルモノナリ

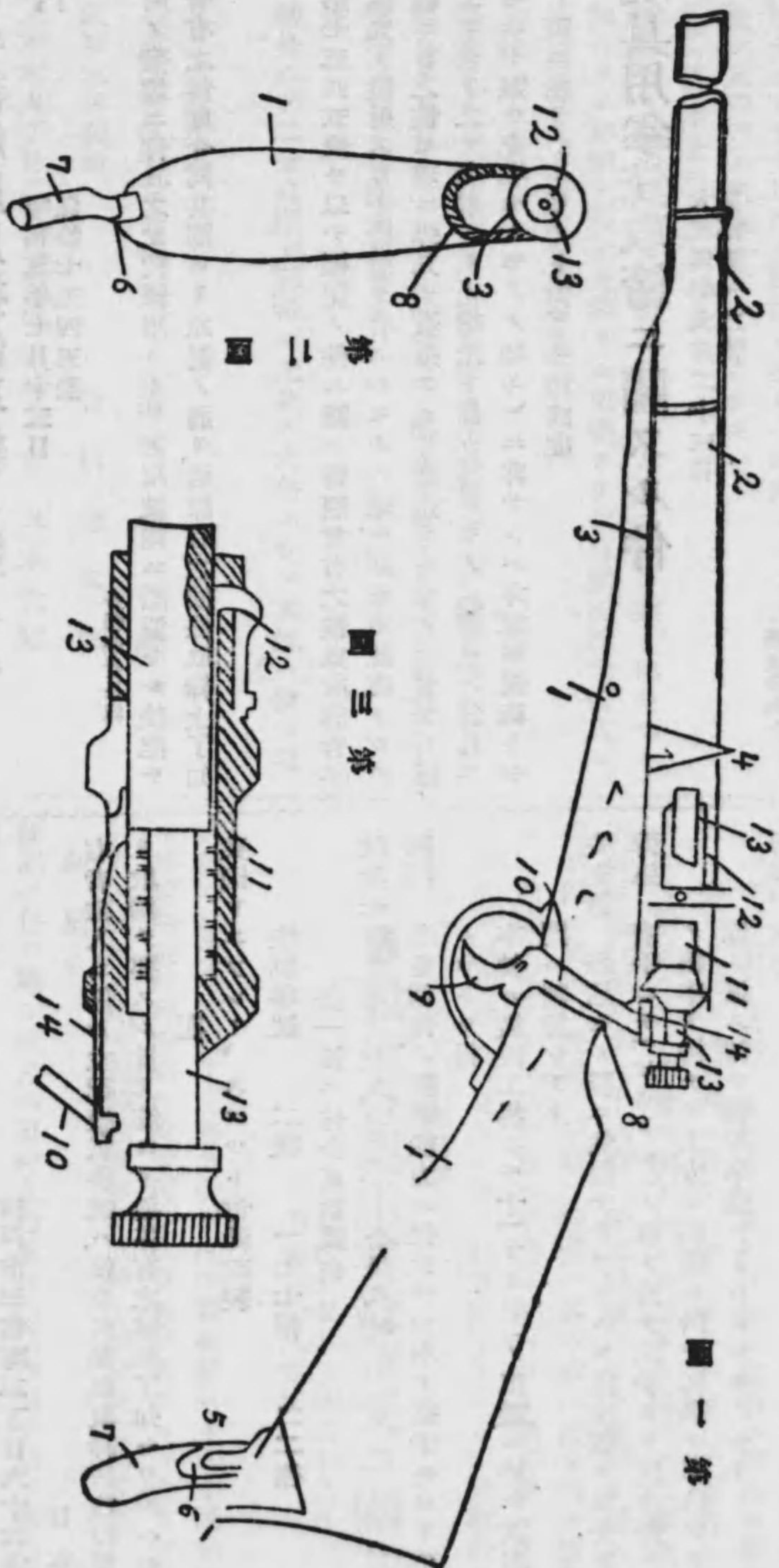
摺動軸(13)ヲ後方ニ引キ杆(14)ヲ連杆(10)ノ一端ニ繋留セシメタル後護管(7)ヲ通シテ適宜ノ瓦斯發生器ヨリ銃床内ニ瓦斯ヲ導入スルトキハ瓦斯ハ透孔(4)ヨリ銃身(2)内ニ浸入スヘシ此場合引金(9)ヲ引キ連杆(10)ト制御杆(14)トノ繋留關係ヲ斷ツトキハ軸(13)ハ彈機ノ反撥ニ依リテ前方ニ突出シ仍テ該軸ノ鑄目ト筒(11)ニ附設セル爪トノ摩擦ニ依リテ發火シ銃床ト銃身トノ内部ニ充滿セル瓦斯ヲ爆發セシメ銃身ノ先端ヨリ爆音ヲ發スルモノトス但瓦斯發生器ハ携帯シ得ヘキ小型ノモノヲ用キルモ据付ノモノニ對シテ前記護管ヲ連結スルモ隨意ナリトス前述ノ如ク本案信號銃ハ銃床

ト銃身トナ其儘瓦斯室トナシ銃身ノ一部ニ附設シタル發火裝置ニ依リテ銃ノ内部ニ給送スル瓦斯ヲ爆發セシムル構造ヲ特色トシ取扱簡易ニシテ強大ナル爆音ヲ發スル力故ニ諸種ノ信號用若ハ農作物等ニ集中スル小鳥ノ驅逐用トシテ使用スルトキハ便利ナリ

登錄請求ノ範圍

圖面

(山口書)



第一圖

第二圖

第三圖

圖面及說明ニ示ス如ク中空ニ造レル銃床(1)ト銃身(2)トヲ兩者ノ間ニ隔壁(3)ヲ有スル如ク連結シ銃床ノ尾端ニハ瓦斯導入孔(5)ト保護管(7)トヲ附設シテ之ヲ適宜ノ瓦斯發生器ニ連結スヘカラシメ又隔壁(3)ニハ多數ノ透孔(4)ヲ穿設シ該透孔ニ近接セル位置ニ當リ銃身(1)内ニ誘導筒(11)爪(12)又摺動軸(13)等ヨリ成ル發火裝置ヲ設ケテ成ル爆音信號銃ノ構造

●青年訓練所用擬銃取締ニ關スル件

昭和五年七月十五日
保第七五四五號

各警察署長宛

近時青年訓練所ノ發達ニ伴ヒ之ガ教練用トシテ軍用銃砲ニ酷似セル銃砲ヲ製造販賣セル者有之候處今同其筋ヨリ左記ノ通り通牒有之候條取締上テ知セラルヘシ

記

六月十八日保第七五四五號ヲ以テ標記ノ件ニ關シ御照會有之候處所謂青年訓練銃ニシテ彈丸ヲ發射スルノ構造ヲ有スルモノハ總テ非軍用銃砲トシテ取締ヲ要スル義ニ有之候モ現ニ彈丸ヲ發射スルノ構造ナキモノニ付テハ極メテ少許ノ加工ニヨリ之ヲ發射スルノ構造ト爲シ得ルモノ(例ヘハ銃口ニ少許ノアンチモノニ類テ充填セルモノノ如キ)ニ非サレハ非軍用銃砲トシテ取締ヲナスノ限ニ在ラサルモノト御了知相成度

●玩具用拳銃取締ニ關スル件

大正四年九月二十三日
保第一二二號

各警察署長宛

大阪市南區西橋町三番地配製堂製造ニ係ル玩具用拳銃ハ非軍用銃砲ニ屬シ尙拳銃トシテ取締ヲ要スルモノト認ムル旨其筋ヨリ通牒有之候條取締上テ注意セラルヘシ

●空氣拳銃取締ニ關スル件

大正十四年七月三十一日
保第八六二九號

(山口警)

神戸市三宮町三丁目九十六番地

日本貿易商社

右者輸入ニ係ル左記空氣拳銃ハ銃砲火藥類取締法施行規則第三十九條ニ依リ取締ヲ要スル旨其筋ヨリ通牒有之候條了知セラルヘシ

記

英國ウエブリー、スコット會社新製

空氣拳銃 二種 一七七徑 二二徑

各一挺ニ付金貳拾圓也

銃身七吋ライフルス

照門 各自個性ノ照準能力ニ從ツテ一本ノ捻子ニヨリテ上下適宜ニ調節ス

ルコトヲ得

本銃ハ製造工場ニテ「ヤード」ノ距離ニ於テ試射シテ從ツテ照門ハ調節シテ

安全器 彈込セル際ニ危險ナカラシムル爲左側ニ完全ナル安全器アリ

彈込 右手ニテ「ピストル」ノ板ヲ持テ左手ニテ銃身押ヘテ後方ニ引キ銃身

ノ根本ヲ持テ上方ニ引キニ掛ル迄揚ケ彈込ヲナシテ銃身ヲ元ノ位

置ニ返ス即チ發射準備ヲ了シタルモノナリ

用彈、鼓彈

箱入試射彈、銃身用アラツシ 空氣室ピストン ヲシテ取換用一個

銃身密接ヲシヤ二個附屬ス

右拳銃ハ試驗ノ結果五間ノ距離ニ於テ杉四分板ヲ殆ント貫通スルノ威力ヲ有ス

●玩具用銃器取締ニ關スル件

大正十五年一月十五日
保第三八二號

各警察署長宛

客年末名古屋市ニ於テ別紙圖例ノ如キ玩具用拳銃ノ彈倉ニ玩具用雷管數個及彈丸ヲ裝填シ兒童ヲ狙撃負傷セシメタル事件有之右拳銃ノ銃身ハ中空ニシテ彈倉ニ少許ノ加工(アンチモノ)ナルヲ以テ雖等ニ依リ容易ニ孔ヲ穿ツコトヲ得)ヲ爲スニ於テハ前記ノ如ク容易ニ彈丸ヲ發射スルノ構造ト爲スヲ得ヘク既ニ玩具商ニ於テハ加工シタルモノヲ販賣セルモノモ有之趣ニテ本件拳銃ハ其ノ彈倉ニ加工セルト否トニ拘ラス其構造ニ徴シ銃砲火藥類取締法施行規則第三十九條ニ所謂拳銃トシテ取締ヲ要スヘキモノト被認候得共既ニ製造、授受、運搬、携帶ヲ爲ス者ニ對シ直ニ法令ヲ適用シ處分セルハ過酷ノ嫌アルヲ以テ右ハ不問ニ付スヘキ様其筋ヨリ通牒有之候條其署下ニ於テ同拳銃ヲ發見セハ速ニ任意廢棄セシムル標取計ヲヒ結果ハ詳細隨時報告セラルヘシ(別紙省略)

●競技合圖用拳銃讓受ニ關スル件

大正十五年九月二十二日
保第九〇八五號

各警察署長宛

九月六日大島郡安下庄町立安下庄中學校長ヨリ陸上運動會競技合圖用トシテ拳銃讓受許可申請ニ對シ所轄久賀警察署長ヨリ之カ許否ニ關シ疑義伺出ニ對シ別紙ノ通り同答致置候條取締上同様措置相成度

別紙

標記ノ件ニ關シ本月六日付久行第三〇二四號ヲ以テ御照會相成候處拳銃ノ讓受ニ關シテハ其ノ用途ニ制限無之モ拳銃自體ヨリ之ヲ推按スルニ主トシ

左記小形拳銃ハ銃砲火藥類取締法令ニ依リ非軍用銃砲トシテ取締ヲ要スヘキ旨其筋ヨリ通牒有之候條取締上テ注意セラルヘシ

各警察署長宛

大正九年十月二十一日
保第一一九〇二號

(山口警)

(イ) 小形引落シ銃(模造五連發式)

重量九九分總長五寸九分口徑五耗但シ銃身ハ八角ニシテ握リ柄ハ七々子ノ彫刻ヲ施シ光澤アル黒染シタルモノナリ

(ロ) 小形有鷄頭元折銃(模造五連發式)

重量九三分總長五寸八分口徑五耗但シ銃身ハ八角ニシテ握リ柄ハ七々子ニ周飾ヲ加ヘタル彫刻ヲ施シ光澤アル黒染ヲナシ自動回轉元折式ニシテ彈藥ノ込替速カナル特徴ヲ有セリ

(ハ) 小形二連發式銃

重量六二分總長六寸二分口徑八耗但シ銃身ハ圓筒ニシテ握リ柄ハ七々子ノ彫刻ヲ施シタル特許品ニシテ使用上ノ興味ヲ與フル爲ニ連發式トナシ藥莢ヲ使用スルノ特徴ヲ有セリ

(ニ) 小形單發式銃

重量五五分總長六寸二分口徑十耗但シ銃身ハ六角ニシテ其他ハ號ニ同シ

製造人ノ住所氏名

(ハ)(ロ)(イ) 大正市南區高津四番町七六番地

浦 善 藏

大正市南區阪町五四番地

吉 田 惣 太郎

大正市東區上本町九丁目二五四番地

荒 木 三 木 太郎

ヲ護身用ヲ意味スルモノト思科セラレ且競技合圖用トシテ特ニ拳銃ニ限ルノ必要モ無之様被存尙本年四月和歌山縣知事ノ何出ニ對シ警保局長ヨリ回答ノ次第モ有之候條官公立學校及青年團等ヨリ競技合圖用トシテ拳銃讓受ノ願出有之候場合ハ可成他ノ銃ニ代ヘシムル様措置セラレヘシ

● 競技合圖用拳銃取締ノ件

昭和三年十月十八日
保第一四〇六三號

標記ノ件ニ關シテハ大正十五年十一月八日付保第一〇九六七號ヲ以テ學校青年團等ニ拳銃ヲ常備スル時ハ保管上特別ノ設備ヲナササル限リ不逞徒ニ惡用セラレ又ハ兇暴ナル犯罪ニ使用セラレ、等ノ事例ニ鑑ミ競技合圖用トシテ拳銃授受ノ出願アリタル場合ハ可成之ヲ他ノ銃ニ代ヘシムル様指示置候處最近管内ニ於テ右競技合圖用拳銃ノ盜難事件モ有之候條爾今右授受ノ出願ニ對シテハ他ノ銃ニ代フル様懇諭ノ上可成拳銃ノ授受ヲ避ケシムル様致度現ニ所有セルモノニ對シテハ此際更ニ實地調査ノ上保管上堅固ナル銃前付ノ場所ニ設置スル等容易ニ盜難ニ罹ラサル設備ヲナサシムルト共ニ可成之方貸借ヲモ避ケシメラレ度尙右拳銃ノ貸借ハ施行規則第三十九條ノ所謂授受ニ該當シ所轄警察署ノ許可ヲ要スルニ依リ取締上遺策ナキ時期セラレヘシ

● 瓦斯發射用銃器取締ニ關スル件

明治四十四年十月十六日
保第一〇九二六號

別紙甲號照會ニ對シ乙號ノ通り回答セシ旨警保局長ヨリ通牒有之候條爲參

〔山口署〕

● 瓦斯發射器取締ノ件

昭和三年六月十五日
保第七一三〇號

左記圖形ノ拳銃型及萬年筆型瓦斯發射銃ハ何レモ彈丸ヲ發射シ得ル機能ヲ有スルニ依リ拳銃型瓦斯發射器ハ銃砲火藥類取締法施行規則第三十九條ノ拳銃トシテ又萬年筆型瓦斯發射器ハ同條ノ仕込銃トシテ取締ヲ要シ尙瓦斯彈ヲ發射スヘキ藥莖中ニハ發射藥トシテ火藥類ヲ使用セルヲ以テ之亦同則第二條ノ火工品トシテ取締ヲ要スル旨其筋ヨリ通牒有之候條或ハ其署下雜貨店等ニ於テ販賣スルヤモ雜計ニ付嚴重取締セラレヘシ

● 拳銃型強刺戟劑發射器取締ノ件

昭和六年二月十日
保第一四六三號

拳銃型瓦斯發生機取締ニ關シテハ業ニ指示セシ次第モ有之候處今同左記通牒有之候條取締上知セラレヘシ

近時護身用保安機等ノ名稱ヲ用ヒ拳銃類似ノ形態ヲ有シ且ツ強烈ナル刺戟劑ノ發射ニ依リ他人ニ對シ生理的傷害ヲ與フル器具ヲ製造又ハ販賣セムトスル者有之趣ニ候處之ガ巷間流布ハ公安上望マシカラサル義ニ付此種物件ニ對シテハ銃砲火藥類取締法第十五條並同法施行規則第四十條及ヒ第四十八條ニ所謂武器トシテ相當御取締相成度

● 「仕込銃仕込刀劍其ノ他變裝シタル戎器」ノ解釋ニ關スル件

第二編 保安 第四章 銃砲火藥類 其ノ他

考及通牒候也

(甲 號)

管下神戸市ニ於テ瓦斯發射拳銃短銃ノ輸入販賣ヲ爲サムトスル者有之候處其ノ構造作用等ハ別紙ノ通り(現品ハ未ダ到着シ居ラズ詳細不明)ニ有之趣ニテ機械的破壊力ヲ有セス單ニ瓦斯ヲ發射シ其作用ニ依リ一時抵抗不能ノ狀態ニ陥ラシムルニ止マルモノニ付銃砲火藥類取締法上ノ銃砲トシテ取扱フヘキ限リニ非スト思科致候得共聊カ取扱上ノ疑義相生シ候ニ付何分ノ御意見承知致度此段及照會候也

(別紙ヲ略ス)

八月二十一日付保發第三二七號瓦斯發射拳銃短銃取扱方ニ關シ御照會ノ趣了承右ハ非軍用銃砲トシ御取扱相成度此段及回答候也

● 毒瓦斯發射用銃器ニ關スル件

大正十一年五月二日
保第四九六九號

横濱市尾上町二丁目二十番地
銃砲火藥類販賣業者
鹿島 清三 郎

右者發賣ニ係ル獨逸製毒瓦斯發射器ハ拳銃ト同一ノ型狀ヲ有シ其構造簡單ニシテ殆ンド玩具ニ等シキモノニ實彈ヲ裝填シテ使用スル時ハ拳銃ト同様ノ威力ヲ有スルノミナラズ毒瓦斯彈ヲ充填シ人畜ニ向ツテ發射スル時ハ五分間乃至二十分間位假死ノ狀態ニ陥ラシムル趣ニ依リ調査ノ結果銃砲火藥類取締法ニ所謂拳銃トシテ取締ヲ要スヘキ旨其筋ヨリ通牒有之候條取締上注意セラレヘシ

〔山口署〕

明治四十四年五月三十一日
保第七〇八八號

銃砲火藥類取締法施行規則第三十九條規定ノ仕込銃仕込刀劍其ノ他變裝シタル戎器ニ關シ解釋區々ニ涉リ居ルヤノ聞有之候處仕込トハ杖又ハ傘ノ柄等ニ銃器若ハ劍ヲ仕込ミタルモノ其ノ他變裝シタル銃器トハ形ヲ戎器ニアラサルカ如ク裝ヒタル戎器ヲ指シタルモノナレハ獵銃又ハ普通ノ形狀ヲ爲シタル刀劍ノ如キハ同條ノ規定外ト認メ候條爲念及通牒候也

● 變裝空氣銃取締ニ關スル件

大正十二年一月十日
保第二五七號

標記ノ件ニ關シ警視總監ヨリ警保局長ニ對シ照會ノ結果同局長ヨリ左記乙號ノ通り回答相成リタル旨通牒有之候條取締上注意セラレヘシ

(甲號)警視總監伺

東京府下荏原郡大井町元芝九二九番地
都花空氣銃研究所 祖下 博次

右者製造ニ係ル左記空氣銃ハ其ノ構造精巧ヲ極メ「ステッキ」形ニ之ヲ變裝シ市内各玩具店ニ於テ販賣シ居ルヲ發見致候ニ付其ノ威力ヲ試驗致候處結果左記ノ通り有之比較的微弱ニシテ非軍用銃ノ範圍ニ屬セザルモ其ノ構造變裝ニ係リ普通一般ノ空氣銃ト同一ニ單ニ其ノ威力ノ強弱ニ依リ之ヲ取締ノ要否ヲ決定スヘキモノニアラスト思科セラレ候ニ就テハ本銃ノ威力ノ程度ト雖モ銃砲火藥類取締法施行規則第三十九條ノ仕込銃トシテ取締ヲ要ス

五九

ルモノト思料候へ共御意見承知致度現品(一挺)相添へ此段及照會候也

一、銃器ノ名稱 ステツキ形空氣銃

一、製造 所 東京荏原郡大井町元芝九二九都花空氣銃研究所

一、銃ノ全長 二尺七寸六分

一、銃ノ身 二尺六寸三分

一、彈丸及威力 彈丸ハ圓錐彈ニシテ五間ノ距離ニ於テ松四分板仕上二分

五厘ニ五發發射スルニ最大威力深サ約一分五厘ノ彈痕ヲ認ム

(乙號)

大正十一年十二月十九日保第二八二號ヲ以テ御照會相成候變裝空氣銃ノ件ハ御意見ノ通其ノ威力ノ強弱ニ係ハラヌ荷モ人畜ヲ傷害シ得ルニ足ルヘキモノハ銃砲火藥類取締法施行規則第三十九條ニ依リ仕込銃トシテ御取締相成度候

● 刀劍匕首其ノ他之ニ類似ノ戎器 携帶禁止ニ關スル件

大正十四年十一月六日 山口縣令第七十九號

刀劍匕首其ノ他之ニ類似ノ戎器携帶禁止ノ件左ノ通定ム

刀劍匕首其ノ他之ニ類似ノ戎器携帶禁止ノ件

明治四十三年四月法律第五十三號銃砲火藥類取締法第十二條及明治四十四年三月勅令第十六號銃砲火藥類取締法施行規則第四十八條ニ依リ刀劍匕首其ノ他之ニ類似ノ戎器ハ職務又ハ營業ノ爲ニスル場合ノ外正當ノ事由ナクシテ之ヲ携帶スルコトヲ禁ス 本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔山口書〕

● 戎器携帶禁止發令ニ關スル件

大正十四年十一月六日 保司第四八四五號警察部長指示

期內各課長 巡查教習所 各署長宛

本月六日縣令第七十九號ヲ以テ別紙ノ通戎器携帶禁止ノ件發令セラレタルカ同令ハ近年戎器ヲ使用スル犯罪漸次増加ノ傾向アルノミナラス社會ノ裏面ニ蠢動シテ良民ヲ毒シツツアル無賴漢其他不良ノ徒輩ハ直接間接ニ之等戎器ヲ利用シテ暴威ヲ逞フスルヲ常トシ其弊實ニ看過スベカラザルモノアルニ依リ之ヲ防遏芟除セムトスル爲發布セラレタルモノナルニ依リ克ク其ノ趣旨ヲ體シ故ラニ其禁ヲ犯ス者ニ對シテハ假借スル處無ク處罰ヲ以テ臨ミ(法第十七條ニ罰則アリ)以テ此種不良輩ノ非行ヲ敢ヘテスルノ餘地無カラシメ他面不用意ノ間ニ偶々本令ニ抵觸スル等ノ者ニ對シテハ其取扱苛酷ニ涉ラサル様本會ノ活用ヲ諷ラサラムコトニ努メラルヘシ

● 携帶ノ意義ニ關スル件

明治四十四年七月四日 保第八〇七四號

各署長宛

銃砲火藥類取締法施行規則第三十九條ノ戎器携帶ノ意義ニ關シ各署ニ於テ多少見解ヲ異ニスル向アリテ之ヲ取扱方區々ニ涉リ居ルカニ及聞候處右ハ之ヲ一時ノモノト解シ護身其ノ他一定ノ目的ノタメニ現ニ携帶ノ際ヲ意味スルモノナリトノ見解ニ依ルテ正當ト認メ候條右ニ依リ取扱相成度爲念及通牒候也

● 陸軍々人銃器佩用ニ關スル件

明治四十五年五月二十五日 保第五三一九號

〔山口書〕

別紙ノ通り其筋ヨリ通牒ノ次第モ有之候處陸軍現役軍人タルト豫備後備役軍人タルトト間ハ制服以外ノ場合ニ於テ拳銃短銃等ノ買入所持携帶授受運搬等ニ關シテハ當然銃砲火藥類取締法施行規則第三十九條ニ依ルヘキ義ニ付相當取締ヲ致サルヘキハ勿論在郷軍人總會等ノ場合ヲ利用シ其旨ヲ諭示シ違反行爲ナカラシムル様取計ヲハルヘシ

陸軍々人拳銃ノ授受携帶其他ニ關シ甲號ノ通り陸軍次官ニ照會相成候處乙號ノ通り内務次官宛回答有之候條右御含ミノ上相當御取締相成度依命此段及通牒候也

追テ下士以下ノ軍人ニ在リテハ職務上必要ノ場合ハ拳銃ヲ官給セラレ、ニ付若シ同軍人ニシテ之ヲ買入テ爲サムトスルトキハ當然許可ヲ受クヘキ義ニ有之候條御了知相成度此段申添候也

(甲號)

拳銃短銃ハ銃砲火藥類取締法施行規則第三十九條ノ規定ニ依リ職務ノ爲メ授受運搬又ハ携帶スルニハ警察官署ノ許可ヲ受ケルヲ要セザルヲ以テ本年軍令陸軍第一號陸軍服裝規則ニ依リ拳銃ノ佩用ヲ要スルモノハ其現役軍人タルト在郷軍人タルトニ拘ラス警察官署ノ許可ヲ受ケルコトナク授受其他ノ行爲ヲ爲スニ於テ差支無之候得共若シ制服以外ノ場合ニ於テ同一行爲ヲ爲ストキハ直ニ同第三十九條ニ違反スル次第ニ有之然ルニ制服ノ服裝ヲ爲スベキ場合ハ其數多カラサルニ拘ラス既ニ拳銃ヲ所有スル上ハ不知不識之ヲ携帶スル等違反ノ行爲ヲ爲スノ虞可有之爲メニ處罰ヲ蒙ルカ如キコト有之ニ於テハ甚々遺憾ノ義ニ有之候ニ付各軍人ニ對シ注意方可然御訓達相煩度此段及照會候也

(乙號)

〔山口書〕

四月二十五日付内務省警第二〇二九號ヲ以テ御照會相成候拳銃、短銃取扱方注意ノ件了承然ルニ軍令陸軍第一號陸軍服裝規則ニ規定ノ場合以外ニ於テ職務上之ヲ携帶ヲ要スル場合多々相生シ候條單ニ制服着用以外ニ在テ銃砲火藥類取締法施行規則第三十九條ノ手續ヲ履行スルコトナク運搬携帶等ヲ爲ストキハ相當ノ制裁ヲ受クヘキ旨特ニ陸軍一般ヘ注意致置候間承知相成度此段及回答候也

● 戎器ノ授受運搬又ハ携帶許可證

大正十五年四月二十日 保第三六七三號

各署長宛

標記ノ件ニ關シ拳銃短銃仕込銃仕込刀劍其ノ他變裝シタル戎器ノ授受運搬携帶ノ許可ニ際シ取締上必要有之候場合ニ於テハ銃砲火藥類取締法施行規則第十七條ニ依リ已號様式許可證ニ其ノ有効期間及生年月日ヲ記入スルモ妨ナキ旨其ノ筋ヨリ通牒有之候條取締上了知セラレヘシ

● 銃砲輸出ニ關スル件

大正六年八月十七日 保第六七三五號

各署長宛

銃砲火藥類取締法施行規則第三十九條ニ依リ拳銃携帶ノ許可ヲ受ケタル者カ外國へ渡航スルニ際シ護身用トシテ之ヲ携帶スルハ銃砲火藥類取締法第八條ノ輸出ニ非スト解スル向有之候處同條ノ輸出ハ其ノ目的及數量ノ如何ヲ問ハス荷モ國外ニ搬出スルモノハ總テ包含スル旨其ノ筋ヨリ通牒有之候條了知セラレヘシ

追テ護身用及獵用等ノ爲メ携帶スル銃砲火藥類輸出入許可ノ手續、關シテハ銃砲火藥類取締法取扱心得第十四條但書ヲ準用ス

●武器彈藥ノ携入又ハ持運禁止ニ關スル英國法令中改正ノ件

大正六年十一月二十日
保第九七七號

各警察署長宛

英本國ニ武器彈藥ヲ携入シ又ハ大不列顛及愛爾蘭ニ於テ是等ノモノ、持運ニ關スル同國法令中ニ別紙譯文ノ如キ改正ヲ加ヘラレタル旨其ノ筋ヨリ通牒有之候條爾後同國方面ニ渡航スル者ニ對シ特ニ注意方取計ヲハルヘシ別紙 武器輸入ノ禁止其ノ他

規則第三十一ノ廢シ左ノ項目ヲ以テ之ニ換フ
凡ソ何人ニテモ權能アル海陸官憲ヨリ許可ヲ得ルコトナクシテ何等ノ銃器、銃器ノ一部、軍用武器、軍用武器ノ一部、彈藥又ハ爆發物ヲ聯合王國ヘ携入又ハ持運若ハ大不列顛國ニ携入シ又ハ愛爾蘭ヨリ持運スルコトヲ得ズ之ヲ犯シタル者ハ本法違反ヲ以テ處分セララルヘシ而テ凡ソ何人ニテモ本法違反ノ行為ヲナシタル者及ヒ何人ニテモ本法ニ違反シテ携入若ハ持運サレタル物品ヲ所有シ保管シ又ハ管理シタル者ハ同人ガ當該物品ノ本法ニ違反シテ携入又ハ持運サレタルコトヲ知ラザリシテ立證シ並ニ相當ノ努力ヲ以テシテハ了知シ難キコトヲ立證スルニアラサル限リ本法違反ノ犯罪者タルヘシ該規定施行ノ爲ニ規則第五十一ニ依リテ交付セラレタル捜査及押收ノ權力ハ稅關吏員、稅務局吏員及ヒ本法記載ノ官憲吏員並ニ人ニ依リテ行使セラレ、モノトス

●銃砲火藥類輸出入取締ニ關スル件

大正七年四月二十九日
保第三九五三號

〔山口書〕

●芬蘭へ銃器輸出禁止ニ關スル件

大正八年十二月四日
保第一二五四一號

〔山口書〕

當分ノ内帝國内ヨリ芬蘭「ヘルシンゲ」アルス「ヘ」小銃及拳銃ノ輸出ヲ禁止セラレヘキ管ニ付之方計畫ヲ爲ス者アル場合ニ於テハ速ニ知事へ報告相成度候

●露領「カムチャツカ」方面へ銃砲火藥類輸出ニ關スル件

大正九年四月二十八日
保第四五〇〇號

各警察署長宛

別紙ノ通牒保局長ヨリ通牒ノ次第モ有之候條露領カムチャツカ方面へ非軍用銃砲又ハ非軍用火藥類ノ輸出許可申請書ヲ受理シタルトキハ其ノ輸出ノ目的ニ就キ嚴密調査ノ上護身用又ハ携帶使用ノ最小限度ノモノニ止メ其ノ他ノモノニ對シテハ許可セザル様取計ハルヘシ
追テ輸出ニ關シ直接關係ナキ警察官署ニ於テモ輸出港ニ到ル迄ノ運搬許可ノ申請アリタル場合ハ其ノ輸出ノ目的及輸出先ヲ調査シ露領「カムチャツカ」方面へ輸出スルモノナルコトヲ發見シタルトキハ其ノ旨ヲ諭シ運搬ヲ中止セシメラルヘシ(別紙省略)

●銃砲火藥類輸出入互報方ノ件

大正十一年八月四日
保第八五四六號

下關水上陸上兩警察署長宛

銃砲火藥類輸出入取締ニ關シ別紙ノ通牒ヲ警保局長ヨリ通牒有之候條取締上遺策ナキ時期セラレヘシ

下關水陸警察署長宛

外國ヨリ他ノ外國ニ向ケ輸送スル銃砲火藥類ニシテ我カ國內ヲ陸路運送スルモノニ對シテハ銃砲火藥取締法ノ輸入又ハ輸出ト認メサル向有之候條同法ノ所謂輸入トハ船舶ヨリ外國貨物ヲ陸揚ケシテ我カ國內ニ運入ル、行為ヲ指示スルモノニシテ其ノ外國ニ輸送スル目的ヲ以テ一時我カ國內ニ陸揚スルモノナルカ故ニ輸入ニ非スト解スルハ同法ノ精神ニ適合スルモノニ無之隨テ右等ノ貨物ヲ輸出港ニ於テ船積スルハ同法ノ所謂輸出ト認ムヘキモノニ有之候條右趣旨ニ依リ銃砲火藥ノ輸出入ニ關シ嚴重御取締相成度候

●爆發質物品輸出ニ關スル件

大正七年十二月二十四日
保第一二五九四號

各警察署長宛

標記ノ件ニ關シ今般在「カルカツタ」銻延總領事ヨリ左記通電報アリタル趣其ノ筋ヨリ通牒有之候條其ノ署下關係當業者ニ周知方取計相成度候

最近孟買ニ於テ爆發物検査官臨檢ノ結果荷造不完全ナル CARBIDE OF CALCIUM(炭化石灰)ノ本邦ヨリ輸入セラレタル事實發見セラレタル趣ニテ此ノ種爆發物ノ危険物ノ輸入ハ必ス堅牢ナル密封セル金屬容器ニ於テスヘキ旨荷造規則ノ規定ナルヲ以テ今後同規則及船積規則ニ違反セル危險物ハ總テ輸入ヲ許可セザルヘキニ付此旨本邦當該商人へ通知方印度商工務院ヨリ照會アリタリ

兵器彈藥輸出禁止ノ件ニ關シテハ大正八年六月五日付保第六六一〇號例規ヲ以テ指示セシ次第モ有之相當留意警戒中ノ事ト信スルモ今同關東州地方ニ於テハ馬賊不逞鮮人ニシテ銃砲火藥類ノ密賣買或ハ密輸ヲナス者抄ナカラス現ニ本年二月關東州大石橋在住ノ山下勝次郎ナル者橫濱大阪神戸等ヨリ多數ノ拳銃及同用實包ヲ密輸出セシ事例モ有之就テハ將來内地ト關東州及南滿鐵道附屬地トノ間ニ於ケル銃砲火藥類ノ輸出入ハ其ノ都度互報シ現品ノ著否及正當ニ消費セラレ、モノナルヤ否ヲ調査シ此等不逞徒ノ根絶ニ努メ以テ取締上遺憾ナキ時期シ度旨關東州警務局長ヨリ照會有之候條爾後鐵道並ニ船舶ニ依リ縣下ヲ通過シ又ハ其ノ署ニ於テ便宜許可セシ銃砲火藥類ニシテ關東州方面ニ輸出又ハ同方面ヨリ輸入スルモノハ左記事項ヲ當廳ニ即報セラレヘシ

記

- 一、省令第十條ノ事項
- 二、輸出入ノ許可ヲ得タル者ノ住所氏名
- 三、荷送人又ハ荷受人ノ住所氏名
- 四、輸出入及運搬ノ年月日並道路
- 五、陸揚又ハ貯藏ノ方法
- 六、其ノ他參考事項

●小包郵便ニ依リ獵銃ヲ白耳義ヨリ輸入ニ關スル件

大正十一年八月二十五日
保第九二六〇號

各警察署長宛

近來本邦ヨリ白耳義へ向ケ獵銃ヲ注文スルニ當リ小包郵便ニ依リ郵送方ヲ

依頼スル者尠ナカラサル處右ハ注文ノ際本邦官憲ノ輸入許可證添付ナキニ於テハ白耳義郵便當局ニ於テ之ヲ引受ケサル趣其筋ヨリ通牒有之候條右注文ヲナス者ニ對シ其趣ヲ示達シ相當注意セラルヘシ

露領へ銃砲火藥類輸出ニ關スル件

大正十四年九月十七日
保第一〇一八二號

各警察署長宛

別紙ノ通依命通牒有之候條其署下銃砲火藥類製造業者及同販賣業者ニシテ銃砲火藥類ヲ露國へ輸出セムトスルモノ在ル場合ハ露國官憲ノ特許ヲ受ケシメタル後輸出許可申請書ヲ進達方取計ハルヘシ

露領へ銃砲火藥類ノ輸出ヲ爲ス場合ハ露國官憲ノ特許ヲ要スル義ニ有之候ニ付テハ今後非軍用銃砲又ハ非軍用火藥類ヲ同地へ輸出許可申請有之候際ハ露國官憲ノ特許ヲ受ケタルモノニ限リ許可相成候條致度尙銃砲火藥類製造業者及同販賣業者ニ對シテモ銃砲火藥類ヲ同地へ輸出ヲ爲ス場合ハ右特許ヲ要スル旨傳達方御配慮相煩度
追テ本件ハ外務省ト打合濟ニ有之候間爲念申添候

銃砲火藥類移入許可證處理ニ關スル件

大正十五年三月十九日
保第二三一八號

各警察署長宛

首標ノ件ニ關シ別紙寫ノ通其筋ヨリ通牒有之候條其旨ヲ各營業者へ通知ノ上實行セシムル様取計ハルヘシ

〔山口警〕

銃砲火藥類ノ製造又ハ販賣業者ニシテ銃砲火藥類取締法施行規則第四十二條但書ニ依リ當該行政官廳ノ移入許可ヲ受ケタル者ニ對シ銃砲火藥類ノ渡ヲナス場合同法施行細則第二十一條及第八條第二項ニ準據シ處理相成居候向モ有之趣ニ候處右許可證ヲ返還セサルニ於テハ移入許可官廳ニ於テ取締上差支相生シ候旨申越候ニ付テハ今後移出ノ爲ニスル讓渡ヲナス場合ハ營業者ヲシテ其寫ヲ作製セシメ許可證ハ讓受人ニ返還シ同法施行細則第八條第二項ニ準據シ右寫ヲ所轄警察官署ニ差出サシムル様御措置相成度右申進候

銃砲火藥類ヲ南洋廳管内へ移出スル者ノ取締ニ關スル件

昭和五年六月二十六日
保第八〇五七號

各警察署長宛

銃砲火藥類ヲ殖民地ニ輸送スル場合ニ於テ其取扱上ニ就キ輸出ナルヤ又移出ナルヤ用語上疑義ナキニアラサルモ本邦ノ銃砲火藥類取締法令ノ所謂輸出トハ我統治權ノ及ハサル地ニ輸出シ又ハ其地ヨリ輸入スルコトヲ意味スルモノト解シ取扱ヒ來リ候處今同意味ニ於テ左記ノ通り其筋ヨリ通牒有之候條取扱上知セラルヘシ

近時内地ヨリ南洋廳管内ニ對シテ銃砲火藥類ヲ輸送スル際輸出トシテ取扱ハル、向モ有之趣ニ候處右ハ移出トシテ御處理相成致度

吳軍港ニ出入スル船舶ニシテ危害品ヲ積載スルモノ、手續上注

意ノ件

明治二十九年五月十五日
示警甲第三二號

〔山口警〕

吳軍港ニ出入スル船舶ニシテ危害品即チ發火シ易キ性質ノ物品ヲ積載シ正當ノ手續ヲ爲サ、ルモノ近來往々有之哉ノ趣右ハ軍港規則ニ違反シ相當處分セラルヘキ義ニ付豫テ營業者へ注意方説諭ノ上不都合無之様嚴重取締セラルヘシ

官公署ニ於ケル火藥類ノ授受運搬貯藏方法ニ關スル件

明治三十二年八月十七日
訓警甲第三六號

各署長宛

銃砲火藥類取締ニ關スル法令ハ官公署ニ適用スルノ限リニ無之候得共右ハ危險ナルト一方ニハ人民へ對シ制裁モ有之儀ニ付官公署ニ於ケル火藥類ノ授受運搬貯藏ノ方法等モ該法令ノ規定ニ準據取扱フ儀ト心得ラルヘシ

火藥類運搬ニ關スル件

明治四十三年六月一日
保第四二九八號

下關署長宛

關門兩港及其附近ヲ經由スベキ火藥類ノ運搬ヲ許可シ又ハ他ノ官署ヨリ其運搬ノ通知ヲ受ケ若ハ之ヲ知りタルトキハ速ニ左記ノ事項ヲ下關水上警察署及福岡縣港務部へ通知セラルヘシ

一、運搬日時

第二編 保安 第四章 銃砲火藥類 其ノ他

- 二、火藥ノ種類、數量
- 三、發送地及發送人
- 四、運搬先及受取人
- 五、通路

追テ港務部へノ通知ハ全部下關見張所へ便宜電話通知シ差支ナシ

明治四十三年六月一日
保第四二九八號

下關水上警察署長宛

火藥類運搬ニ關シ下關水上署長ニ對シ別紙寫ノ通り指示置候條火藥積載船ハ他ノ船舶ニ接近セシメサル等危險豫防上遺策ナク取締セラルヘシ
(別紙省略)

火藥類積載船舶取扱方ノ件

明治四十四年六月十四日
保第七二二九號

下關水上警察署長宛

火藥類積載船舶取扱ニ關シ本船ヨリ火藥類ヲ積卸スル場合ニ於テ爆發物貯庫若クハ火藥類貯藏所ニ直ニ收納シ得ルカ又ハ直チニ他船ニ積換ヘ得ル場合ニ限リ許可スヘキ筋合ニ有之從テ施行細則第三十五條ノ緊留船又ハ倉庫船一時倉庫ニ代用シ得ル規定ハ最モ其ノ適用ノ範圍ヲ限局シ貯藏數量ノ如キハ一般倉庫ノ貯藏制限ニ準據スヘキハ勿論留期間ノ如キモ其ノ貯藏積載數量ヲ參酌シテ適宜制限ヲ加ヘ又火藥類積載ニ際シ使用スヘキ解船等ノ取締ニ付テハ左記標準ニ據リ相當措置セラルヘシ

一、税關ノ手續ヲ終リタル火藥類積載船等ハ直ニ仕向地ニ向ケ出發セシメ港ノ内外ヲ問ハス碇泊ヲ許サ、ルコト
二、税關ノ手續未了ノモノハ位置ヲ指定シテ一時碇泊ヲ許シ左ノ條件ヲ遵

守セシムルコト

イ、火藥ヲ積載セル船舶ノ類ハ大形ニシテ一隻五百函以上ヲ搭載セザル

コト

ロ、碇泊ノ位置ハ陸岸ヲ距ル約三哩以上タルヘキコト

ハ、税關ノ手續ヲ終了シタルトキハ直ニ出船スルコト

三、税關ノ手續未了ノ爲メ碇泊ヲ許可セラレタル場合ト雖モ二十四時間内

ニ税關ノ手續ヲ終了セザルトキ更ニ其ノ旨ヲ届出指揮ヲ受クヘキコト

●火藥類運搬其ノ他取扱ニ關スル

大正七年十月十日
保第一〇〇六四號

各署長宛

近來火藥類ニ對スル事故頻々タルニ鑑ミ今回其ノ筋ヨリ別紙通牒ノ次第モ有之候條其ノ署管内ニ於ケル火藥類ノ運搬其ノ他ノ取扱殊ニ火藥類ノ發者ニ關シテハ必ス實地ニ臨檢調ヒテ爲ス等一層嚴重ナル取締ヲ勵行シ其ノ主旨ノ貫徹ニ努メ取締上遺策ナキヲ期セラレヘシ

別紙

近時火藥類ノ爆發シテ人命財產ニ傷害及ホシタル事故頻々トシテ發生シ公安上洵ニ遺憾ニ堪サルモ有之候之方禍害豫防ニ關シテハ常ニ相當御注意相成居候儀ト被存候處火藥類ノ爆發ハ火藥類ノ自然分解ニ基クモノ稀ニシテ多クハ火藥類ヲ貨車船舶又ハ荷車ニ積卸若ハ荷練リヲ爲ス際手釣類ヲ容器ニ打チ込ミ或ハ之ヲ投下シ轉輾スルカ如キ粗暴ノ取扱ヲ爲スモノアルニ起因スルモノノ如ク認メラレ候就テハ之レカ積卸又ハ荷練ニ從事スル仲任ノ取締ヲ嚴ニシ其ノ取扱上遺漏ナキヲ期セシメラレ度尙銃砲火藥類取締法施行規則第三十六條ニ依リ警察官署ニ於テ其ノ管外ニ運搬セラル、火藥類ノ運搬ヲ許可シタルトキハ其ノ火藥類ノ品名數量運搬ノ日時、方法、通

〔山口警〕

路、運搬人ノ住所、氏名及運搬先ヲ消道警察官署（鐵道運送ニ依ルモノニ

車場船舶運送ニアリテハ船）並ニ到着地警察官署ニ通報シ其ノ通報ヲ交ケ

積地及陸揚地所轄警察官署）並ニ到着地警察官署ハ其ノ著否ヲ許可

シタル警察官署ニ通報スル等運搬ノ確實ト消道ノ危險防止トニ努メラレ度

特ニ人家稠密ノ場所ニ於テスル運搬、荷積、荷卸等ノ場合ニ於テハ銃砲火

藥類取締法施行規則第三十九條ノ違反ナカラシムル様嚴重御取締相成度鐵

道運送ノ場合ニ於ケル火藥類ノ到達停車場ニ著シタルトキノ通報方ニ關シ

別紙ノ通牒院ヘ照會致置候條右通報ヲ受ケタル警察官署ニ於テハ火藥類

ノ取締上遺策ナキヲ期セラレヘシ

追テ人家稠密ノ地ヲ貫流スル河川ヲ航行ノ船舶ニ依リ常時多量ノ火藥類

ヲ運送スルモノアラハ其ノ火藥類ノ品名、數量、船積地、陸揚地、火藥

類積載中碇泊地又ハ繫留地及其ノ取締ノ狀況承知致度候

別紙

近來火藥類ノ運送中ニ於ケル爆發事故頻々發生候ニ付テハ之カ危險豫防上相當警戒ヲ要スルモノ有之候處火藥類鐵道運送規程ニ依レハ其ノ第二十四條ニ於テ火藥類積載ノ貨車到達停車場ニ著スルモノ到着後二時間以内ニ荷受人力火藥類ヲ搬出セザルトキニアラサレハ所轄警察官署又ハ警察官吏ニ之ヲ通知スルヲ要セザル規定ニ相成居候爲メ二時間以内ニ荷受人力火藥類ヲ停車場外ニ搬出スル場合ニ於テハ荷受人ノ火藥類取扱ニ關シ警察官吏ノ取締ヲ缺ク場合有之候就テハ自今右規定ノ如何ニ拘ハラス火藥類積載ノ貨車到達停車場ニ著シタルトキハ直ニ之ヲ警察官署又ハ警察官吏ニ通知方御取

計相成候條致度尙大阪下關等多數ノ汽車旅客ノ乗降アリ且ツ人家稠密ノ場

所ニ設置シアル停車場又ハ其ノ附近ニ於ケル火藥類運送上ノ取扱ニ關シテ

ハ相當考慮ヲ要スヘキモノ有之様認メラレ候ニ付右兩條ハ勿論他ノ各條ニ

〔山口警〕

於ケル前三ヶ年間ノ積込又ハ荷卸ヲ爲シタル火藥類ノ品名數量ヲ各縣毎ニ御調査ノ上御回報相煩度候

●火藥類貯藏所ニ關スル件

明治四十五年三月
保第三八二七號

各署長宛

客年三月銃砲火藥類取締法改正右ニ於ケル火藥貯藏所ノ新設又ハ改造等ニ關スル出願書類ノ提出方ニ付テハ命令ノ規定ニ適合セザルモノ多ク有之爲メニ之レカ訂正ヲ要スヘク徒ラニ往復時日ヲ費スハ當業者ニ對シテモ不親切ノ嫌アルノミナラス又事務ノ煩雜ヲ免レサルヲ以テ此際之レカ標準ヲ設定候方相互ノ取扱上便宜ニ可有之ト被認候條爾後進達ニ係ルモノハ大體別紙ノ標準ニ依リ不備ノ點アルモノハ相當訂正セシメタル上進達方取計相成度候

別紙

火藥類貯藏所新設（増築）（改築）（修繕）（模様替）許可申請書

一、火藥庫ノ位置縣郡市町村地名番地

一、有煙火藥庫 一棟

貯藏火藥類數量

有煙火藥何貫匁、有煙火藥ヲ裝填シタル銃用實包何個、同上銃用空

包何個、有煙火藥ノミヲ裝填セル火工品何個又ハ何間

一、無煙火藥庫 一棟

貯藏火藥類數量

無煙火藥何貫匁、無煙火藥ヲ裝填シタル銃用實包何個、同上空包何

個、無煙火藥ノミヲ裝填シタル火工品何個

一、爆藥庫 一棟

第二編 保安 第四章 銃砲火藥類 其ノ他

路、運搬人ノ住所、氏名及運搬先ヲ消道警察官署（鐵道運送ニ依ルモノニ

車場船舶運送ニアリテハ船）並ニ到着地警察官署ニ通報シ其ノ通報ヲ交ケ

積地及陸揚地所轄警察官署）並ニ到着地警察官署ハ其ノ著否ヲ許可

シタル警察官署ニ通報スル等運搬ノ確實ト消道ノ危險防止トニ努メラレ度

特ニ人家稠密ノ場所ニ於テスル運搬、荷積、荷卸等ノ場合ニ於テハ銃砲火

藥類取締法施行規則第三十九條ノ違反ナカラシムル様嚴重御取締相成度鐵

道運送ノ場合ニ於ケル火藥類ノ到達停車場ニ著シタルトキノ通報方ニ關シ

別紙ノ通牒院ヘ照會致置候條右通報ヲ受ケタル警察官署ニ於テハ火藥類

ノ取締上遺策ナキヲ期セラレヘシ

追テ人家稠密ノ地ヲ貫流スル河川ヲ航行ノ船舶ニ依リ常時多量ノ火藥類

ヲ運送スルモノアラハ其ノ火藥類ノ品名、數量、船積地、陸揚地、火藥

類積載中碇泊地又ハ繫留地及其ノ取締ノ狀況承知致度候

別紙

近來火藥類ノ運送中ニ於ケル爆發事故頻々發生候ニ付テハ之カ危險豫防上相當警戒ヲ要スルモノ有之候處火藥類鐵道運送規程ニ依レハ其ノ第二十四條ニ於テ火藥類積載ノ貨車到達停車場ニ著スルモノ到着後二時間以内ニ荷受人力火藥類ヲ搬出セザルトキニアラサレハ所轄警察官署又ハ警察官吏ニ之ヲ通知スルヲ要セザル規定ニ相成居候爲メ二時間以内ニ荷受人力火藥類ヲ停車場外ニ搬出スル場合ニ於テハ荷受人ノ火藥類取扱ニ關シ警察官吏ノ取締ヲ缺ク場合有之候就テハ自今右規定ノ如何ニ拘ハラス火藥類積載ノ貨車到達停車場ニ著シタルトキハ直ニ之ヲ警察官署又ハ警察官吏ニ通知方御取

計相成候條致度尙大阪下關等多數ノ汽車旅客ノ乗降アリ且ツ人家稠密ノ場

所ニ設置シアル停車場又ハ其ノ附近ニ於ケル火藥類運送上ノ取扱ニ關シテ

ハ相當考慮ヲ要スヘキモノ有之様認メラレ候ニ付右兩條ハ勿論他ノ各條ニ

貯藏火藥類數量

ダイナマイト（其他）何貫匁

一、火工品庫 一棟

貯藏火藥類數量

銃用雷管何個、工業用雷管何個、何信管何個、何門管何個、爆管何

個、其他何個

一、火藥庫ノ外壁ヨリノ距離

規則第三十三條第一項第一號何町以内ニ無シ（或ハ何町）

同二號何町以内ニナシ（或ハ何町）

同三號 同 （同）

一、竣工期日御許可ノ日ヨリ何日間

右ハ私何々用ノ爲メ火藥庫新設致度候間御許可可被下度火藥貯藏庫避雷裝置

土堤相互ノ位置關係圖火藥庫附近見取圖火藥庫構造使用書相添ヘ此段申請

候也

年 月 日 縣郡市町村番地族稱職業

何 某 生年月日

知事 宛

有煙火藥（無煙火藥）（爆藥）（火工品）庫構造仕様書

一、土藏造 桁行何間、梁行何間 至屋頂何尺

一、屋根 松（何寸角）ノ垂木ノ上ニ板ヲ張リ詰メ其ノ上ヲ亞鉛引鐵板

ヲ以テ葺キ屋内ヨリ壓力ヲ加フル時ハ容易ニ屋根蓋ヲ昂起

シ得ヘキ構造トナス其他何々

一、天井 何々

一、庫壁 厚サ五寸以上（其他石造煉瓦造ノ場合ハ七寸以上）

- 一、窓 厚サ五寸以上ノ外開キ土戸トシ内側ニハ不透明硝子ヲ用ヒテ上下開閉自在ノ不透明ノ硝子戸トス
- 一、入口扉 厚サ五寸以上ノ土戸トナシ外開キ二重戸トナシ外面ニハ何々ノ防火設備ヲナス
- 一、庫内 庫ノ内壁ハ厚サ何分ノ板ヲ張り詰メ土砂其ノ他ノ剝落飛散ヲ防ク装置ヲナシ且ツ鐵類ヲ露ハサス
地面ヨリ何尺上リノ處ニ松何寸角ヲ根座トナシ其ノ上ニ松何分板ヲ以テ密ニ張り詰メ其ノ矧目ニハ「チヤン」「松樹脂」等ヲ填塞ス（尙ホ其上チズブイヲ以テ敷物トスレハ甚々宜シ）
床下側壁ニハ風通孔ヲ設ケ此ノ孔ニハ金屬製ノ網ヲ張ル
- 一、前房 (庇)入口ノ所ニ三尺程出シ杉板(何分)ヲ用キ其ノ上チ亞鉛引鐵板ヲ以テ葺爆藥無煙火藥貯藏庫ニハ示差寒暖計ヲ備付ク
- 一、庫内容積 自床至天井何尺幅何尺縱何尺
- 一、土堤 土ヲ以テ築キ上ケ其ノ表面ニハ芝草類ヲ植ツ
高サ何尺頂上幅三尺以上堤脚幅何尺庫壁ノ外側ヨリ堤脚迄何尺
- 一、避雷針 長サ何間ノ杉圓柱ヲ植立シ銅線及亞鉛引鐵線ヲ用ヒ地中板ハ九平方尺ノ銅板ヲ用ヒ避雷針ノ尖ヨリ屋端ノ最モ遠隔セル點ニ至ル想像的直線ト四十五度ノ角度ヲ保チ地中板ハ深ク水氣ノアル點迄埋没ス且ツ避雷針ノ尖端ニハ金又ハ白金ノ鍍金ヲナシタル金屬ヲ附著シ銅線ニ接続ス其他何々
- 一、貯藏セムトスル最大限ノ火藥有煙無煙爆藥ヲ各種別毎ニ高サ三寸ノ杭木ヲ置キ其ノ上ニ井然形ニ堆積シ周圍ニハ内壁ヨリ一尺以上ノ間

〔山口書〕

隔チ有シ且ツ堆積上層ヨリ天井ニ至ル何尺(無煙爆藥ニアリテハ成ルヘク三尺ノ空隙ヲ存スルコト)

一、右ノ外土地ノ狀況ニヨリ特別ノ設備ヲ出願セムトスル者ハ其ノ詳細ナル狀況設備並火藥庫ヲ含ミタル附近ノ土地ノ縱橫斷面圖ヲ提出ノコト

明治四十五年三月八日
保第二五三四號

各署長宛

銃砲火藥類取締法施行細則第三十三條ノ規定ニ依リ倉庫ハ之ヲ地下ニ建設シ得ラル、ヲ以テ地上ニ周圍一間以上ノ空地ヲ保有セシムルコトノ困難ナル場合ハ之レカ敷地ヲ地下ニ求ムル者モ多有之候處往々住屋其他ノ建造物ノ地下ニ之レヲ設置セムコトヲ企タル實例モ有之右ノ設備ニ對シテハ許可セサル様其筋ヨリノ通牒モ有之保安取締上危險少ナカラサル義ニ付相當計ヲハルヘシ

大正元年八月九日
保第二〇五號

各署長宛

銃砲火藥類取締法施行細則第三十二條第一項但書及同條第一項第七號但書ニ依リ火藥庫ノ建設ヲ出願セムトスル者ニ對シテハ其筋ヨリノ通牒モ有之候條爾後出願ヲ爲ス場合ハ願書及圖面ヲ各二通宛進達セシムル様取計ヲハルヘシ

●火藥類貯藏所震災ニ關シ注意ノ件

大正十三年九月三日
保第九四五四號

各署長宛

昨年九月一日關東地方大震火災ニ際シ火藥類貯藏所被害狀況ニ鑑ミ注意スヘキ事項左ノ通牒有之候條將來取締上相當考慮セラレヘシ

〔山口書〕

- 一、將來市街地ニ倉庫ヲ新設スルトキハ規則第三十三條第三項但書ノ場合ト雖モ可成周圍ニ一間以上ノ空地アル位置ヲ選ヒ入口ハ火災豫防上有効ナル側面ニ設ケ其屋根ハ附近狀況ヲ考慮シ板下地ノ上ニ輕量ナル鐵板ヲ以テ二重トシ鐵板間ニ川砂等比較的熱ノ傳導乏シク且容易ニ飛散スヘキモノヲ填實スルカ又ハ倉庫周圍ニ灌水スルノ設備ヲナス等防火上相當考慮スルコト
- 二、倉庫ノ庫壁ハ外層ノ設ケナキ限リ土藏造、鐵筋コンクリート造、煉瓦造、石造タルヲ問ハス其厚サ二尺以上トスルコト
- 三、倉庫ニ各種火藥類ヲ同時ニ貯藏セントスルモノニ在リテハ其ノ隔壁ハ庫壁同様其構造ノ如何ニ拘ラス厚サ二尺以上トスルコト但銃砲火藥類取締法施行規則第二十八條規定數量ヲ以テ貯藏セントスル數量ヲ除シ其商チ加ヘ其和一以上トナラサル場合ニ於テハ此ノ限リニアラス
- 四、貯藏所(火藥庫)ノ壁ハ今回震災ノ被害ヨリ見ルニ鐵筋「コンクリート」最モ強固ナリシヲ以テ將來此等新設ニ當リテハ相當考慮スルコト
- 五、貯藏所(火藥庫)ノ壁ニシテ煉瓦造石造ノモノニアリテハ接際ヨリ脫離崩壊シタルモノ多シ此等建設ニ對シテハ相當注意スルコト
- 六、火藥庫屋根ノ葺葺材料ハ火災ニ對シ抵抗性ヲ有スルモノヲ選ビ強震ニ際シ石盤板、瓦等脫落スルモノ尙耐火力アル如ク設計スルコト
- 七、火藥庫假貯藏所ニ火藥類ヲ貯藏セルモノニシテ五層以上累積セルモノハ崩落シタル實例アリ可成五層以上積上ケサルコト尙其兩端ハ崩落ヲ豫防スルメ容器ハ井桁ニ積上ケルコト
- 八、倉庫附近ノ火災ニシテ震災ノ免レ難キ場合ニシテ尙且貯藏火藥類ヲ處

處スル餘裕アル時ハ次ノ如キ方法ヲ採ルコト

(1) 相當時間アリ且通路危險ナラサル場合ハ之ヲ安全地帯ニ搬送スルコト

(2) 通路危險ナルカ又ハ搬送スヘキ餘裕ナキ場合ハ有煙火藥ハ水中ニ投棄シ爆藥及火工品ニシテ浸水ニヨリ效力ヲ失ハサルモノニアリテハ位置ヲ定メ河川其ノ他水中ニ一時投入シ災後調査ノ上處分スルコト

●火藥類貯藏其他取扱ニ關スル件

昭和四年六月十二日
保第七八五五號

各署長宛

火藥類ノ取扱ニ關シテハ其ノ性狀危險ナルニ鑑ミ災害其ノ他盜難不正ナル貯藏若ハ授受等ノ事ナカラシムル様當時嚴密ナル取締方勵行中ノ處近年火藥類ノ需要激増ニ伴ヒ其ノ用途ニ適應セル藥種モ亦著シク増加ノ狀況ニ有之候ニ付テハ之カ貯藏其ノ他ノ取扱ニ關シ左記事項特ニ留意シ危險ヲ未然ニ防遏シ取締上遺策ナキヲ期セラレヘシ

記

- 一 火藥類中ニハ貯藏又ハ取扱中種々ナル原因ニヨリ變質シ殊ニ夏季ニ於テ溫度上昇セル場合ニ於テ自然爆發ヲ惹起スルカ如キモノアルニ付當業者ニ對シ可成長期ニ亙ル貯藏ヲ避ケシメ且ツ貯藏ニアリテハ施行手續第七條ノ規程ヲ勵行ノ上製造年次ノ古キモノヨリ處理セシムルコト
- 二 製造年月不明又ハ製造後二年ヲ經過セルモノ又ハ長期ニ涉リ貯藏セル爆藥類ニ對シテハ其ノ安全ヲ計ル爲規程ノ試驗ヲ督勵シ取扱心得第二十條ニ依リ取扱フコト
- 三 官公衙ノ證據品トシテ又ハ消費者等ノ殘火藥類ヲ火藥類販賣業者ノ貯藏所ニ貯藏方テ依頼シタル儘長期ニ涉ルモノ之ヲ放任シ甚シキニ至リテハ

依囑事由ノ不明若ハ依囑者ノ所在不明ノモノ等アリ此等ハ自然其ノ品質ヲ損シ危害豫防上看過スヘカラサルニ依リ速ニ相當措置セシムルコト
四 火藥類消費現場ニ於テ「ダイナマイト」ノ如キテ分割使用スル等ハ之ヲ變形ト見做サス單ニ火藥類消費ノ一手段トシテ不同ニ付スルコト

●火藥類貯藏ニ關スル件

明治四十四年六月一日
保第一九九號

各署長宛

銃砲火藥類取締法施行細則第四十二條ニ依リ青色試驗紙裝置方ニ關シテハ客年二十三日保第一六九號ヲ以テ及通牒置候處同一火藥類貯藏所内ニ同種類ノ火藥類ヲ多數貯藏スル場合ニ於テ其火藥類ニシテ製造所及製造年月日ヲ同ウスルニ限リテハ必スシモ各箱内ニ青色試驗紙ヲ裝置スルヲ要セス左ノ區別ニ依リ取扱相成度尙製造年月日及製造所名ヲ各箱内箱ニ記入スルハ必要ナクレトモ此等ノ事項ヲ各外箱ニモ記入セシムル方便宜ト認メ候條可然取計ラハルヘシ

記

- 一、製造後二年未滿ノ火藥類ニ付テハ外箱數百ニ對シ四箱以上ノ割合ヲ以テ青色試驗紙ヲ裝置スルコト但二十五箱以下ヲ貯藏スル場合ハ其ノ内一箱以上ニ裝置スルコト
- 一、製造後二年以上ヲ經過シ又ハ製造年月日不明ノ火藥類ニ付テハ其ノ外箱數百ニ對シ拾箇以上ノ割合ヲ以テ青色試驗紙ヲ裝置スルコト但拾箇以下ヲ貯藏スル場合ハ其ノ内一箱以上ニ裝置スルコト
- 一、右青色試驗紙ヲ裝置スヘキ箱ハ積込ノ狀況ヲ察シ方面ヲ異ニシ層ヲ異ニスル等適當ノ措置ヲ採ルコト

〔山口書〕

●火藥類試驗用紙ニ關スル件

明治四十四年五月三日
保第五四七四號

各署長宛

銃砲火藥類取締法施行細則第四十六條ニ依リ火藥類耐熱試驗ニ要スル標準色紙及沃度加里澱粉紙ハ官廳ニ於テ製造セルモノヲ用ウヘキ規定ニ有之候處右ハ差當リ東京砲兵工廠ニ於テ製作ノ依頼ニ應シ一般希望者ハ賣渡ヲ爲ス趣ニシテ其價格受拂手續等左記ノ通りニ有之候條現在營業者及消費者ハ勿論今後之レカ設備ヲ要スルモノニ對シテハ右ノ趣告知ノ上相當設備セシムル採取計ラハルヘシ

●火藥類耐熱試驗用紙賣拂手續

- 一、賣拂代價耐熱試驗用紙一摺ニ付金八拾四錢
但シ一摺トハ沃度加里澱粉紙五百枚標準色紙五枚ヲ著色玻璃瓶ニ收容シ尙ホ運搬中玻璃瓶ノ破損ヲ防クタメ之ヲ木箱ニ收容シタルモノヲ云フ
- 二、一摺以下ノ端數ハ賣拂ヲナサス
- 三、拂受希望者ハ品目數量ヲ記載シタル拂下願書(官廳ニ在テハ拂下依頼書)ヲ該廠ニ差出スヘシ
- 四、代金ハ同廠ヨリ發行セル納入告知書ニヨリ之ヲ金庫ニ納入スヘシ
- 五、同廠ヨリ拂受人ヘ向ケ現品ノ發送ヲ要スルモノニアリテハ其ノ運賃ハ拂受人ノ負擔トス
- 六、個人ヘノ拂下ニ在リテハ代金ノ納入アリタル後現品ヲ交付ス

●青色リトマス試驗紙製造販賣等ニ關スル件

明治四十四年十二月二十五日
保第一二九四〇號

〔山口書〕

青色リトマス試驗紙製造販賣其ノ他ノ件ニ關シ其ノ筋目ヲ通牒ノ次第モ有之候條左記ノ通り措置セラレヘシ

各署長宛

記

- 一、銃砲火藥類取締法施行細則第二十七條第一項ニ依リ白鐵葉器ニ收納シ得ヘキ小量火藥ノ數量ニ付テハ其量貳百五十匁以内ヲラサルニ於テハ危險ノ虞有之ニ付右數量ヲ超過セサル様相當取締ヲ爲スコト
- 二、銃砲火藥類取締法施行細則第四十三條及第四十四條ニ依リ試驗ニ要スル青色リトマス試驗紙ハ其ノ銳敏ノ度ヲ一定セシムル爲メ大阪及東京兩砲兵工廠ニ於テ製作ノモノヲ一般ニ使用セシメ以テ不良品ノ斷定ヲ確一ナラシメ度就テハ其署下火藥類販賣業者及消費者ニシテ火藥類ノ貯藏所ヲ有スル者ニ對シ相當諭示シ之レカ實行ナ期セラレ度而シテ右試驗用紙拂下手續及價格別紙ノ通りニ付參考ノ爲添付ス

東京砲兵工廠ノ分

一、拂下手續

拂受人ハ拂下願書ヲ東京砲兵工廠宛ニテ提出スルヲ要ス同廠ニテハ該願書ニ依リ代價徵收ノ爲メ納入告知書ヲ發行シ願人ヘ送付ス(官公署ノ注文ニ對シテハ現品送付ノ後代價徵收ノ手續ヲナス)拂受人ハ此ノ納入告知書ニ據リ金庫ヘ納金シ金庫ヨリ同廠ヘ納入濟ノ通知アリシ後現品ハ市中ハ運搬業者ニ托シ運賃先拂ニテ發送ノ手續ヲ爲ス但シ小包郵便料(壹摺ニ付郵券八錢)ヲ拂下願書ヘ添付セハ同廠ヨリ直接發送ノ手續ヲ爲スニ付便利トス

二、拂下代價

壹摺ニ付金八拾六錢

第二編 保安 第四章 銃砲火藥類 其ノ他

但シ壹摺ハ青色リトマス試驗紙五百枚ヲ著色玻璃瓶ニ入レ尙之ヲ木製ノ容器ニ收容セリ

大阪砲兵工廠ノ分

青色リトマス試驗紙ハ注文ニ應シ其ノ都度製作シ一般ノ需ニ應スル趣ニ付需要者ハ左記ノ件御了知ノ上別紙様式ニ據リ注文書送付相成度候也

記

- 一、青色リトマス試驗紙壹摺ニ付金八十六錢
(當廠内渡ニシテ運搬費ヲ除ク)
- 但シ壹摺ニ付リトマス試驗紙五百枚ヲ著色玻璃瓶ニ收容シ之ヲ木箱ニ納ム
- 青色リトマス試驗紙注文書
- 明治 年 月 日

注文主 住所 氏 名

大阪砲兵工廠御中

何摺(壹摺ニ付五百枚入)

一、青色リトマス試驗紙

●火藥類試驗ニ關スル件

大正四年六月十五日
保第四四八一號

各署長宛

銃砲火藥類取締法施行細則第四十二條規定ノ注意品及同則第四十九條ノ製造後二年ヲ經過シ又ハ製造年月不明ノ無煙火藥及爆藥ハ毎月一回遊離酸試驗耐熱試驗加熱試驗ヲ施行スルコトニ規定セラレ居候處爆藥月報ニ依リハ此等不安定ナル爆藥ヲ貯藏シ居ル者多キカ如シ就テハ其ノ署下ニ於タル右

該當火藥類所持者ニ對シ之方試驗ヲ實行セシメ試驗ノ結果ハ同則第四十八條ニ依リ帳簿ニ記載シ置ク様示達シ且ツ危險防過ニ留意セラル、ト同時ニ當業者ニ對シ違反行爲ナカラシムヘク相當取締セラルヘシ
追テ右試驗ヲ施行シ能ハサル者ニ對シテハ同則第五十一條ニ依リ試驗施行方ヲ申請セシメラルヘシ

●火藥類試驗ニ關スル件

大正七年二月十六日
保第一四九八號

今同銃砲火藥類取締法施行細則改正ノ結果無煙火藥、棉火藥、其ノ他ノ火藥所持スル者ハ同法施行細則第四十七條ノ二、第四十九條、第四十九條ノ二ニ依リ製造後二年ヲ經過セサルモノハ毎年一回製造後二年以上ヲ經過シタルモノ又ハ製造年月不明ノモノハ三月或ハ六月毎ニ一回ノ試驗ヲ行ハサル可カラサルコト、相成候ニ付テハ其署下當業者ニ對シ右ノ趣旨ヲ諭示シ從來ノ舊慣ニ依リ漫然其ノ期ヲ失シ徒ラニ違反者ヲ生セシムルカ如キコトナキ様嚴重取締ヲ爲シ危險防上遺策ナキヲ期セラルヘシ

●輸入火藥試驗ニ關スル件

大正十年七月二十六日
保第六八〇八號

火藥ニシテ製造後二年ヲ經過セサルモノハ毎年一回同二年ヲ經過シ又ハ製造年月不明ノモノハ三月毎ニ一回耐熱試驗ヲ行フコトニ規定有之候處外國ヨリ本邦ヘ輸入セシ火藥ハ其ノ外箱側面ニ左記(一)例ノ如キ記載アルモノ右標記ノ數字ハ九年二月十日箱詰ノ意味ト想像セラレサルニ非サルモ正確

〔山口書〕

ナラス他ニ之ヲ證明スヘキ文書ナキ限りハ製造年月日不明ノモノトシテ取扱フコトト相成候條爾後爆藥月表其ノ他取締上相當注意セラルヘシ
一例



●銃砲火藥類讓渡ニ關スル件

大正三年三月二十三日
保第二二七〇號

銃砲火藥類販賣業者ハ別ニ規定アルモノノ外許可ヲ受ケサル者ニ準銃短銃其ノ他火藥類ヲ讓渡スコトヲ得サルハ勅令ノ規定スル處ナリ然レニ近來朝鮮臺灣等ノ在住者ニ對シ該地官憲ノ發シタル移入許可證ニ依リ準銃單銃等ヲ小包郵便ニ托送販賣シ又ハ火藥類ノ如キハ該許可證ヲ便宜攜帶シ來ル者ニ對シ販賣セル營業者有之趣ナルモ右官憲ニ於テ交付シタル移入許可證ハ單ニ當該地方ヘ陸揚移入スルヲ許可スルノ證ニシテ内地ニ於テ銃砲火藥類ノ讓渡ヲナスノ許可證ニアラサルヲ以テ營業者ハ右移入許可證ニ依リ銃砲火藥類ノ讓渡ヲ爲シ得ヘキモノニ無之候條此ノ旨營業者ニ示達シ相當取締セラルヘシ

●郵便物保護銃用火藥類購入方ノ件

大正五年八月二十九日
保第七三三三號

之トセス此等ノ場合ニ於テハ勢ヒ貯藏所以外ノ場所ニ貯藏スルノ止ムヲ得サルノ狀況ニ立到リ途ニハ其ノ弊ニ馴レ不識ノ間ニ違反行爲ヲナスカ如キハ危險取締上甚ダ遺憾ニ有之候條爾後火藥類讓渡ノ許可申請アリタル場合ニハ申請書ニ必ス讓渡先ヲ記入セシメラレ度尙許可ノ際ハ火藥類販賣業者ト火藥類消費場所トノ關係ヲ詳細調査シ其ノ消費場所ニ最モ接近セル販賣業者ヨリ讓渡タルコトヲ許可ノ條件トナス等ノ手段ニ依リ取締上一層注意セラルヘシ

●火藥類讓渡(渡)許可證返送ノ件

大正七年七月十八日
保第六七六七號

貴廳ニ於テ下付セル火藥類讓渡又ハ讓渡許可證ニシテ其ノ效力ヲ失ヒタルトキハ十日以内ニ所轄警察官署ヘ返納スルコトト相成居候處爾今其ノ都度當廳ヘ返送セラルヘシ

●陸軍現役將校ヲ配屬セル私立ノ中等以上ノ學校ニ於ケル軍用火藥類讓渡許可ノ件

大正十五年一月二十五日
保第四七八號

私立ノ中等以上ノ學校ニ於テ陸軍軍用銃砲及火藥類拂下規則ニヨル軍用火藥類ノ拂下ヲ受ケントスル場合當該學校ニシテ陸軍現役將校配屬セラレ右火藥類ハ軍事教練ニ使用シ且其出納ハ配屬將校ニ於テ取扱フモノニ對シテ

〔山口書〕

郵便物保護ノ爲銃器携帯使用ノ件ニ付選信省ニ於テハ別紙同省公達第四百十九號郵便物保護使用規定ニ依リ取扱フコトト相成居リ從ツテ火藥類ノ購入ヲ要スル場合ニ於テハ準銃使用局ニ於テ一般物件購買方法ト同一ノ手續ニ依リ讓受ケル管ナル趣ニシテ警察官署ノ許可ヲ要セサル旨今般警保局長ヨリ通牒ノ次第モ有之候條取扱上知セラルヘシ
追テ準銃使用局名ハ不日其筋ヨリ通報有之旨ニ付上更ニ通知ス

●小中學校火藥類讓渡許可申請ニ關スル件

大正六年十月二十三日
保第九一三二號

近來縣下ニ於ケル中小學校ニ於テ發火演習並ニ運動會等ニ際シ許可ヲ得スルコト小銃用空包ヲ製造使用スル向有ルヤノ間有之候處右ハ法令ニ違反スル義ニ付爾後右ノ目的ヲ以テ火藥類讓渡許可ノ申請ヲ爲シタル場合ハ先ツ火工品製造ノ許可ヲ得タル後ニアラサレハ火藥類ノ讓渡許可ヲ與ヘサル様嚴重取締方注意セラルヘシ

●火藥類讓受ニ關スル件

大正七年一月十五日
保第四〇四號

近來火藥類貯藏所ナシテ日々ノ使用量宛ヲ讓受ケルモノニシテ最寄ノ地ニ火藥類販賣業者ノ存在セルニモ不拘之ヲ遠隔ノ地ニ求ムルヤノ傾向有之候處右ハ其ノ讓受タル火藥類ニ使用殘餘アル時ニ於テ直チニ販賣業者等ニ還付スルコト不可能ナルノミナラス或ハ讓受ノタメ遠隔ノ地ニ往復ノ時間ヲ浪費シ其ノ日ニ使用スルコト能ハスシテ翌日ニ持越スカ如キコト無

ハ銃砲火藥類取締法施行規則ニヨル行政官廳ノ讓受ノ許可ハ便宜之ヲ要セサル様致度旨其筋ヨリ通牒有之候條了知セラルヘシ
追テ右拂下ニ對シテハ毎月陸軍造兵廠ヨリ拂下火藥ノ種類數量ヲ學校所在地所轄警察官署ヘ通報スルコトト相成候間申添候

帝國在郷軍人會射擊用火藥類讓受ニ關スル件

大正十五年十二月十日
保第一一五七三號

各警察署長宛

帝國在郷軍人會ガ實包並ニ狹窄射擊ノ實施ヲ軍隊ニ願出軍隊所屬ノ射擊場ニ於テ軍隊監視ノ下ニ射擊ヲナサシメ且彈藥ノ出納ハ軍隊ニ於テ取扱フ場合ニ於テモ彈藥讓受ノ許可申請ヲ要セシモ今後右ノ場合ニ限リ火藥類讓受許可ノ申請ハ便宜之ヲ要セサル様取計ヲハルヘシ

火藥類讓受渡取締方ノ件

昭和三年十月十九日
保第一三七〇六號

各警察署長宛

火藥類讓受渡及取扱ニ關シ不知不識違反行爲ニ互リ又ハ重大ナル結果ヲ惹起スルコトナシトセサルヲ以テ左記各項ニ對シテハ讓受人讓渡人雙方ニ注意ヲ與ヘ取締ヲ勵行セラルヘシ

- 一、獵友會長ニ於テ火藥類ヲ多量ニ買入レ必要ニ應シ證ニ會員ニ分讓スルハ不許可讓受渡トナルヲ以テ注意スルコト
- 二、獵友會長ニ於テ會員ノ依頼ニ依リ火藥類ヲ取讓メ購入スル場合ハ火藥商ニ對シ各人ノ狩獵免狀ヲ提示シ且各人ヨリ委任狀ヲ徵シ火藥商ニ交

〔山口書〕

付スルコト

- 三、總テ代人ヲ以テ火藥類ヲ購入スル者ハ必ス火藥類讓受許可證又ハ讓受證書(讓渡法ニ依リ讓渡ノ試掘又ハ探掘ヲナス者ヨリ提出スルモノ)ト共ニ委任狀ヲ讓渡人(火藥商)ニ交付スルコト(細則第二十二條ノ二參照)
- 四、黑色火藥及無煙火藥ハ引火シ易ク汽車又ハ自動車中ニテ煙草ノ火等ヨリ引火爆發スルコトナシトセサルヲ以テ少量ノ銃用火藥類(少量ノ解釋ハ二百五十匁内務省ノ解釋)ヲ除ク外ハ携帶乘車ス可ラサルコト(細則第三十九條ノ三及火藥類鐵道運送規程第二十五條參照)

火藥類取締ニ關スル件

大正十年四月三十日
保第六八七八號

各警察署長宛

火藥類ノ取締ニ關シテハ從來屢々指示セシ次第モ有之候處近時火藥類ノ盜難及炭坑並ニ工事場ニ於ケル使用人等ノ橫領又ハ鐵業權利證書ヲ利用シ必要以外ノ爆藥ヲ讓受ケ之ヲ轉賣シ又ハ其ノ權利證書ヲ他人ニ貸與シ以テ犯行ヲ容易ナラシムル等近來此種ノ不正行爲ヲ敢テスル者漸次増加スルノ傾向アリ今後之レカ取締ニ關シ一層ノ注意ヲ要スヘク就テハ爾今別紙様式ニ依リ監査簿ヲ調製シ受持巡査臨檢ノ都度取締狀況ヲ記入シ尙ホ其署巡査部長以上ヲシテ火藥類取締主任監督者ヲ定メ以テ取締ノ實行ヲ期セシメ其ノ擔任官ノ官職氏名ヲ本官ニ報告セラルヘシ
追テ取締ノ徹底ヲ期スル爲メ左記取締要項ヲ監査簿ノ卷頭ニ編綴シ取締ノ參考ニ資セシムルヘシ

記

第一、火藥商ニ對スル取締要項

- 一、倉庫以外ノ場所(店頭其ノ他)ニ規則第十八條規定以外ノ火藥類ヲ貯藏スルコトヲ得ス(規二七)
- 二、火藥類ノ收支ハ之ヲ帳簿ニ明記シ且ツ施行細則第七條ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス(細七、三〇)
- 三、許可ヲ得サル者ニ火藥類ヲ讓渡スコトヲ得ス但シ法令ニ特別ノ規定アルモノハ此ノ限リニアラス(法六、規四二)
- 四、讓渡ノ試掘若クハ探掘ヲ爲ス者工事若ハ工業ノ爲メ火藥類ノ消費ノ許可ヲ受ケ居ル者狩獵免狀ヲ有スル者カ火藥類ヲ讓受ケル際ハ行政官廳ノ與ヘタル許可ノ文書其ノ他資格ヲ證明スルコトヲ得ヘキ文書ヲ讓渡人ニ提示スル管ニ付販賣業者ハ之ヲ檢閱スルコトヲ要ス(規二一、細二二、五五)
- 五、貯藏所ヲ有セサル者ハ日々ノ消費量宛ヲ讓受ケル管ニ付「ダイナマイト」ヲ使用スルモノハ工業用雷管ト共ニ同時ニ讓受ケサレハ使用ノ目的ヲ達スルコト能ハス故ニ之等ヲ箇々ニ讓受ケ居ル場合ヲ發見セハ其ノ何レカヲ已ニ所持シ居リタルコトヲ證スルヲ以テ速ニ消費者ノ現場監査ヲ要ス(注意)
- 六、威銃又ハ鳥獸捕獲ノ免許證ニテハ火藥類ノ讓渡ヲ爲スコトヲ得サルモ或ハ火藥商ニシテ右免許證ヲ狩獵免狀ト同一視シ火藥類ノ讓渡ヲ爲シ居ラサルヤ(注意)
- 七、規則第二十一條ノ規定ニ依リ許可ヲ要セサル者ニ規定以上ノ火藥類ヲ讓渡シ居ラサルヤ(規一七、一八、二一)
- 八、帳簿記載中ニ鐵山、炭坑其ノ他貯藏所ヲ有セスシテ日々ノ消費量宛ヲ讓受ケ居ル者ニ對シテハ火藥商ト消費場所トノ距離等ヲ考査シ事實行ヒ得ルヤ否ヲ判定スルコト(注意)

〔山口書〕

九、讓受ケタル火藥類ノ消費地方他所轄ニ涉ルトキハ其ノ旨ヲ速ニ消費地ノ警察官署ニ通報スルコト

- 第二、火藥類貯藏所ニ對スル取締要項
- 一、貯藏所周圍ノ土堤崩壞若クハ建物ノ腐朽又ハ庫壁ノ剝落等ニ依リ庫内ニ日光ノ直射雨水ノ浸入スル箇所ヲ發見セハ期日ヲ定メ速カニ修繕ヲナサシムルコト
- 二、貯藏所ノ土堤及敷地内ニ雜草ノ繁茂セサル様常ニ注意シ刈リ取ラシムルコト
- 三、貯藏所使用認可後ニ於テ許可ヲ得スシテ修繕模様等ヲ爲シ居ラサルヤ且ツ庫内ニ火藥類以外ノモノヲ貯藏スルモノハ速カニ庫外ニ搬出セシムルコト
- 四、錠前ハ完全ニシテ盜難ノ虞ナキヤ特ニ注意スルコト
- 五、庫内ニハ上草履ヲ備付ケルコト
- 六、土足ノ儘庫内ニ出入スヘカラス常ニ清潔ヲ保持スルコト
- 七、貯藏方法ニ就テハ火藥箱ノ下ニ三寸以上ノ枕木ヲ置キ且ツ庫ノ内壁ヨリ周圍ニ各一尺以上ヲ隔テ、堆積セシムルコト
- 八、貯藏數量ハ許可ノ制限ヲ超過セシメサルコト
- 九、庫ノ内面ニ鐵具ノ露出セルヲ發見セハ速ニ之ヲ取除カシムルカ又ハ掩蔽セシムル方法ヲ講セシムルコト
- 十、爆藥庫ニハ示差寒暖計ヲ備付ケ其ノ溫度ヲ帳簿ニ明記セシムルコト且ツ同寒暖計ノ機能完全ナルヤ否ヲ檢スルコト
- 十一、異種ノ火藥類ヲ同一庫内ニ貯藏セシメサルコト
- 十二、火藥類ハ施行細則第二十七條ノ規定ニ適合セル容器ニ收納セシムルコト
- 十三、火藥箱内ニハ一個毎ニ官廳ニ於テ製造シタル青色トマス試験紙

- 十四、製造後二ヶ年ヲ経過シタルモノ又ハ製造年月不明ノ爆藥ヲ所持シテナカラ之ヲ放任スル者ヲ發見セハ速ニ試驗ノ手續ヲナサシムルコト
- 十五、帳簿上ノ數量ト在庫現在數ト符合セルヲ否テ檢スルコト
- 十六、火藥類收納箱ノ開閉ニ際シ金屬具ヲ以テ粗暴ノ取扱ヲ爲ス形跡ナキニ注意スルコト
- 十七、貯藏セル火藥類ハ製造年月ヲ同ウセルモノ毎ニ之レヲ取纏メ堆積シ可成年次ノ古キモノヨリ之ヲ使用セシメ且ツ庫内ニ揭示板ヲ備付テ許可ノ貯藏制限數量及在庫品ノ種類現在數量ヲ掲載シ一見明瞭ナラシムルコト
- 十八、貯藏セル「ダイナマイト」ニシテ多量ノ「ナイトログリセリン」ヲ混出セルモノヲ發見セハ速ニ其ノ位置ヲ變更シ又ハ拭掃セシムルコトナク適當ノ方法ヲ講シ速ニ當廳ニ報告スルコト
- 第三、火藥類消費場所ニ對スル取締要項
 - 一、規則第十八條各號以外ノ火藥類ヲ消費スル者ハ火藥類ノ收支明細簿ヲ調製シ其ノ收支ヲ明カニスルコト
 - 二、鑛物ノ試掘若クハ探掘ノ權利證書ハ常ニ火藥類ノ消費場所ニ存置シ居ルヤ若シ現場ニ在ラサル場合ハ必ス其ノ所在ヲ調査スルコト
 - 三、行政官廳ノ與ヘタル許可ノ文書ヲ他人ヘ貸與スル形跡ナキニ注意スルコト
 - 四、貯藏所ヲ有スル者ニ對シテハ帳簿上ノ數量ト在庫數量ト符合シ居ルニテ要スレハ帳簿上ノ日々ノ消費量ト保安現場員ノ手簿若クハ事務所ノ傳票等ト比較對照スルコト
 - 五、鑛物ノ試掘若クハ探掘ノ權利證書ヲ不正ニ利用シ必要以上ノ火藥類ヲ讓受ケ居ラサルヲ又讓受數量ハ適當ナルニ注意スルコト

〔山口書〕

- 六、火藥類ノ使用ニ關シテハ保安現場員自ラ之レヲ行ヒ可成銃坑夫等ニ火藥類ヲ渡サシメサル様注意スルコト
- 七、日々ノ使用殘火藥類(爆藥、雷管)アルトキハ必ス正規ノ場所ニ貯藏スルカ又ハ讓受先ヘ返却セシムルコト
- 八、貯藏所ヲ有セサル火藥類消費者ハ規則第十八條各號以外ノ火藥類ヲ貯藏スルコトヲ得ス
- 九、一旦讓受ケタル火藥類ハ許可ヲ得シテ最初ノ目的以外ノ用途ニ使用スルコトナキヤ
- 十、殘餘ノ火藥類ヲ他ヘ轉賣スル形跡ナキヤ常ニ注意内值スルコト
- 十一、盜難又ハ紛失シタル火藥類アルモ之カ届出ヲ怠リ放任セルモノナキヤ
- 十二、鑛山、炭坑其ノ他ノ消費者ニ對スル現時ノ盛衰ヲ能ク察知シ置キ火藥類ノ讓受數量ノ適否等ニ注意ヲ怠ラサルコト
- 十三、火藥類消費ノ方法ニ就テハ常ニ注意ヲ拂ヒ銃坑夫等ノ不正ニ領得スヘキ機會ヲ與ヘサル事ニ努メ可成終業ノ際身體檢査ヲ勵行セシムルコト
- 十四、一ヶ年ヲ通シテ爆藥壹千貫(火藥貳千貫)以上ヲ消費スル場所ニハ必ス火藥類取扱免狀ヲ有スル者ヲ置クコトヲ要ス火藥爆藥ヲ共ニ消費スル者ハ爆藥壹貫又ハ火藥貳貫毎ニ換算ス

別紙
監査簿ノ様式
表面

大正	年度
火藥類	取締監査簿
警察(分)	署名

内部

署長印	監督主	監査從	月	日	監	査	狀	況
	任者印	事者印						

〔山口書〕

●火藥類取締ニ關スル件

大正十一年四月十九日
保第四三五八號

各警察署長

火藥類取締ニ關シテハ例記其ノ他數次指示置候處今同其ノ筋ヨリ特ニ通牒ノ次第モ有之候條左記ニ依リ危險及盜難又ハ紛失豫防上ニ就キ當該業務擔當者ニ對シ嚴重警告シ且左記第一第二號ニ付テハ受書ヲ徵スル等一層嚴密取締ヲ爲シ密實其ノ他書用セラル、カ如キコトナキ様周到ナル注意ヲ拂ヒ以テ警察上遺策ナキヲ期セラルヘシ

- 一、火藥類ヲ消費スル者ニ對シテハ授受及收支ヲ明カニスル様法令ニ基キ必ス收支明細簿ヲ調製セシメ且一日ノ作業中數回支出スル場合ノ如キハ其支出ノ都度確實ニ明記セシムルコト
- 二、火藥類ノ消費場所ニ一日分ノ必要ナル火藥類ヲ小出スル場合ハ鎖鑰アル容器ニ收容シ出納ノ必要ナキ時間内ハ必ス鎖鑰ヲ施シ勞務者ノ自由ニ來往セサル相當安全ナル場所ニ藏置スルコト

第二編 保安 第四章 銃砲火藥類 其ノ他

●爆藥密移送ニ關スル件

大正十二年十二月十八日
保第一二六五七號

各警察署長

爆藥密移送及之カ仲介者又ハ密漁業者等ノ取締ニ關シテハ從來屢々指示置候處今同別紙ノ通り慶尚北道警察部長ヨリノ照會ニ依リハ近來朝鮮近海ニ於テ爆藥所持ノ密漁業者多ク其ノ出所ヲ內査スルニ山口縣下ノ炭礦等ヨリ密カニ移出セラレ下關方面ニ根據ヲ有シ不正漁業者ヲ相手トシ鮮魚ノ仲買

ニ從事スル發動機船ニ依リ運搬シ海上ニ於テ授受セラルル趣ニ候處右ハ炭
礦及工場等ニ於テ必要以外ノ火藥ヲ授受ケテ之ヲ全部消費セル如ク裝ヒ他
ハ密賣スルカ又ハ坑夫、土工等カ密ニ領得セルモノヲ他ヘ密賣スルニハ
非サルヤト思料セラルル現ニ住所氏名不詳ノ一男子カ火藥ヲ密カニ買取スル
目的ヲ以テ某工場ニ密行シタル形跡アルヲ以テ今後此等ノ取締ニ對シテ
ハ出所ト目セラル、炭礦等ノ事業ノ盛衰ヲ常ニ内査シ置キ火藥ノ消費量及
消費量ガ其當時使役セル坑夫ノ員數等ト對比計算シテ適當ナルヤ否ニ細心
ノ注意ヲ拂ヒ殊ニ炭礦山等ニシテ許可ヲ要セスシテ火藥ヲ授受ケル者ニ
對シテハ一層ノ内査ヲ要スルヲ以テ兼テ指示置候通リ火藥ノ消費地ト消費
地方其所轄ヲ異ニスル場合ハ出來得ル丈速ニ電話其ノ他ヲ以テ相互ニ通報
シ不突合ノ點ヲ發見セル際ハ直ニ之ヲ糾明シ且鐵業法ニ依リ火藥ノ試掘若
ハ探掘ノ登錄證ヲ他人ニ貸與シタル事實ナキヤ等ヲモ調査シ火藥ヲ不正ニ
授受ケ又ハ密移送等ノ事ナカラシムル様努力シ警察上遺策ナキヲ期セラル
ヘシ

追テ火藥ハ各所ヨリ下關市内外ヲ中心トシテ密送隱匿シ置キ機ヲ計ヒ發
動機船ニ積載セルモノ、如キヲ以テ字部下關(陸、水)各警察官署ニ於テ
ハ特ニ一層ノ努力ヲ盡シ火藥ノ出所ヲ調査シ且常ニ密移送ノ根據地(竹
崎町、新地、丸山町、細江海岸部一圓ヲ主トセルモノノ如シ)ヲ密偵シ
尙時々特別取締ヲ執行スル等最善ノ注意ヲ拂ヒ此等不逞徒ノ根絶ヲ期セ
ラルヘシ

(山口警)

大正十三年十二月十日
保第一三二八四號

各警察官署長宛

火藥ノ取締ニ關シテハ從來屢々指示セシ次第モ有之各其趣旨ニ基キ嚴重取
締中ノ事ト信スルモ近時道路ノ改修工事鐵道工事其他ノ工事ニシテ多量ノ
火藥類ヲ消費スルモノ漸次増加ノ趨勢ヲ示シ之等消費者ニシテ貯藏所ヲ設
置セサル場合ハ日々ノ消費量宛テ授受ケサルヘカラサルモノ之ヲ實行セスシ
テ一時ニ多量ノ火藥類ヲ授受ケ事務所内ニ貯置シ各受持丁場ヨリノ請求ニ
應ジ分配シ收支明細簿ニハ全部消費シタル如ク記載シ居ルモノ各受持丁場ニ
於テハ日々ノ消費量宛テ請求スルハ繁ニ堪ヘストナシ數日間分チ一時ニ請
求スルヲ以テ殘餘ノ火藥類ハ自然自己ノ納屋又ハ丁場等ノ許可ヲ得サル場
所ニ貯置シ居ルモノ火藥類授受ノ許可ヲ受ケタル者ハ其取扱貯藏消費火藥
類ノ有無等ニ付テハ全然開知セサルモノ、如キ事例有之右ハ土工等ニ對
シ自然積領領取等ノ機會ヲ容易ナラシメ延テハ不正漁業及密賣買等ヲ敢行
スルノ虞アルヲ以テ現在及將來ニ於テ多量火藥ヲ消費スル者ハ火藥類授受
許可申請ニ際シ豫テ左記事項ヲ遵守セシムル様指示方取計ラヒ警察上遺策
ナキヲ期セラルヘシ

記

- 一、多量火藥類授受許可申請ノ必要ヲ生シタルトキハ先ツ火藥類貯藏所設置
ノ手續ヲ爲スコト
- 二、火藥類ヲ取扱フヘキ責任者ヲ定メ其責任觀念ヲ自重セシムルト共ニ許
可申請書ニ住所氏名年齢ヲ記入スルコト
- 三、火藥類收支明細簿ヲ必ス調製シ各丁場ヨリ請求アリタルトキハ各丁場
ノ人夫數岩石軟硬及工場ノ難易等ヲ顧慮シ日々ノ必要數量以上ノ火藥
類ヲ支出セサルコト

第二編 保安 第四章 銃砲火藥類 其ノ他

手配相煩シ度及照會候也

●火藥類取締ニ關スル件

大正十三年一月十五日
保第三二四號

七九

各警察官署長宛

首標ノ件ニ關シテハ從來嚴重取締勵行中ノ處近時朝鮮近海ニ於テハ鯖魚期
ニ際シ火藥使用ノ密漁業者漸次勃興シ不當ノ利得ヲ夢ミ爲ニ種々口實ノ許
ニ火藥ノ授受ヲナシ又ハ火藥物ヲ試掘若ハ探掘登錄證ニ依リ必要以外ノ火藥
ヲ授受ケ又ハ火藥、坑山及工場ヨリ密カニ入手シ危險ヲ冒シテ之ヲ不正漁
業者ニ轉賣セントスル者頻出シ或ハ火藥類貯藏所ノ鎖鑰ヲ破壞シ貯藏セル
火藥ヲ窃取セル者アルヲ以テ之ヲ取締ニ關シ盜難豫防ニ在リテハ大正十一
年二月六日何第一三三六號ニ基キ警邏線路ノ巡視ヲ嚴重勵行シ尙鎖鑰ノ便
小ナルモノ又ハ銷朽若ハ脆弱ナリト認ムルモノハ此際堅牢(鐵錠ノ如キモ
ノ)ナルモノト取替ヘシメ且爾今火藥類授受許可ノ申請アリタル時ハ銃砲
火藥類取締法取扱心得第十條乃至第十三條ニ依リ外願人ノ性質素行平素
ノ交際狀態信用程度事業ニ對スル誠實數量ノ適否、消費場所現狀、貯藏所
ヲ有セサルモノハ消費場所ト火藥商トノ距離、授受先、授受ケタル火藥類
ヲ惡用シ又ハ密賣スル疑ヒノ有無ヲ詳細調査シ及火藥類ノ授受許可申請者
ニシテ其誠實數量火藥類ヲ自ラ使用セスシテ自己ノ使用人ニ消費セシム
ル場合ハ取扱心得第十四條ヲ勵行スヘキ様嚴重シ且使用人ノ素行調査ヲ爲
シ意見ヲ附シ副申セラルヘシ

●火藥類取締ニ關スル件

追テ其署限リ許可スヘキ火藥類ニ對シテモ前本文ニ準シ調査ノ上不都合
ナキモノト認ムルモノニ限リ許可セラルヘシ

(山口警)

大正十三年十二月十日
保第一三二八四號

各警察官署長宛

四、火藥類ヲ岩石掘鑿孔ニ填實スル際ハ必ス責任者ニ於テ之ヲ填實シ決シ
テ土工夫等ニ放任セサルコト

五、日々消費後ニ於テ殘火藥類ヲ生シタルトキハ必ス貯藏所ニ收納シ火藥
類取扱責任者ハ其都度收支明細簿ニ記入スルコト

●青年訓練所ニ於テ銃用空包製造
ニ關スル件 大正十五年十一月八日
保第一〇九六六號

各警察官署長宛

青年訓練所ニ於テ軍用銃砲ヲ授受ケル場合ニ就テハ本年十月八日付保第九
八五三號ヲ以テ及通知置候處同所令第四條規定ニ依リ訓練所ニ於テ軍事研
究ノ目的ヲ以テ銃用空包ヲ製造スル場合ハ銃砲火藥類取締法施行規則第二
條ノ三第五號ニ所謂學校ト看做シ同號規定ノ制限ニ從フ限リ別ニ製造許可
ヲ要セサルモノトシ又同令第三條ニ依リ訓練所ニ對シテハ公署ニ該當スル
ヲ以テ銃砲火藥類取締法令ノ適用無之モ本件ノ訓練所ニ於テ銃用空包ノ製
造ヲ爲ス場合ハ銃砲火藥類取締法第二條ノ三第五號ノ制限ヲ遵守セシムル
様措置セラルヘシ

●火藥類取締ニ關スル件

明治四十四年五月五日
保第六一八七號

各警察官署長宛

本件ニ關シ別紙甲號ノ通り伺出ニ對シ乙號ノ通り指示置候條及通知候也
(甲號)

火藥類取締法改正ハ本月一日ヨリ施行相成候處當署下ノ如キハ石割業ノ爲
メ火藥並導火線ノ授受許可申請續々有之同法施行規則第十八條ニハ導火線
許否無之尙同施行規則丙號様式中消費ノ日時欄ハ使用期間中ノ日數例ハ一

七九

夕月ノ使用期間トスレハ五月一日ヨリ同三十一日迄ト記入スルモノナルヲ
疑義ヲ生シ候條何分ノ御指示相成度候也

(乙號)

警察部長同答本月三日付ヲ以テ火藥類取締ニ關シ伺出ノ件ハ左記ノ通り心
得ラルヘシ

- 一、導火線ノ讓渡又ハ讓受ニ付警察官署ニ申請スルコトヲ得ルハ施行規則
第十七條規定ノ場合ニ限ル
- 二、石割事業ノ爲メ使用スル火藥類ノ讓渡又ハ讓受ハ施行規則第十五條ノ
所謂工事項目トシテ施行規則第十七條ノ適用ヲ受クヘキモノト認ム尤モ
石割ノ爲メ火藥類ヲ使用スルニ付テハ同則第三十八條ノ規定ニ依リ火
藥使用ノ許可ヲ受クヘキモノトス
- 三、消費ノ日時欄ニハ何月何日午前(午後)何時又ハ何時ヨリ何時迄ト記ス
ルモノトス但シ其ノ消費日時定マラサル場合ニハ意見ノ通り記載シ可
然ト認ム

●火藥類取締ニ關スル件

明治四十四年五月二十四日
保認第一六九號

各署長宛

狩獲免狀ヲ有スル者火藥類製造其他ノ件ニ關シ取扱上左記方法ニ依リ相當
措置相成度及通牒候也

- 一、火藥類ノ製造ニ關シテハ銃砲火藥類取締法第 條ノ規定モ有之候處狩
獲免狀ヲ有スルモノカ其狩獲用ノ爲メ並射の場合ニ於テ射的ヲ爲スモノ
カ演習ノ爲メ銃用實包ヲ製造スル場合ニ於テハ許可ノ手續ヲ省キ同法
施行規則第十八條ノ數量内ニ限リ默認セラルヘシ
- 二、銃砲火藥類製造業者又ハ販賣業者ニシテ銃砲火藥類ヲ輸出スル場合ニ

〔山口書〕

於テハ別ニ届出ヲ爲サシムル等ノ規定無之モ右ハ施行規則第十三條ニ
規定セルト同様ノ事項ヲ具シ輸出ノ都度少クトモ一週間前ニ輸出港ヲ
管轄スル廳府縣長官ニ届出ヘク當業者ニ示達セラルヘシ

- 三、施行規則第四十二條ニ依リハ青色試驗紙ヲ容器ノ内箱ニ入レ置クヘキ
規定ナルモ若シ其ノ容器内ノ各内箱ノ收容品カ悉ク同一製造年月日ノ
モノナル場合ニ於テハ各内箱毎ニ試驗紙ヲ入ル、ヲ要セズ其ノ一個ノ
内箱ニ入ル、ノミニテ差支ヘナク尙ホ之ヲ交換スル場合ニ於テハ同容
器内ニ於ケル他ノ内箱ニ入ル、モ差支ヘナシ若シ一容器内ニ製造年月
日ノ異リタル火藥類ヲ收容セル場合ニ於テハ其内ノ同一製造年月日ノ
モノニ就キ右ノ趣旨ヲ適用シ是亦差支ナシ從テ火藥類ノ製造年月日等
ヲ明ニスルノ必要有之候ニ付豫メ輸入ヲ爲スモノニ諭示シ其ノ製造元
ト交渉ヲ遂ケシメ製造年月日及製造所名ヲ記入セシムルコトニ取計フ
コト

●爆發質物品取締ニ關スル件

大正六年五月二十五日
保第五號

各署長宛

首標ノ件ニ付テハ本年四月二日付保第二一九號及本月十四日付保第四二〇
八號ヲ以テ指示セシ次第モ有之候處此等危險物上ニ關シ目下其筋ニ於テ
モ調査中ノ趣ニ有之候得共差懸リ左記各項ニ據リ相當措置セラルヘシ

- 一、鹽素酸曹達ヲ木綿又ハ紙袋ニ入レ木製樽詰トナセルモノアリ之レ等可
燃物ノ鹽素酸曹達ニ接觸セルハ危險ナルヲ以テ急速金屬製容器ニ詰メ
替ヘテ爲サシムルコト
- 二、鹽素酸曹達ハ甚ダシキ吸濕性ナルヲ以テ其ノ溶液ノ布又ハ木質ニ浸潤

〔山口書〕

ヘシ

記

- 一、鐵山炭鐵其ノ他ニ於テ有煙火藥ヲ使用スルニ當リ其ノ使用及取扱ヲ便
ナラシムル爲メ藥粒ヲ小紙囊ニ填塞スル場合ニハ其量壹日壹貫參百匁以
内ニ限リ默認シ同數量ヲ超過スル場合ニ於テハ銃砲火藥類取締法第二
條ニ依リ普通火工品製造トシテ行政官廳ノ許可ヲ受ケシムルコトヲ要
ス
- 二、銃砲火藥類取締法施行規則第二十一條ニ依リ行政官廳ノ許可ヲ要セス
シテ火藥類ヲ讓受ケル者ハ壹日ノ讓受數量ニ於テ同則第十七條規定ノ
數量ヲ超過セシメサルコトヲ要ス
- 三、有害鳥獸驅除及威銃ノ許可ヲ受ケタル者ニシテ其ノ所要ノ銃實包及空
包ヲ製造スル場合ニハ銃砲火藥類取締法第二條ニ依リ火工品製造トシ
テ行政官廳ノ許可ヲ受ケシムルコトヲ要ス

●遺失彈丸取扱方ニ關スル件

明治三十四年二月十八日
訓警甲第一二號

各署長宛

大砲彈ノ不發彈ハ頗ル危險ニシテ荷モ之レニ接觸スヘカラサルモノニ有之
候處從來軍隊力演習其他ノ場合ニ於テ遺漏セシ未發ノ砲彈ヲ拾ヒ或ハ無心
ニ接觸シタルカ爲メ往々悲慘ノ死傷ヲ招キタル例不尠殊ニ三十一年式速射
野山砲榴彈ノ如キハ殊ニ爆力極メテ猛烈ニシテ頗ル危險ノモノニ有之今後
各師團ノ砲兵隊ニ於テ漸次之レヲ發射スルコトニ相成候ニ付テハ便宜一般
ニ注意ヲ與ヘ且ト射擊ヲ行フ軍隊等ト打合セ不測ノ災害ニ罹ル者ナキ様嚴
重警戒セラルヘシ

●火藥類取締ニ關スル件

大正七年十一月二十七日
保第一〇六七六號

各署長宛

標記ノ件ニ關シ其ノ筋ヨリ通牒ノ次第モ有之候條其ノ署下ニ於ケル火藥類
販賣業者及火藥類消費者等ニ對シ左記各項示達ノ上取締方嚴重勵行セラル

●外國軍艦水雷發射演習施行申出
二關スル件

外國軍艦ヨリ帝國領海内ニ於テ發火並ニ水雷發射演習施行等申出ルトモ都テ拒絕ノ方針ニ付右ノ旨意ニヨリ措置スヘシ
明治三十六年六月二十四日
山口縣訓令保第二十二號
各署長宛

●火藥類收容用外箱ニ使用セル釘
二關スル件

銃砲火藥類取締法ニ依リ凡テ火藥類ニ鐵類ノ接觸スルヲ嚴禁セルハ勿論ナルモ尙ホ之ヲ收容セル外箱ニ使用セル釘ニ關シテモ鐵釘及亞鉛鍍金ノ剥脫セル鐵釘ヲ使用スルハ危險有之且其ノ筋ヨリ通牒ノ次第モ有之候條右外箱用ニ釘ヲ使用スル場合ニ於テハ其打込ノ際亞鉛鍍金剥脫ノ虞ナキ強固ナルモノヲ使用セシムルハ差支無之モ可成安全ナル眞鍮釘ヲ使用セシムル様取計ヲハルヘシ
大正元年八月十二日
保第二〇七號
各署長宛

●爆發質物取締ニ關スル件

大正六年七月六日
保第五二四〇號

何月分爆發月表 年 月 日

名稱	區別	製造所名	製造後二年ヲ經過セルモノ	製造後二年ヲ經過セルモノノ不明	同以上以外ノ爆發ニシテ試驗紙ニ異狀ヲ認メタルモノ	所有者住所氏名
硝酸アンモニア 主トスル爆發藥						
硅藻土質ダイナマイ						

〔山口書〕

別紙ノ通り通牒有之候條取締上知セラルヘシ

別紙

一、鹽素酸加里ハ鹽素酸曹達ノ如ク吸濕性大ナラサルモ其ノ金屬ト接觸セル場合ニ於テ之ニ點火スルモ燃燒困難ナルニ拘ラス木材ト接觸セル場合ニ於テハ急劇猛烈ナル燃燒ヲ爲スヘキ性質アルハ何等カノ機會ニ於テ水分ヲ吸收スルコト可有之斯ル場合ニ於テハ鹽素酸曹達ニ於ケル木製容器ト同様摩擦衝擊ニ對シ銳敏ナル危險物ヲ構成スヘク殊ニ其ノ内裝ヲ防濕劑ヲ施シタル紙又ハ布ノ類トスルハ防濕劑ノ種類ニ依リテハ却テ爆發性混合物ヲ作り危險ヲ増大ナラシムルモノナレハ之ヲ完全ナル罐詰ト爲スハ危險豫防上最モ必要ナル措置ト相認メ候條可然御了知相成度候

●火藥類月報ニ關スル件

大正七年二月十六日
保第一四九八號

大正二年八月九日付保第二一四五號ニ對スル別表ハ之ヲ廢シ爾今左ノ様式ニ據リ報告セラルヘシ
各署長宛

警察官署

〔山口書〕

品質ダイナマイト	無煙火藥 (獵用ヲ含ム)	棉火藥(塊狀、粉狀)	其他ノ爆發藥	備考
				製造後二年ヲ經過セルモノノ及製造後二年ヲ經過セルモノノ又ハ製造年月不明ノモノニ對スル處置方法ヲ備考欄ニ記入ノコト其他參考事項

●火藥類月報ニ關スル件

大正二年八月九日
保第二一四五號

其署管内ニ於ケル火藥類ニ關シ別紙該當ノモノヲ爾後毎月調査ノ上翌月五日限リ報告セラルヘシ
各署長宛
(別表省略)

●セルロイド原料樟腦ノ件

大正八年五月十日
保第三二八一號

セルロイド製造ノ爲メニ消費スル樟腦ノ産額ハ其需用ニ伴ハサルモノアルヲ以テ目下其ノ筋ニ於テモ之レカ配給ニ就キ常ニ周到ノ考慮ヲ拂ハル、趣ナルモ其ノ需給ニ關シテハ別紙通牒ノ次第モ有之候條此際新ナル「セルロイド」ノ製造企業者ニ對シテハ豫メ右ノ趣旨ヲ示達シ以テ其ノ需給ノ圓滑ヲ計ルヘク相當注意セラルヘシ
各署長宛

第二編 保安 第四章 銃砲火藥類 其ノ他

●銃砲火藥類ニ關スル事故報告方

大正九年十一月二十五日
保第一二九九七號

銃砲火藥類ノ密造密賣及密輸出入ヲ發見シタル場合又ハ盜難、遺失、紛失、流失、拾得爆發其ノ他荷モ警察上參考トナルヘキ事故發生ノ場合若ハ新聞紙上ニ右等ニ關スル關係記事ノ掲載セラレタル場合ニ於テハ左記事項

各署長宛

別紙

セルロイド製造ノ爲メ消費スル樟腦ハ其ノ産額需用ニ伴ハサルモノアルヲ以テ新規出願ニ係ル「セルロイド」製造許可ノ場合ニ於テハ可成之レカ許可條件トシテ專賣局ノ樟腦供給認可ヲ要スルコト、シ度萬一右差支アルニ於テハ樟腦供給ノ能否ニ付豫メ專賣局ト打合ノ上許否アリ度旨別紙ノ通牒總督府民政長官ヨリ照會有之候ニ付右趣旨ニ基キ相當御措置相成候様致度候
(別紙省略)

ナ可成詳細ニ調査ヲ遂ケ具體的ニ急速報告セラルヘシ

- 一、事故ノ種別
- 二、事故發生ノ年月日時及場所
- 三、事故發生ノ原因
- 四、事實ノ顛末
- 五、犯人捜査ノ狀況
- 六、其ノ他

●爆發物漁業取締ノ件

大正九年十一月三十日
保第一三一七六號

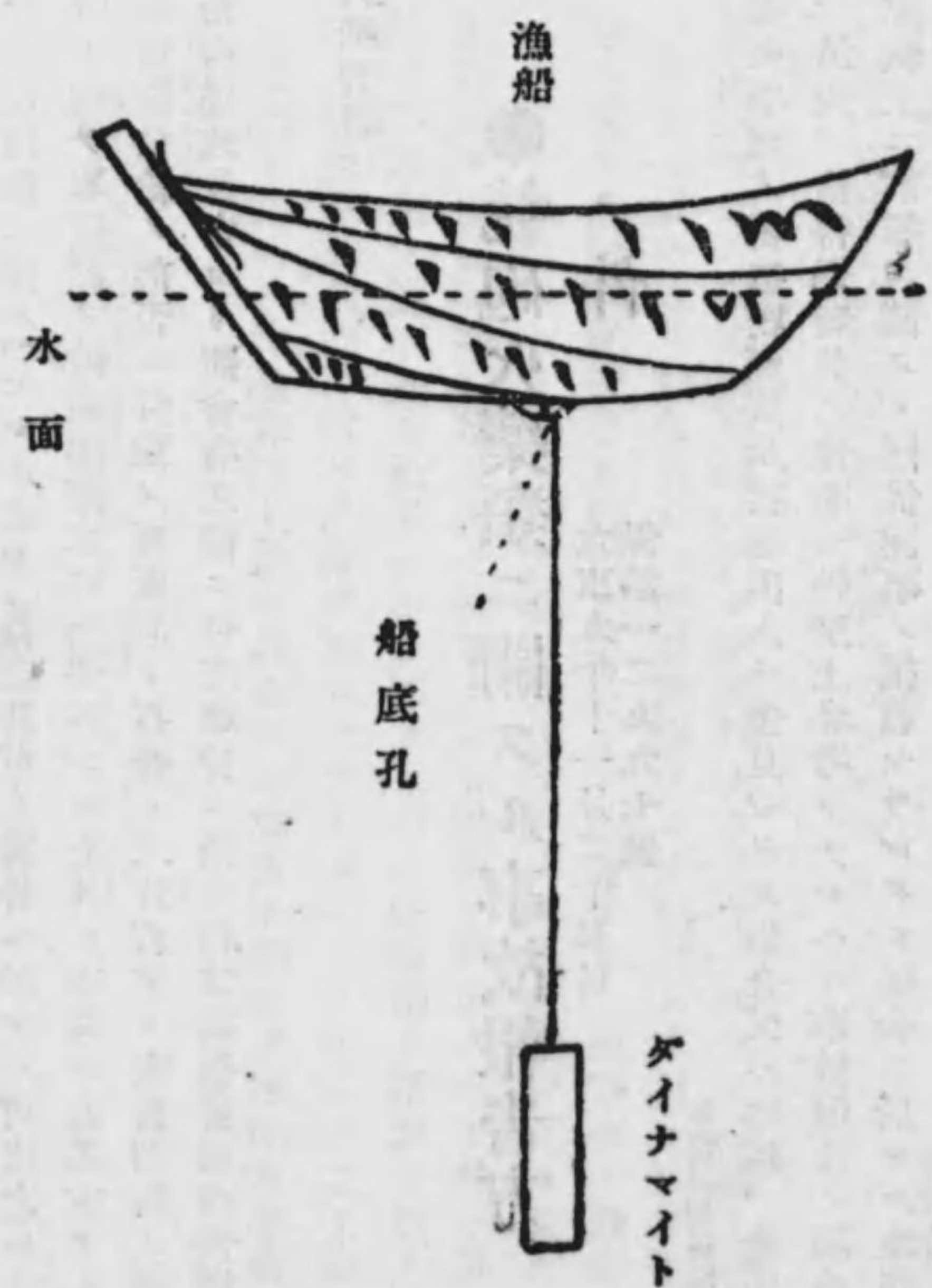
沿海各警察署長宛

寄漁者ノ「ダイナマイト」取扱ニ關シテ「トロール」汽船監視有馬嘉次郎ノ探知報告ニ係ル左記要領農商務省水産局漁政課長ヨリ通牒有之候條爆發物漁業取締上参考ニ表セラルヘシ

記

一、「ダイナマイト」密漁中監視船ノ臨檢ヲ受ケル場合ハ漁船ノ外部ヨリダイナマイトヲ括リ下ケ其ノ括リ紐ヲ船底ニ設ケアル小孔ニ持テ來リ押栓ヲ以テ壓シ付ケ海中ニ釣シ臨檢者ノ決シテ發見セサル様巧ニ隠蔽シ居レリ

〔山口警〕



●銃砲火藥類販賣業者證明書ノ件

昭和二年三月八日
保第二五三八號

標記ノ件ニ關シ左記ノ通り警保局長ヨリ通牒有之候條取締上遺策ナキチ期セラルヘシ

記

青森縣弘前警察署長ノ證明セル銃砲火藥類販賣業者タルノ證據ヲ入手シ此ノ證明書ヲ惡用シテ廣島縣下ノ銃砲火藥類販賣業者ヨリ拳銃二百挺ヲ不正ニ讓受ケタル事件ニ關シテハ客年四月二十日付保司第三二七九號ヲ以テ廣島縣知事ヨリ報告有之候處右ハ犯人カ青森縣弘前市ノ銃砲火藥類販賣業者

〔山口警〕

ニ對シ火藥類ノ取引狀況調査上必要ノ故ヲ以テ所轄警察署ノ證明書貸與方ヲ要請シ右販賣業者ハ其ノ請託ヲ容レ所轄弘前警察署長ヨリ火藥類販賣業者タルノ證明書ヲ受ケ之ヲ犯人ニ交付シタル爲事犯ヲ生シタル趣ニ有之本件ノ如ク警察署長ノ證明書ニ依リ銃砲火藥類ノ不正授受ノ行ハレ候ハ寔ニ遺憾ノ義ニ存候間特別ノ必要ナキ限リ將來此ノ種ノ證明行爲ヲ爲スカ如キコトナキ豫御配慮相度右申進候

第二節 煙火緩燃導火線

●煙火緩燃導火線取締規則

昭和二年一月十八日
山口縣令第七號

煙火及緩燃導火線ノ通定ム

煙火及緩燃導火線取締規則

- 第一條 本則ニ依リ當廳ニ提出スヘキ書類ハ所轄警察署ヲ經由スヘシ
- 第二條 煙火及緩燃導火線ノ製造、販賣並取扱ニ關シテハ別ニ規定アルモノノ外本則ノ定ムル所ニ依ル
- 第三條 第一條ニ依リ提出スヘキ書類ニハ所定事項ノ外、本籍、住所、氏名、年齢、法人ニ在リテハ其ノ名稱、事務所々所在地及代表者ノ住所氏名ヲ具スヘシ
- 第四條 煙火及緩燃導火線ハ本則ニ依リ許可ヲ受ケタル貯藏所ノ外之ヲ貯藏スルコトヲ得ス但火藥類貯藏所ニ貯藏スル場合及打揚ノ爲讓受ケタル煙火ヲ警察署ノ認可ヲ受ケ一時貯藏スル場合ハ此ノ限リニアラス
- 第五條 煙火及緩燃導火線貯藏所ノ設備ハ左ノ各號ノ制限ニ從フヘシ
 - 一、煉瓦造又ハ土藏造ノ平屋建トシ周圍ニハ二米突(一間強)以上ノ空地ヲ保有スルコト
 - 二、貯藏所ノ外面ハ不燃質物ヲ用キテ被覆スルコト
 - 三、屋根ハ瓦又ハ輕量ナル不燃質物ヲ用ユルコト
 - 四、貯藏所ノ内壁ハ土砂ノ剝落ヲ防止シ得ヘキ裝置ヲ爲シ棚ヲ設ケサルコト
 - 五、床ハ密ニ張り話メ床下ハ地面ヨリ一尺以上ノ空隙ヲ保有スルコト
 - 六、扉ハ堅固ニシテ外面ニハ不燃質物ヲ用キ堅牢ナル鎖鑰ヲ施スコト

- 七、内部ニハ鐵類ヲ露ハササルコト
- 八、貯藏所ノ境界ニハ適當ナル圍墻ヲ設ケルコト
- 第六條 煙火及緩燃導火線ノ貯藏所ヲ新設セムトスルモノハ左ノ各號ヲ具シ當廳ニ願出許可ヲ受クヘシ其ノ改築、修繕、模様替ノ工事ヲ爲ストキ亦同シ
- 一、貯藏所ノ位置及周圍百十米突(一町強)以内ノ地物ヲ表示シタル圖面
- 二、構造仕様書及縮尺ヲ付シタル縱橫斷面圖並建物配置平面圖
- 三、貯藏スヘキ火工品ノ種類及最大數量
- 四、工事落成期日
- 五、貯藏所ノ敷地力他人ノ所有ニ係ル時ハ所有者ノ承諾書
- 第七條 煙火及緩燃導火線ノ作業所ニハ銃砲火藥類取締法施行規則第三十三條及同法施行細則第二十六條ノ規定ヲ準用ス但必要ナシト認メタルモノニ對シテハ一部ノ省略ヲ許可スルコトアルヘシ
- 第八條 工事ヲ竣リタル貯藏所及作業所ハ當廳ノ検査ヲ受ケルニ非ラザレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス
- 貯藏所及作業所ノ新築、増築、改築、修繕、模様替ノ許可ヲ受ケテ正當ノ事由ナク許可ノ日ヨリ六ヶ月以内ニ工事ニ著手セス又ハ竣工期日ヲ經過スルモ尙ホ竣工ノ見込ナキトキハ其ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ
- 第九條 煙火及緩燃導火線ノ製造販賣ノ業ヲ營マムトスルモノハ銃砲火藥類取締法施行規則第二條第一項ノ外左ノ各號ヲ具シ當廳ノ許可ヲ受クヘシ
- 一、作業所、貯藏所、販賣所ノ位置
- 二、製作ニ要スル原料藥名及配合分量
- 三、製作ニ要スル原料火藥及爆藥ノ一日間ノ最大消費數量
- 四、作業規程

〔山口警〕

- 五、作業主任者ノ住所、氏名、履歷書及免狀ノ寫
- 六、作業所ノ敷地力他人ノ所有ナルトキハ所有主ノ承諾書
- 七、敷地(建物ヲ含ム)ノ周圍四百米突(四丁)以内ノ見取圖
- 第十條 玩具用普通火工品ノ製造販賣ヲ爲サムトスル者ハ左ノ各號ヲ具シ當廳ニ願出ツヘシ
- 一、本籍、住所、氏名、生年月日
- 二、販賣所ノ位置
- 三、作業所ノ位置及構造
- 四、製作品ノ種類及名稱
- 五、製作ニ要スル藥品名及配合量並作業手續
- 六、一日間ニ於ケル消費火藥類ノ種類數量
- 七、製作ニ要スル火藥類調達ノ方法
- 八、作業主任者ノ住所氏名及履歷
- 玩具用普通火工品ニシテ火災其ノ他ノ危險又ハ公安風俗ヲ害スル虞アリト認ムルトキハ其ノ製造及販賣ヲ禁止スルコトアルヘシ
- 第十一條 煙火及緩燃導火線製造及販賣營業ノ許可ヲ受ケタル後許可申請書ニ具シタル事項ヲ變更セムトスルトキハ更ニ當廳ノ許可ヲ受クヘシ但住所、氏名其ノ他身分ニ異動ヲ生タルトキハ異動發生ノ日ヨリ七日以内ニ當廳ニ願出ツヘシ
- 第十二條 煙火ノ請賣營業ヲ爲サムトスルモノハ左ノ各號ヲ具シ當廳ノ許可ヲ受クヘシ
- 一、本籍、住所、氏名、生年月日
- 二、販賣所ノ位置
- 三、貯藏所ノ位置及構造圖面
- 第十三條 煙火及緩燃導火線ノ貯藏所ニハ左ノ各號ヲ適用ス

〔山口警〕

- 一、煙火及緩燃導火線ノ外他ノ物品ヲ貯藏スルコトヲ得ス
- 二、貯藏所敷地内ニ於テ喫煙其ノ他火氣ヲ使用スコトヲ得ス但携帯電燈ヲ用フルハ此ノ限リニアラス
- 三、現在貯藏品ノ種類數量ヲ明記シタル標札ヲ揭示スヘシ
- 第十四條 煙火及緩燃導火線ノ製造ニ要スル建設物ヲ他人ニ讓渡セムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シ當事者双方連署ノ上當廳ニ願出ツヘシ
- 第十五條 煙火ノ打揚(仕掛煙火ヲ含ム)ヲ爲サムトスルトキハ左ノ各號ヲ具シ打揚地所轄警察署ノ許可ヲ受クヘシ
- 一、出願者ノ住所氏名
- 二、打揚ノ事由
- 三、種類及員數
- 四、日時及場所並附近ノ略圖
- 五、打揚ニ要スル火藥類調達ノ方法
- 第十六條 警察署ハ天候其ノ他ノ原因ニ依リ危險ト認メタルトキハ許可シタル煙火ノ打揚ヲ停止シ又ハ許可ヲ取消スコトアルヘシ
- 第十七條 煙火及緩燃導火線ノ製造販賣及煙火請賣業者ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ事由發生ノ日ヨリ十日以内ニ當廳ニ願出ツヘシ
- 一、轉居又ハ改氏名シタルトキ
- 二、廢業又ハ事業ヲ休止シタルトキ

〔別紙〕

何年度 (表面)

煙火「緩燃導火線」製造明細簿

(内部) 製造ノ部

第二編 保安 第四章 銃砲火藥類 其ノ他

製造業者 何 某

- 三、休止中ノ事業ヲ開始シタルトキ
- 第十八條 前條ノ營業者死亡シタルトキハ戶籍法上ノ届出義務者ヨリ許可指令書ヲ添付シ十日以内ニ當廳ニ願出ツヘシ
- 第十九條 第十七條ノ營業者ハ別紙様式ニ據ル帳簿ヲ調製シ其ノ收支ヲ明カニスヘシ
- 第二十條 第四條、第六條第一項、第八條第一項第九條、第十條第一項乃至第十五條、第十七條乃至第十九條ノ規定ニ違反シ又ハ第十六條ノ規定ニ基ク警察署ノ命令ニ背キ煙火ノ打揚ヲ爲シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス
- 第二十一條 銃砲火藥類取締法第二十條及同第二十一條ノ規定ハ本則ニ之ヲ準用ス

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
 本令發布前ニ已ニ製造販賣及請賣營業ノ許可ヲ受ケタルモノハ本令ニ依リ許可ヲ受ケタルモノト見做ス但作業所及貯藏所ニ於テ本則ニ適合セザルモノハ昭和二年六月三十日迄ニ改造スヘシ
 明治二十年十月縣令第一一三號煙花製造販賣打揚ヲナサムトスルモノ出願又ハ届出ノ件ハ之ヲ廢止ス

製造年月日	種類	製造量	種類	製造量	備考
-------	----	-----	----	-----	----

讓渡年月日	讓渡種類	讓渡数量	住讓所氏名	備考
-------	------	------	-------	----

注意 製造ト讓渡トハ坐分ナシ一冊トナスコト
何年度 (表面)

煙火請賣明細簿

(内部) 讓受ノ部

讓受年月日	種類	数量	住讓所氏名	備考
-------	----	----	-------	----

讓渡年月日	種類	数量	住讓所氏名	備考
-------	----	----	-------	----

注意 讓受、讓渡ハ坐分ナシ一冊トナスコト

(山口書)

何年度 (表面) 原料藥品明細簿

讓受年月日	種類	数量	住讓所氏名	先名	消費年月日	消費数量	現在高備	備考
-------	----	----	-------	----	-------	------	------	----

(山口書)

製造業者 何 某

●砲祝爆竹打揚ニ關スル件

大正十三年十一月二十一日 保第八〇九〇號

注意 各種毎ニ座分ナシ一冊トナスコト
厚狭郡出合村煙火販賣業者森岡爲次ノ販賣ニ係ル砲祝爆竹ハ普通煙火トシテ取締ヲ要スル程度ニ在ラサルモ爆發性ヲ有スルヲ以テ打揚ニ際シテハ打揚ノ目的、箇數、場所等テ口頭若ハ書面ヲ以テ届出テシメ危險豫防上相當取締セラレヘシ

●煙火打揚火藥ニ關スル件

大正十四年二月二十五日 保第二一五九號

注意 各種毎ニ座分ナシ一冊トナスコト
煙火打揚火藥ニ關シテハ從來煙火ト打揚火藥トナ分離シテ使用スル場合ハ火藥類讓受許可ヲ要スル事ニ取扱ヒ來リ候處今同警保局長ヨリ左記通牒有之候條取締上注意セラレヘシ

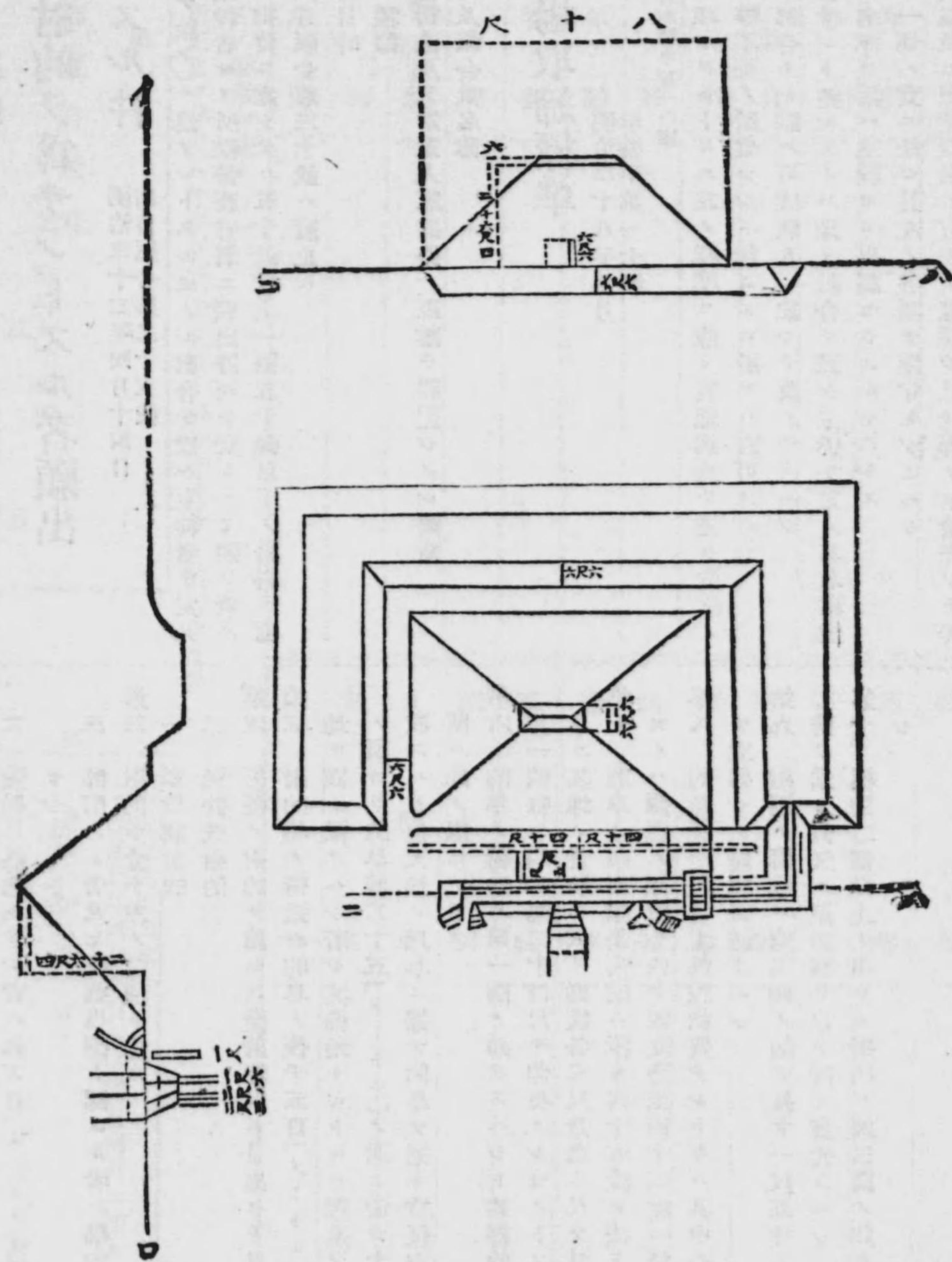
●煙火爆發災害ニ關スル件

昭和三年四月八日 保第三三三〇號

早打競技用煙火ノ打揚火藥ハ煙火ト一體ナシ之ヲ分離セスシテ使用スルモノナルヲ以テ其讓受ニ付別ニ許可ヲ要セサル義ニ有之候得共其他ノ煙火ニ就テハ打揚火藥ニ之ニ附著シテ特ニ煙火ト一體ヲ爲サシメタル場合ト雖モ其用法上打揚火藥ヲ分離シテ使用スルモノニ在リテハ右打揚火藥ノ讓受ニ關シ別ニ行政官廳ノ許可ヲ要スヘキ義ニ有之候條御參考迄右申進候

標記ノ件ニ關シテハ客年十月六日保第一二六八一號ヲ以テ煙火打揚及製造業者ノ藥品配合並ニ取扱等ニ際シ不注意ニ基ク爆發災害防止ニ付萬全ノ注意ヲ促スヘク指示置候處依然各地ニ此ノ種ノ災害發生シ生命財產等ヲ傷害シ最近ニ於テハ本年三月十五日東京府下北豐島郡ニテ煙火半成品ノ自然發火ニ依リ人畜及建造物ニ多大ノ損害ヲ蒙ラシメタル事例モ有之候條其署下ニ於テ煙火ノ打揚チナス場合ニハ打揚火藥ノ過量及打揚使用中筒内ノ掃除不充分ナルモノ等ヲ戒メ尙特ニ煙火製造業者(目下三田尻警察署管内ノミ)

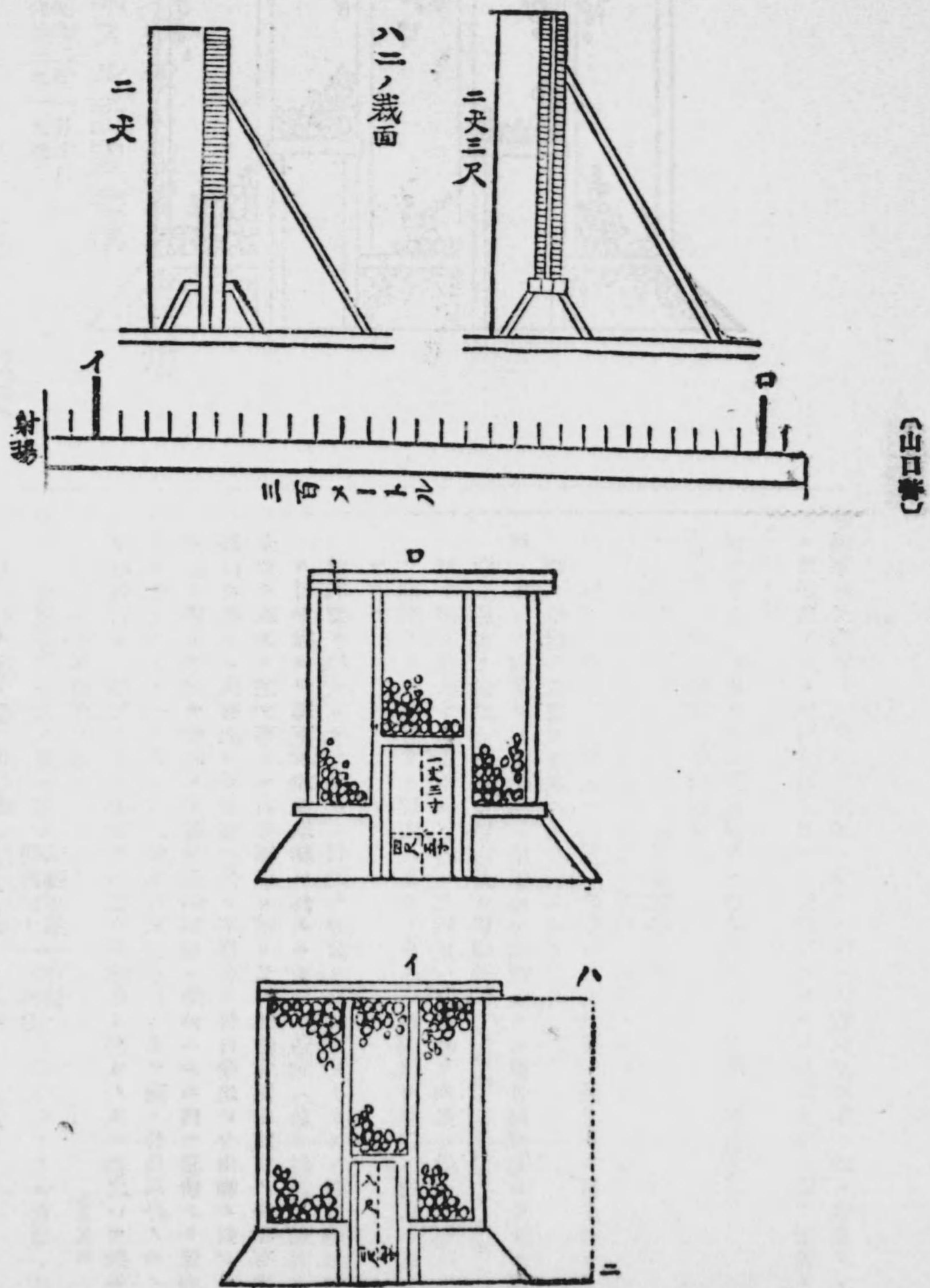
第一圖 的卓
小銃的卓四分一ノ圖



〔出口管〕

第二圖

ロハ的卓前
二十五メー
トルノ所ニ
建設スルモ
ノトス
イハ射場ヨ
リ十五メー
トルノ所ニ
建設スルモ
ノトス
イロ間ノ射
門ノ高サハ
「イロ」ノ射
門ニ準シ適
宜タルヘシ



〔出口管〕